

令和 2 年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

試掘調査

堀口遺跡 (第 31・33・35 次)

石高遺跡 (第 13 次)

峪遺跡 (第 2 次)

浅井内遺跡 (第 4 次)

相対遺跡 (第 4 次)

高野富士山遺跡 (第 13 次)

市毛下坪遺跡 (第 20 次)

三反田古墳群 (第 4・5 次)

磯崎東古墳群 (第 13 次)

中曽根遺跡 (第 2 次)

平井遺跡 (第 4・5・6・7 次)

松原遺跡 (第 8 次)

岡田遺跡 (第 37・38 次)

東原遺跡 (第 10 次)

東石川新堀遺跡 (第 5 次)

市毛上坪遺跡 (第 31・32 次)

部田野富士山遺跡 (第 1 次)

老ノ塚古墳群 (第 1・2 次)

上馬場遺跡 (第 6 次)

飯塚前遺跡 (第 3 次)

寄居新田古墳群 (第 5 次)

本調査

三反田新堀遺跡 (第 20 次)

市毛上坪遺跡 (第 30 次)

堀口遺跡 (第 32・34 次)

高野富士山遺跡 (第 14 次)

2021



1 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 1 号住居跡



2 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 1 号住居跡出土墨書土器「田依」

序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約 16 万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高 30 m 前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約 13 km の海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、三百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありますが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様にも心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

ひたちなか市教育委員会
教育長 野 沢 恵 子

例 言

- 1 本書は、令和2年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、令和2年1月から12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、堀口遺跡、石高遺跡、峪遺跡、浅井内遺跡、相對遺跡、高野富士山遺跡、市毛下坪遺跡、三反田古墳群、磯崎東古墳群、中曽根遺跡、平井遺跡、松原遺跡、岡田遺跡、東原遺跡、東石川新堀遺跡、市毛上坪遺跡、部田野富士山遺跡、老ノ塚古墳群、上馬場遺跡、飯塚前遺跡、寄居新田古墳群の計21遺跡について、30件の試掘・確認調査を実施し、三反田新堀遺跡、市毛上坪遺跡、堀口遺跡、高野富士山遺跡の計4遺跡について、5件の本調査を実施した。調査期間等は2～3頁一覧表のとおりである。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理 事 長	渡邊 政美	
副 理 事 長 兼 事 務 局 長	須藤 雅由	
理 事	雨澤 正 山形 由美子 杉山 和子 大和田 健 綱川 正 米川 央洋 井上 亨 海埜 敏之	
監 事	北原 祐二 安 智範	
文 化 課 文 化 財 調 査 事 務 所	課 長	小泉 裕
	所 長	佐々木 義則
	係 長	稲田 健一
	主 事	田中 美零
	嘱 託	齋藤 和佳子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。
調査員：田中美零、佐々木義則、稲田健一
調査補助員：青木千歌子、海野輝雄、海老原四郎、小貫栄子、海後晴美、中嶋順子、廣水一真、矢野徳也、渡辺恵子
- 5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。
稲田健一、小貫栄子、菊池順子、桐嶋美子、後藤みち子、齋藤和佳子、佐々木義則、佐藤富美江、鈴鹿八重子、鈴木素行、田中美零、照沼沙保里、西野陽子、矢野徳也
- 6 本書は、佐々木義則が編集した。
- 7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。
田中美零・鈴木素行（弥生時代以前の遺物） 稲田健一（古墳時代の遺物） 矢野徳也（岩石同定） 佐々木義則（左記以外）
- 8 弥生時代以前の資料は、鈴木素行氏にご指導いただいた。
- 9 遺構の略号の意味は次の通りである。 SK：土坑，P：ピット，SD：溝跡，K：攪乱，T：トレンチ
- 10 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 11 本書の作成にあたっては、次の方々にご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）
雨澤光枝 磯崎友市 板林勇氣 海老澤せつ子 大内恵理子 大内嘉門 大嶋厚史 大塚忠雄 大塚宣明 小川徳子 オフィスエイト株式会社
鹿志村大作 株式会社AKIYAMA 株式会社エムズ・エステート 株式会社鴨川建材 川崎純徳 河野和磨 河野理香 菊池健治 菊池隼人
香陵住販株式会社 小林敬佑 小林美佳 五位潤裕 近藤望 近藤正視 斎藤大明 嶋田よね子 清水勝利 清水三千代 清水よしえ 神保麻美
杉田和則 鈴木健太 砂押孝治 砂押将太 砂押利充 セイウン開発株式会社 園部修司 大和ハウス工業株式会社 高橋勝治 高橋登美子
武石尚文 飛田武義 滑川卓也 新妻拳介 西野好海 一建設株式会社 塙一弘 平野竜一 平野亮輔 藤田智史 ベニヤ商事株式会社 堀口瑞穂
前嶋潔 松岡宏剛 松岡真奈美 宮内丈史 村瀬徹 横須賀良 渡會康貴
- 12 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総 務 課 文 化 財 室	課 長	一木 宙
	文 化 財 室 長	千葉 美恵子
	主 事	照沼 沙保里 森田 徹

目次

I	概要	1	17	部田野富士山遺跡	26
				(1) 第1次調査報告	26
II	試掘調査報告	4	18	老ノ塚古墳群	27
1	堀口遺跡	4		(1) 第1・2次調査報告	27
	(1) 第31次調査報告	4			
	(2) 第33次調査報告	11			
	(3) 第35次調査報告	11			
2	石高遺跡	12	19	上馬場遺跡	28
	(1) 第13次調査報告	12		(1) 第6次調査報告	28
3	峪遺跡	12	20	飯塚前遺跡	28
	(1) 第2次調査報告	12		(1) 第3次調査報告	28
4	浅井内遺跡	13	21	寄居新田古墳群	29
	(1) 第4次調査報告	13		(1) 第5次調査報告	29
5	相対遺跡	14	III	本調査報告	30
	(1) 第4次調査報告	14	1	三反田新堀遺跡第20次調査報告	30
6	高野富士山遺跡	14		(1) 調査の経過	30
	(1) 第13次調査報告	14		(2) 竪穴遺構	31
7	市毛下坪遺跡	15		(3) 調査区出土遺物	35
	(1) 第20次調査報告	15	2	市毛上坪遺跡第30次調査報告	36
8	三反田古墳群	16		(1) 調査の経過	36
	(1) 第4次調査報告	16		(2) 住居跡	36
	(2) 第5次調査報告	16		(3) 土坑	38
9	磯崎東古墳群	18		(4) 調査区出土遺物	38
	(1) 第13次調査報告	18	3	堀口遺跡第32次調査報告	41
10	中曽根遺跡	18		(1) 調査の経過	41
	(1) 第2次調査報告	18		(2) 住居跡	41
11	平井遺跡	19	4	堀口遺跡第34次調査報告	47
	(1) 第4・5・7次調査報告	19		(1) 調査の経過	47
	(2) 第6次調査報告	20		(2) 住居跡	47
				(3) 溝跡	49
12	松原遺跡	21		(4) 地下式坑	51
	(1) 第8次調査報告	21		(5) 土坑	51
13	岡田遺跡	21		(6) 調査区出土遺物	51
	(1) 第37次調査報告	21	5	高野富士山遺跡第14次調査報告	53
	(2) 第38次調査報告	22		(1) 調査の経過	53
14	東原遺跡	23		(2) 住居跡	53
	(1) 第10次調査報告	23		(3) 調査区出土遺物	56
15	東石川新堀遺跡	24			
	(1) 第5次調査報告	24			
16	市毛上坪遺跡	26			
	(1) 第31次調査報告	26			
	(2) 第32次調査報告	26			

I 概要

ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積99.96 km²、人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し、茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。令和2年は、21カ所の遺跡において試掘調査30件、4カ所の遺跡において本調査5件が実施され、三反田新堀遺跡における弥生時代住居跡や、堀口遺跡における奈良・平安時代住居跡等の成果を得ている。



第1図 調査遺跡の位置

第1表 令和2年市内遺跡発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	みたらんどしんぼりいせき 三反田新堀遺跡	20次	三反田字新堀 5233番1	1月7日～21日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	34㎡	32㎡	竪穴遺構1基(弥生)	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器
2	ほりぐちいせき 堀口遺跡	31次	堀口字塙坪12番 1ほか	1月9日～ 2月4日	宅地造成	試掘	佐々木 田中	3,209㎡	259㎡	住居跡35基(弥生6, 古 墳17, 奈良・平安8, 時 期不明4), 溝跡1条, 土坑26基	弥生土器, 土師器, 須恵器, 陶器
3	いちげかみつぼりいせき 市毛上坪遺跡	30次	市毛字上坪1209 番5	1月21日～ 2月12日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	126㎡	77㎡	住居跡4基(弥生1, 古墳3) 土坑3基	弥生土器, 土師器
4	いしだかいせき 石高遺跡	13次	武田字原前858 番	1月29日～2月 7日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	374㎡	41㎡	なし	なし
5	ほざまいせき 峪遺跡	2次	三反田字峪4117 番3	2月4～6日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	481㎡	54㎡	なし	なし
6	ほりぐちいせき 堀口遺跡	32次	堀口字塙坪42番 9	2月18日～ 3月11日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	41㎡	39㎡	住居跡3基 (奈良・平安2, 時期不明1)	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品, 馬歯
7	あさいうちいせき 浅井内遺跡	4次	道メキ12999番	3月11～17日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	376㎡	45㎡	なし	なし
8	ほりぐちいせき 堀口遺跡	33次	堀口字久保坪 189番1ほか	5月12～19日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	752㎡	23㎡	なし	なし
9	あいたいせき 相對遺跡	4次	金上字平井648 番1	5月20～27日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	631㎡	67㎡	なし	なし
10	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	13次	高野字富士山 1695番6	6月2日～5日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	303㎡	28㎡	住居跡2基(古墳1, 平安1)	土師器, 須恵器
11	いちげしもつぼりいせき 市毛下坪遺跡	20次	市毛字本郷坪 440番22ほか	6月9～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	498㎡	33㎡	住居跡4基(平安), 溝跡1条	土師器
12	ほりぐちいせき 堀口遺跡	34次	堀口字新地坪 148番1ほか	6月18日～ 7月7日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	47㎡	47㎡	住居跡1基(古墳), 溝跡1条, 土坑3基, 地下式坑1基	弥生土器, 土師器, 須恵器, 内耳土器, かわらけ, 陶器, 瓦, 石器, 鉄滓, 鉄製品, 人骨
13	みたらんどしんぼりいせき 三反田古墳群	4次	三反田字天王前 4552番ほか	6月30日～ 7月15日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	666㎡	48㎡	古墳周溝1条, 溝跡1条	なし
14	いさぎまひがしこふんぐん 磯崎東古墳群	13次	磯崎町字磯崎東 ノ三4418番1	7月7日～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	410㎡	34㎡	なし	なし
15	なかまねいせき 中曽根遺跡	2次	田彦字土木内 420番1ほか	7月16日～ 31日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	999㎡	146㎡	溝跡1条	なし
16	みたらんどしんぼりいせき 三反田古墳群	5次	三反田字天王前 4555番1	7月30日～ 8月7日	駐車場 整備	試掘	稲田 田中	1,725㎡	30㎡	古墳周溝1条	弥生土器, 石器
17	ひらしいせき 平井遺跡	4次	金上字平井1000 番1	7月30日～ 8月13日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990㎡	95㎡	住居跡2基(平安), 土坑3基, ビット21基	縄文土器, 土師器, 須恵器
18	まつばらいせき 松原遺跡	8次	田彦字松原795 番2ほか	8月4～7日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	251㎡	31㎡	なし	なし

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
19	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	14次	高野字富士山 1695番6	8月4～28日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	331㎡	37㎡	住居跡2基(平安1, 時期不明1)	土師器, 須恵器, 石器
20	おかだいせき 岡田遺跡	37次	三反田字北長町 3454番1	8月18～25日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	453㎡	49㎡	なし	なし
21	ひがしはらいせき 東原遺跡	10次	高野字堂の上 1074番1	8月25～28日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	488㎡	45㎡	住居跡3基(奈良・平安)	土師器, 須恵器, 磁器
22	ひがしししかわにいほりいせき 東石川新堀遺跡	5次	東石川字新堀 2613番3	9月1日～29日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	5,164㎡	388㎡	なし	石器, 縄文土器, 弥生土器, 土師器
23	ほりぐちいせき 堀口遺跡 (堀口館跡)	35次	堀口字表坪121 番1ほか	9月8～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	195㎡	19㎡	土坑1基, ピット1	弥生土器, 土師器, 須恵器, 内耳土器
24	いちげかみつほいせき 市毛上坪遺跡	31次	市毛字上坪1263 番7	9月8～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	280㎡	26㎡	なし	なし
25	ひらいせき 平井遺跡	5次	金上字平井1000 番1	9月15～30日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990㎡	120㎡	住居跡1基(平安), 溝跡1条, ピット3基	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器
26	へたのふじやまいせき 部田野富士山遺跡	1次	部田野字富士山 73番3ほか	9月15日～ 10月1日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	1,419㎡	30㎡	なし	なし
27	おいのづかこふんぐん 老ノ塚古墳群	1次	稲田字老ノ塚 584番3	9月29日～ 10月3日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	378㎡	48㎡	なし	なし
28	おいのづかこふんぐん 老ノ塚古墳群	2次	稲田字老ノ塚 584番1	9月29日～ 10月3日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	405㎡	50㎡	なし	なし
29	かみげばいせき 上馬場遺跡	6次	津田字塙台3040 番3ほか	10月6日～ 10月13日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	447㎡	40㎡	ピット1	なし
30	いづかえいせき 飯塚前遺跡	3次	三反田字新平 3242番1	10月13～20日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	392㎡	19㎡	なし	なし
31	ひらいせき 平井遺跡	6次	金上字遠原1047 番1	10月20～22日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	414㎡	33㎡	住居跡1基(時期不明), 溝跡1条	なし
32	いちげかみつほいせき 市毛上坪遺跡	32次	市毛字上坪1263 番5	10月27～30日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	266㎡	28㎡	なし	なし
33	ひらいせき 平井遺跡	7次	金上字平井1000 番1	11月4～5日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990㎡	36㎡	住居跡2基(平安)	縄文土器, 須恵器
34	よりのしんでんこふんぐん 寄居新田古墳群	5次	田彦字寄井新田 1004番9	11月10～17日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	807㎡	93㎡	なし	なし
35	おかだいせき 岡田遺跡	38次	三反田字岡田 3492番1ほか	12月2～15日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,440㎡	256㎡	なし	弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器

Ⅱ 試掘調査報告

1 堀口遺跡

(1) 第31次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部に位置し、調査区南半部は南東方向にゆるく傾斜し、それ以外は平坦な地形を呈する。調査は16カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.1～0.7mを測る。調査の結果、住居跡を35基確認した。出土遺物から推定される時期は、弥生時代後期6基、古墳時代17基、奈良・平安時代8基、時期不明4基である。溝跡、土坑、ピットは出土遺物がなく時期不明である。遺物は弥生時代後期の十王台式土器や古墳時代の土師器甕・杯、平安時代の灰釉陶器皿等が出土した。調

査区からは、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、近世陶磁器が出土している。

遺物説明

第4～5図

- 1 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：小型細頸壺形土器 法量：頸径42mm(残存率55%)、胴径134mm(残存率29%) 文様：櫛描文(4本)、頸部に隆帯1条、胴部に隆帯3条(隆帯の上に棒状工具による刻み)、付加条縄文(L-S-R-Z) 備考：胎土に金雲母含む、赤彩されていた可能性あり
- 2 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：小・中型壺形土器 文様：櫛描文(4本) 法量：頸径88mm(残存率22%) 備考：胎土に金雲母含む、器外面に炭化物附着、器内外面変色
- 3 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中型壺形土器 法量：最大径172mm(残存率17%) 文様：櫛

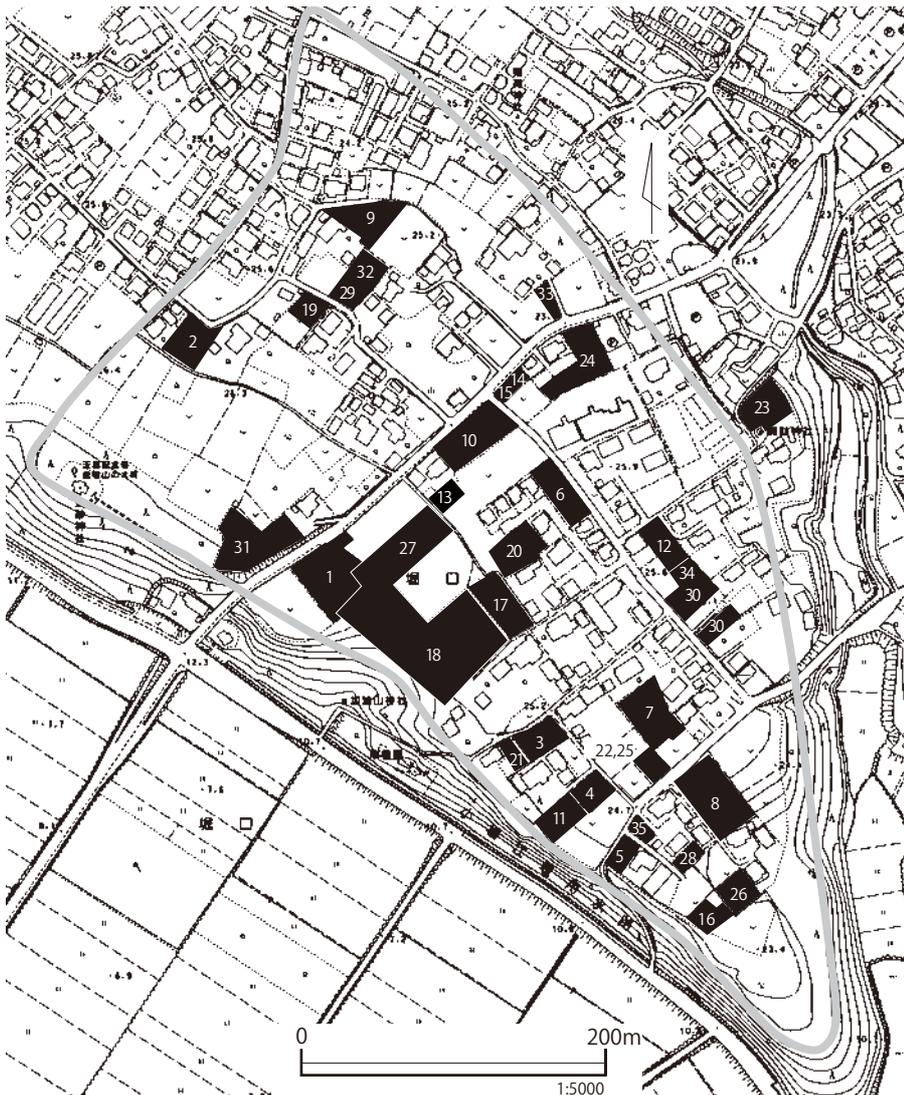
描文(6本)、付加条縄文(R-S) 備考：器外面に炭化物附着、器内面変色

- 4 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器 法量：最大径154mm(残存率18%) 文様：付加条縄文(R×R.L×L) 備考：胎土に金雲母含む、器内面変色
- 5 出土位置・注記：1トレ2住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：小・中型壺形土器 法量：口径136mm(残存率9%) 文様：口唇部刻み(棒状工具)、口縁部櫛描文(4本) 備考：胎土に金雲母含む

- 6 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器 法量：推定口径110mm(残存率6%)、最大径60mm(残存率25%) 文様：口唇部刻み(棒状工具カ)、口縁部付加条縄文(L×Rカ)
- 7 出土位置・注記：30住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器カ 文様：口唇部刻みカ、口縁部櫛描文(4本) 備考：胎土に金雲母含む

- 8 出土位置・注記：6住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：一 文様：口唇部刻み(ヘラ状工具)、口縁部櫛描文(4本)
- 9 出土位置・注記：8トレ19住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器カ 文様：口唇部刻み(ヘラ状工具)、口縁部付加条縄文(R×R.L×L) 備考：胎土に海綿骨針含む、器内面色調Hue5YR5/6明赤褐

- 10 出土位置・注記：11トレ27住 時代時期：



第2図 堀口遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第2表 堀口遺跡調査一覧

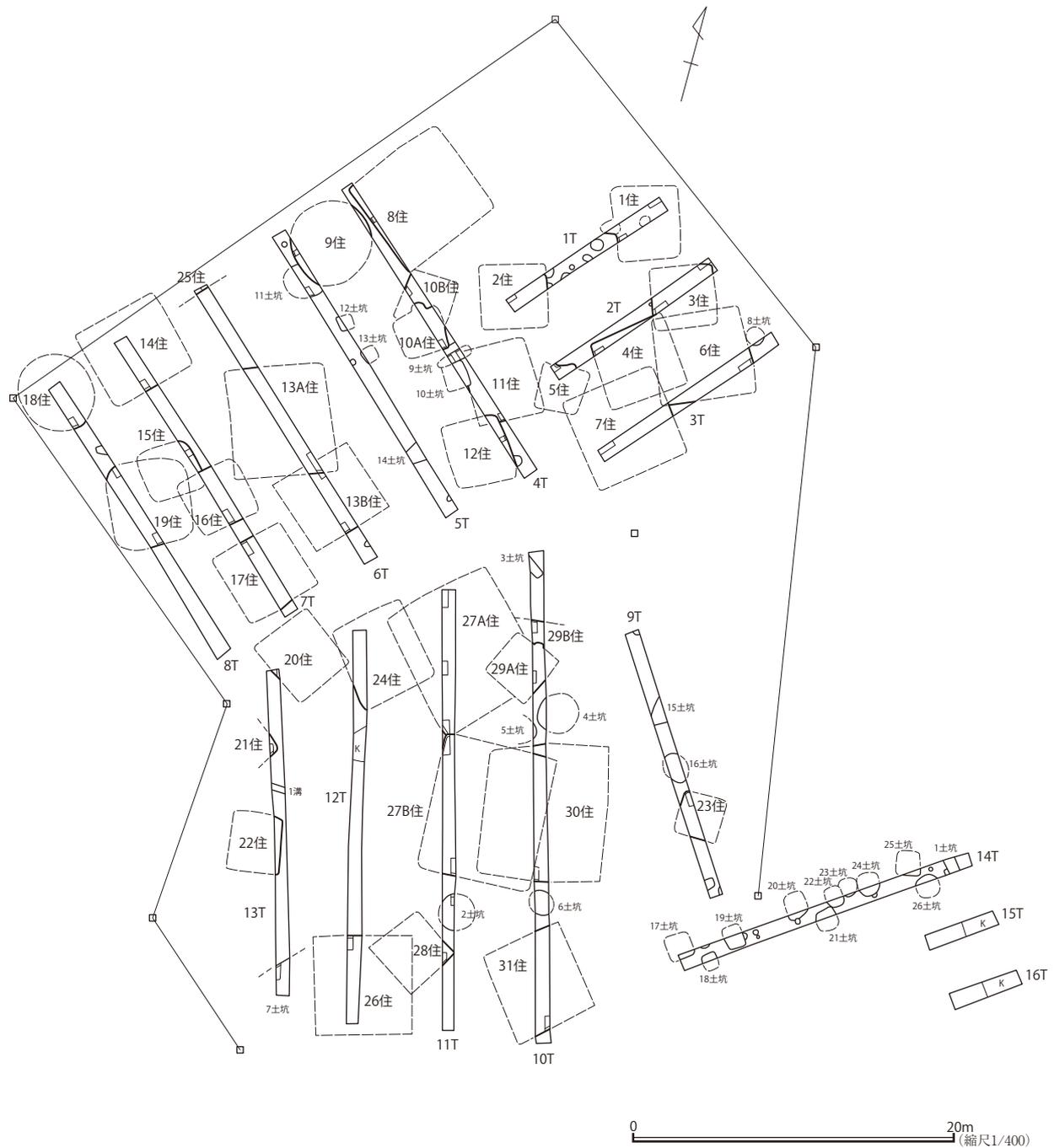
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	住居 17 (十王台 1, 古墳中期 3, 古墳後期 2, 奈良 4, 平安 3, 時期不明 4)	1
2	1979	勝田市教委	本調査	住居 2 (平安)	2
3	1983	勝田市教委	本調査	住居 3 (古墳中期 1, 古墳後期 1, 平安 1)	3
4	1984	勝田市教委	本調査	住居 2 (古墳 1, 時期不明 1)	4
5	1985	勝田市教委	本調査	住居 4 (古墳中期 1, 平安 2, 時期不明 1)	5
6	1992	勝田市教委	本調査	住居 2 (古墳中期 1, 奈良 1)	6
7	1993	勝田市教委	本調査	住居 8 (十王台 1, 古墳中期 4, 古墳後期 1, 平安 2)	7
8	1996	市教委	本調査	住居 6 (古墳前期 2, 古墳中期 2, 奈良 1, 平安 1)	8
9	2006	市教委	試掘	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居 7 (古墳前期 1, 古墳後期 1, 奈良 1, 平安 4)	10
11	2008	公社	試掘	住居 2 (奈良・平安 1, 時期不明 1), 溝 1	11
12	2008	公社	試掘	住居 25 (弥生中期 1, 古墳 8, 奈良・平安 2, 不明 14), 土坑 3 (古墳 2, 時期不明 1), 溝 1	11
13	2013	公社	試掘	住居 2 (古墳)	12
14	2013	公社	試掘	住居 2 (古墳中期 1, 平安 1), 溝 2 (時期不明)	12
15	2013	公社	本調査	住居 4 (古墳中期 1, 古墳後期 1, 平安 2), 溝 1	13
16	2014	公社	試掘	住居 1 (平安), 堀 1 (時期不明)	13
17	2014	公社	試掘	住居 16 (弥生 1, 古墳 4, 時期不明 11), 土坑 2 (時期不明)	14
18	2015	公社	試掘	住居 120 (弥生 3, 古墳 20, 奈良 5, 平安 9, 時期不明 83), 土坑 14, 土壇墓 2, 溝 2	14
19	2015	公社	試掘	住居 1 (時期不明)	14
20	2015	公社	試掘	住居 5 (古墳), 土坑 5 (時期不明)	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居 6 (古墳 3, 平安 2, 時期不明 1)	15
23	2015	公社	試掘	住居 1 (古墳)	15
24	2015	公社	試掘	住居 2 (時期不明)	15
25	2016	公社	本調査	住居 9 (弥生 2, 古墳 4, 平安 3)	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	関東文化財振興会	本調査	住居 25 (弥生 2, 古墳 12, 奈良・平安 11), 掘立 1 (時期不明), 土坑 43 (奈良・平安 9, 時期不明 34)	18
28	2016	公社	試掘	なし	15
29	2018	公社	試掘	住居 8 (古墳 3, 奈良・平安 4, 時期不明 1)	16
30	2019	公社	試掘	住居 2 (時期不明), 溝 1	17

文献

- 1 茨城県勝田市堀口遺跡発掘調査報告書
- 2 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 54 年度)
- 3 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 58 年度)
- 4 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 59 年度)
- 5 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 60 年度)
- 6 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 堀口遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 17 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 18 堀口遺跡 (特別養護老人ホーム建築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

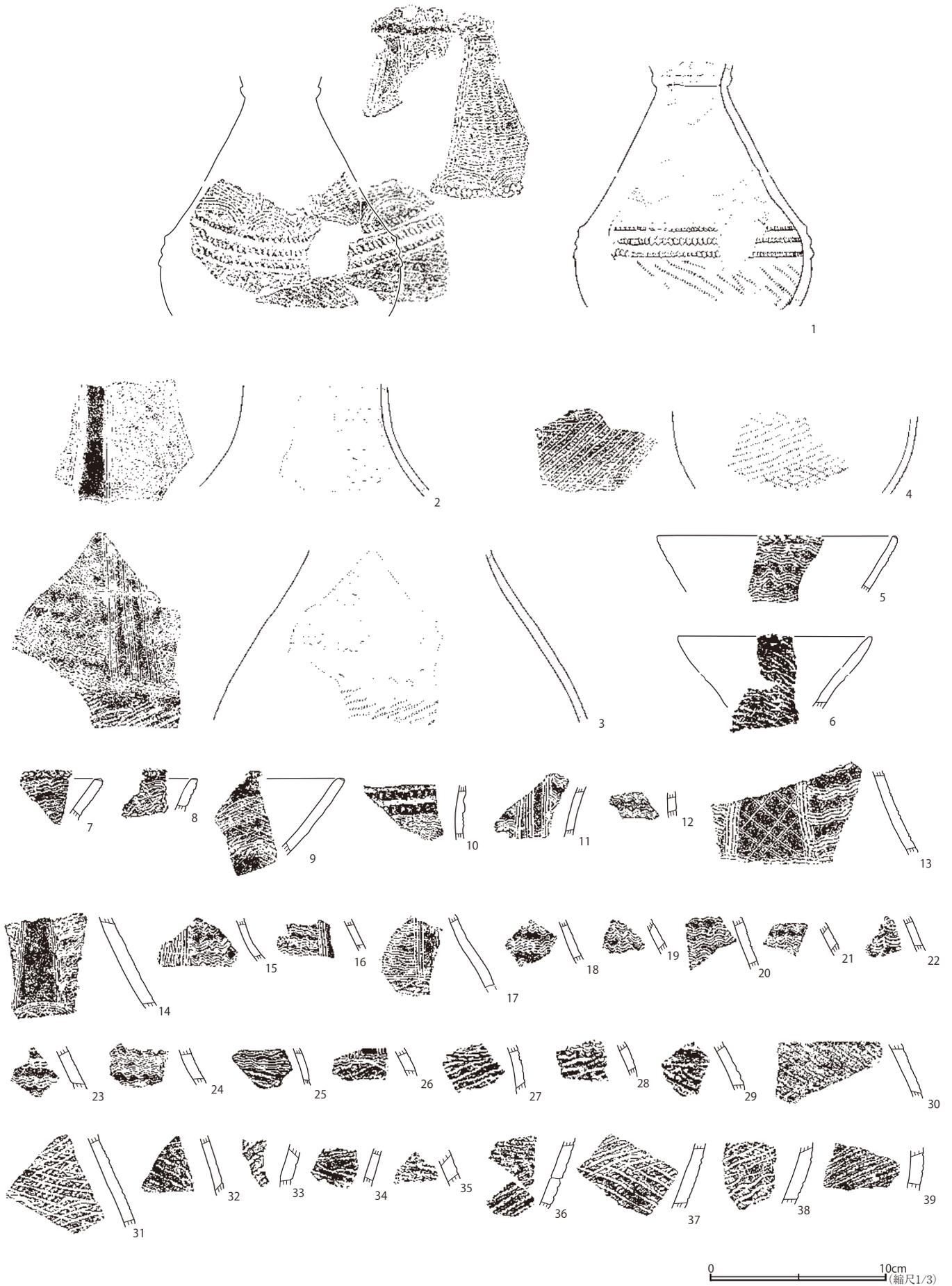
弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器 文様:隆帯 2 条, 櫛描文 (5 本) 備考:胎土に金雲母含む

- 11 出土位置・注記:6 トレ 13B 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器 文様:櫛描文 (4 本)
- 12 出土位置・注記:13A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (3 本)
- 13 出土位置・注記:13B 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:櫛描文 (4 本), 格子状文 (へら状工具) 備考:胎土に金雲母含む
- 14 出土位置・注記:13B 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器 文様:櫛描文 (5 本カ) 備考:胎土に金雲母・海綿骨針含む, 器外面炭化物付着
- 15 出土位置・注記:2 トレ 3 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器 文様:櫛描文 (5 本)
- 16 出土位置・注記:2 トレ 3 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (4 本)
- 17 出土位置・注記:8 トレ 18 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器 文様:櫛描文 (4 本), 付加条縄文 (R-S-L-Z) 備考:胎土に金雲母含む, 赤彩の可能性あり
- 18 出土位置・注記:13A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (5 本)
- 19 出土位置・注記:13A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (4 本)
- 20 出土位置・注記:13B 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:櫛描文 (4 本) 備考:赤彩の可能性あり
- 21 出土位置・注記:8 トレ 19 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (4 本)
- 22 出土位置・注記:12 トレ 24 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (3 本)
- 23 出土位置・注記:27A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (4 本)
- 24 出土位置・注記:12 トレ 24 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (4 本)
- 25 出土位置・注記:11 トレ 27 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (5 本), 付加条縄文 (L × L)
- 26 出土位置・注記:27A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:一 文様:櫛描文 (5 本) 付加条縄文 (R-S カ)
- 27 出土位置・注記:7 トレ 17 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (4 本カ), 付加条縄文 (R × R)
- 28 出土位置・注記:13 A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (3 本以上), 付加条縄文 (R × R)
- 29 出土位置・注記:13 A 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:櫛描文 (5 本カ), 付加条縄文 (R-S-L-Z)
- 30 出土位置・注記:2 トレ 3 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文 (L × L-R-S カ) 備考:胎土に金雲母含む
- 31 出土位置・注記:13B 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:壺形土器カ 文様:付加条縄文 (R × R, L × L) 備考:胎土に金雲母含む
- 32 出土位置・注記:11 トレ 27 住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式)



第3図 堀口遺跡第31次調査区

- 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 (R×R, L×L)
- 33 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文(L-S)
- 34 出土位置・注記：2トレ5住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文(R×R, L×L) 備考：器内面変色
- 35 出土位置・注記：3トレ7住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文(L×Lカ)
- 36 出土位置・注記：5トレ9住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L, R×Rカ)
- 37 出土位置・注記：10B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R, L×L)
- 38 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
- 壺形土器 文様：付加条縄文(R×Lカ) 備考：器外面に炭化物付着
- 39 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(LR+Rカ) 備考：器内面変色
- 40 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
— 文様：付加条縄文(R×R) 備考：器内面変色
- 41 出土位置・注記：6トレ13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文(R-S, L-Zカ) 備考：胎土に金雲母含む
- 42 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
大型壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R, L×L) 備考：胎土に金雲母含む
- 43 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器 文様：付加条縄文(L×L, R×R) 備考：胎土に金



第4図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(1)

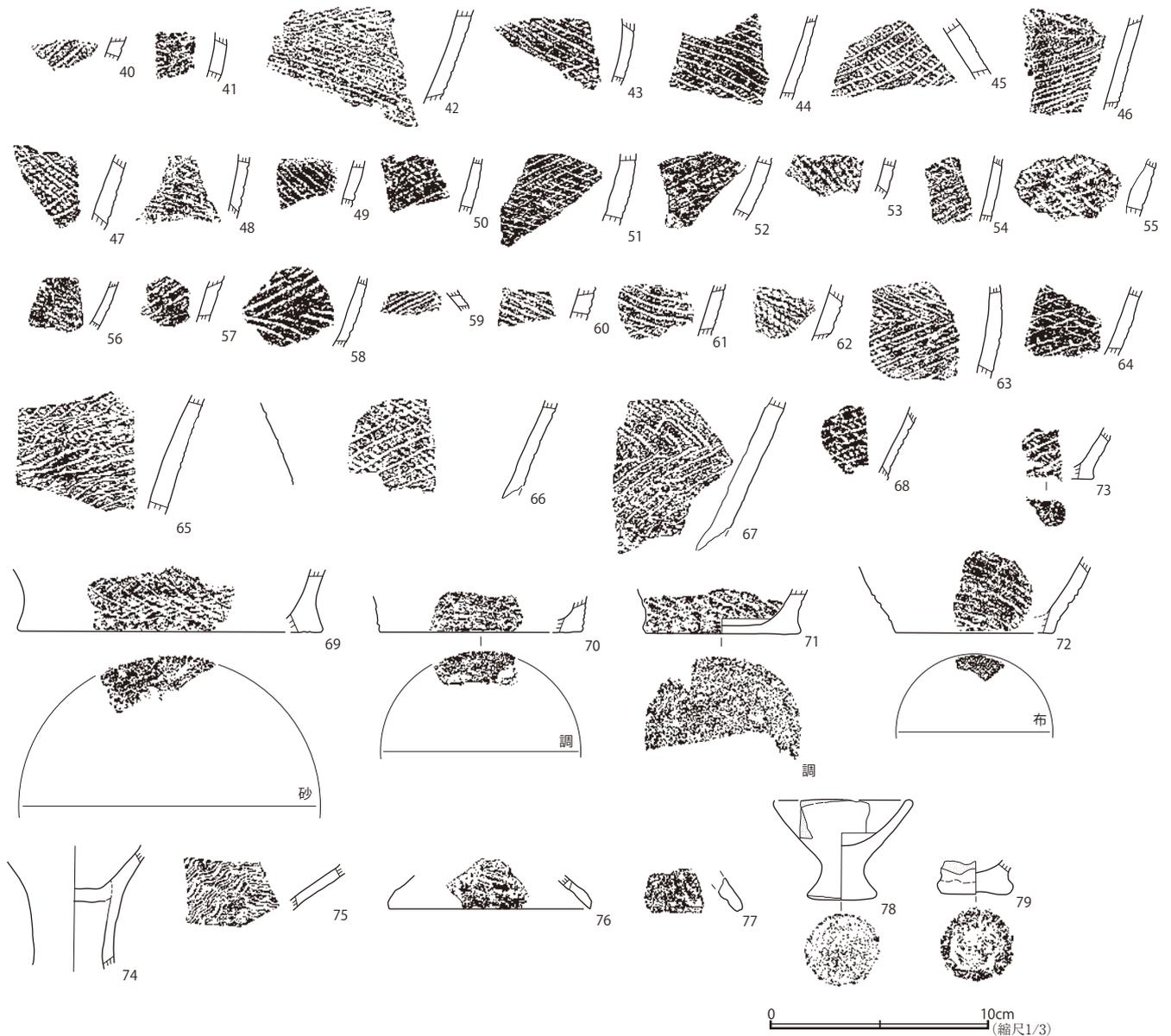
雲母・海綿骨針含む

- 44 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L,R×R) 備考：胎土に金雲母含む,器内面変色
- 45 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文(R×L)
- 46 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R,L-Zカ) 備考：器内面変色
- 47 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文(L×L,R×R) 備考：胎土に金雲母含む
- 48 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L) 備考：器内面一部変色
- 49 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L) 備考：器内面一部変色
- 50 出土位置・注記：7トレ14住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：— 付加条縄文(R×R) 備考：胎土に金雲母含む
- 51 出土位置・注記：8トレ19住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R,L×L)
- 52 出土位置・注記：8トレ19住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R) 備考：器内面変色
- 53 出土位置・注記：11トレ27住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L) 備考：胎土に金雲母含む
- 54 出土位置・注記：11トレ27住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器 文様：付加条縄文(L×L,R×R) 備考：器内面変色
- 55 出土位置・注記：27A住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：— 文様：付加条縄文(R×R,L×L) 備考：胎土に金雲母含む
- 56 出土位置・注記：27A住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L-Zカ) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 57 出土位置・注記：27A住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 58 出土位置・注記：27B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R,L×L) 備考：器外面に炭化物付着
- 59 出土位置・注記：27B住 時代時期：弥生時代後期カ 器種：— 文様：燃糸文(Lカ)
- 60 出土位置・注記：10トレ29住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：— 文様：付加条縄文(L×L)
- 61 出土位置・注記：30住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×L,R-S) 備考：器内面変色
- 62 出土位置・注記：30住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：— 文様：付加条縄文(L×Lカ)
- 63 出土位置・注記：10トレ31住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器 文様：付加条縄文(L×L,R×R) 備考：胎土に金雲母含む,器内面一部変色
- 64 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器

- 種：— 文様：付加条縄文(R×R,L×L) 備考：胎土に金雲母含む
- 65 出土位置・注記：4トレ11住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×Lカ) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 66 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 法量：最大径112mm(残存率11%) 文様：付加条縄文(R×R,L×L) 備考：胎土に海綿骨針多量・金雲母含む
- 67 出土位置・注記：30住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文(RL+Rカ,LR+R) 備考：胎土に金雲母多量に含む,器内面剥落
- 68 出土位置・注記：5トレ9住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R)
- 69 出土位置・注記：3トレ6住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器カ 法量：底径138mm(残存率13%) 文様：付加条縄文(L×L),底面砂痕 備考：胎土に金雲母含む
- 70 出土位置・注記：2トレ3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：— 法量：底径92mm(残存率15%) 文様：付加条縄文(L-Zカ),底面調整痕 備考：器内面変色,炭化物付着
- 71 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 法量：底径70mm(残存率54%) 文様：付加条縄文(L×L),底面調整痕 備考：胎土に金雲母多量に含む
- 72 出土位置・注記：11トレ27住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 法量：最大径86mm(残存率13%),推定底径72mm(残存率9%) 文様：付加条縄文(L×L),底面布目痕
- 73 出土位置・注記：8トレ19住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：— 文様：付加条縄文(R×R) 備考：器内面変色
- 74 出土位置・注記：7トレ15住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：高环形土器 法量：脚部径36mm(残存率100%),坏部最大径63mm(残存率56%) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 75 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：高环形土器 文様：櫛描文(4本カ)
- 76 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：高环形土器 法量：脚部径92mm(残存率10%) 文様：成形による指痕あり
- 77 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代 器種：高环形土器カ
- 78 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：小型环形土器 法量：口径62mm(残存率16%),底径32mm(残存率100%) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 79 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期 器種：小型环形土器カ 法量：底径：35mm(残存率100%)

第6図

- 1 台帳：3トレ7住 材質：土師器 器種：杯 残存：30% 法量：口径(11.6),器高(5.2) 色調：外面橙色,内面橙～にぶい橙～灰黄色 胎土：礫(白微),砂(白多,透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ,体部上位ナデ,下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ,体部ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—
- 2 台帳：3トレ7住 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部90% 法量：口径13.0,器高(4.9) 色調：内外面とも赤橙～暗赤褐色 胎土：礫(白微),砂(白多,透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ,体部ヘラナデ,ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガ



第5図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(2)

キ、体部放射状にヘラミガキ。使用痕：— 備考：—

3 台帳：5トレ9住 材質：土師器 器種：手づくね土器 残存：10% 法量：器高(2.3)，底径(4.0) 色調：外面黒色，内面浅黄色 胎土：砂(白多，透多) 技法等：内外面ともヘラナデ。使用痕：— 備考：—

4 台帳：5トレ9住 材質：土師器 器種：手づくね土器 残存：20% 法量：器高(3.3) 色調：外面浅黄色，内面黒色 胎土：砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面ナデ。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：—

5 台帳：13A住 材質：須恵器 器種：ハソウ? 法量：— 色調：外面灰オリーブ，灰色。内面灰色。胎土：砂(白少) 焼成：硬質 技法等：ロクロ成型。外面にカキ目調整。使用痕：— 備考：—

6 台帳：7トレ14住 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部 法量：100% 色調：外面橙～赤褐色。内面赤色。胎土：砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ。内面ヘラナデ・ナデ。外面上位に杯との接合痕あり。接合部はソケット状。使用痕：— 備考：—

7 台帳：7トレ16住 材質：土師器 器種：甕 残存：底部100% 法量：器高(2.4)，底径(7.9) 色調：外面赤橙～暗赤褐色。内面にぶい黄橙色。

胎土：礫(白多)，砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り，底部木葉痕。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：—

8 台帳：13トレ22住 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径(16.6)，器高(5.5) 色調：外面橙～にぶい橙～褐色。内面橙色。

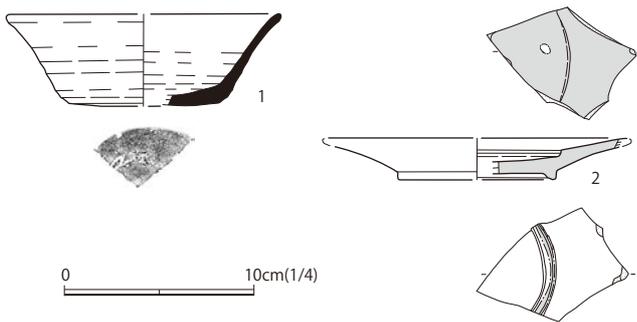
胎土：砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。ナデ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。使用痕：— 備考：—

9 台帳：23住 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴部片 法量：— 色調：外面青灰～黄色。内面灰色。胎土：礫(白微)，砂(白少，透少) 焼成：硬質 技法等：外面タタキ。内面あて具痕。使用痕：— 備考：—

10 台帳：12トレ24住 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部 法量：100% 色調：内外面ともにぶい褐色 胎土：礫(白微)，砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面上位ヘラナデ，下位ナデ。内面ナデ，しぼり痕がみられる。杯部と脚柱部の接合はソケット状。使用痕：



第6図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(3)



第7図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(4)

— 備考：—

11 台帳：27A住 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁～胴部上位
10% 法量：口径(37.2),器高(11.0) 色調：外面暗褐～黒色。内面橙色。

胎土：砂(白多,透多) 焼成：良好 技法等：内外面とも口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕：外面器面にスス状物付着。 備考：—

12 台帳：10トレ31住 材質：土師器 器種：壺 残存：口縁部
10% 法量：口径(15.5),器高(5.1) 色調：外面浅黄～黒褐色。内
面浅黄色。 胎土：砂(白多,透多) 焼成：良好 技法等：外面上位ヨ
コナデ, 下位ヘラナデ・ヘラミガキ。内面上位ヨコナデ, 中～下位ヘラ
ナデ。 使用痕：— 備考：—

第7図

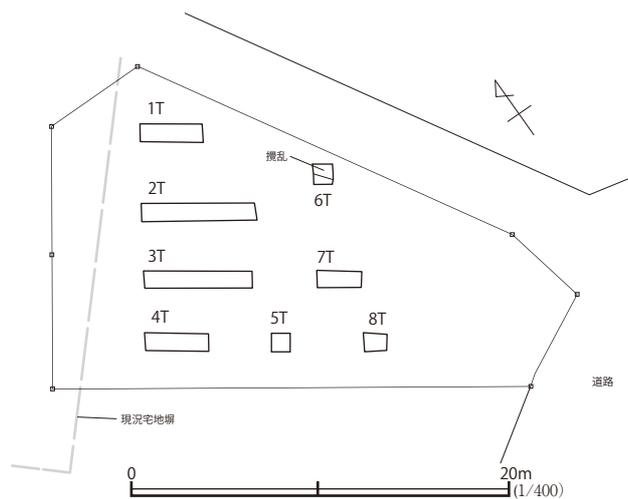
1 出土位置：9トレ23住 注記：— 材質：須恵器 器種：杯 残存：
20% 法量：口径(14.2),器高4.9,底径(7.9) 色調：灰色 胎土：礫(灰,
透少),砂(白,透),骨針微量 特徴：底部外面ナデ。口縁部外面黒化。

備考：木葉下窯産か

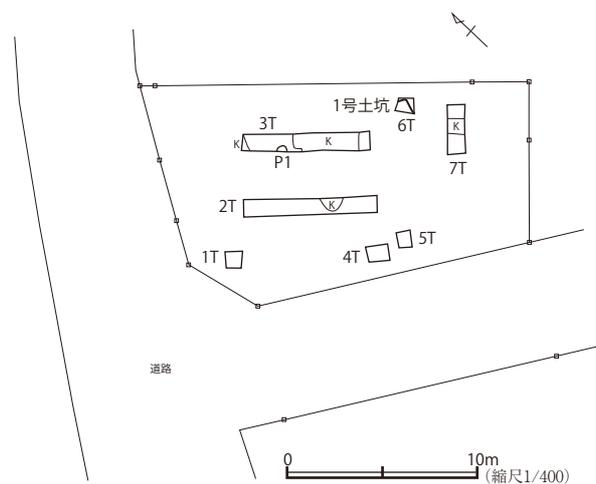
2 出土位置：6トレ 注記：— 材質：灰釉陶器 器種：段皿 残存：
底部20% 法量：口径(15.8),器高2.2,底径(8.1) 色調：素地明灰色,
釉淡緑色 胎土：— 特徴：内面灰釉施釉。外面高台部外側に灰釉付着。
内面にトチン跡。 備考：猿投窯跡K-14号窯期(9世紀前半)

(2) 第33次調査報告

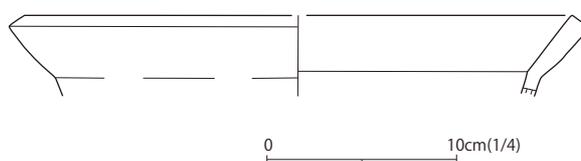
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から280mほど離れた地点に位置する。調査区北側には浅い谷が入るため、調査区は木田へ向かい緩やかに傾斜している。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



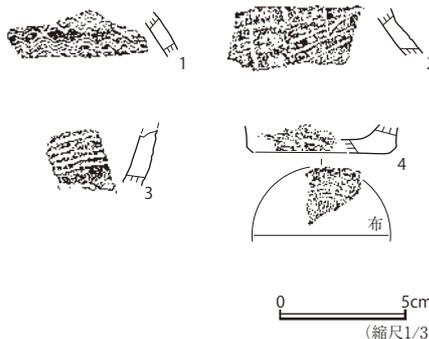
第8図 堀口遺跡第33次調査区



第9図 堀口遺跡第35次調査区



第10図 堀口遺跡第35次調査区出土遺物(1)



第11図 堀口遺跡第35次調査区出土遺物(2)

(3) 第35次調査報告(堀口館跡と重複)

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.6mを測る。調査の結果、中世の土坑が1基確認され、覆土中から内耳土鍋の口縁部片が出土した。

遺物説明

第10図

出土位置：6トレンチ1号土坑 注記：— 材質：土器 器種：内耳鍋
残存：口縁部片 法量：口径(28.8) 色調：外面黒色、内面褐色 胎土：
砂(透多、黒多)、骨針多 技法等：内面ヨコナデ。外面煤付着。

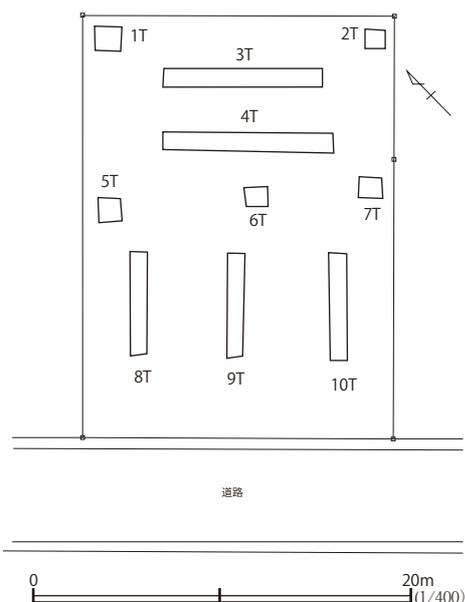
第11図

- 1 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器カ 文様：櫛描文(4本)
- 2 出土位置・注記：2トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R×R)
- 3 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代 器種：壺形土器カ 文様：撚糸文カ
- 4 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：壺形土器カ 法量：底径54mm(残存率12%) 文様：底面布目痕

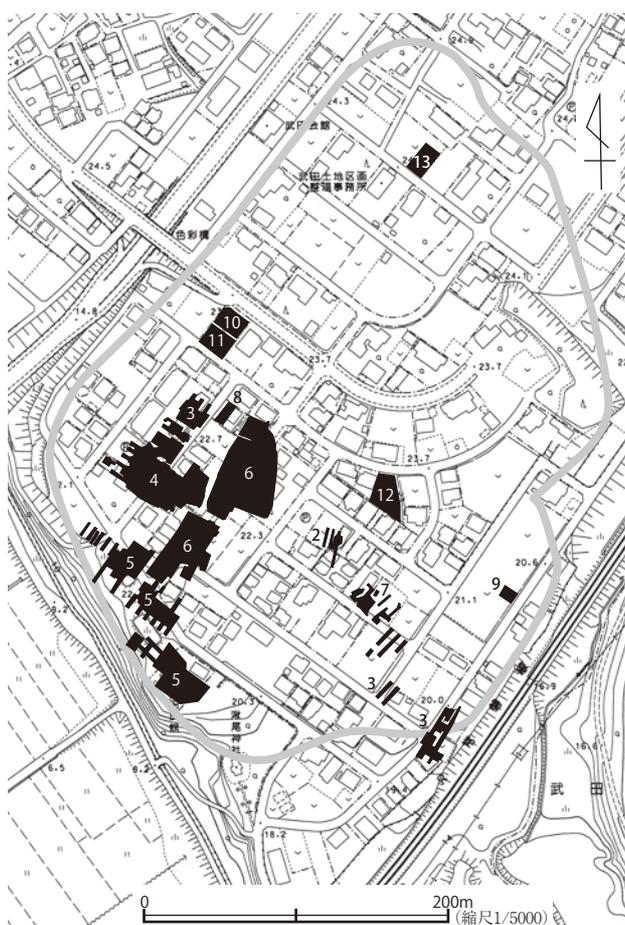
2 石高遺跡

(1) 第13次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から320mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2m～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第13図 石高遺跡第13次調査区



第12図 石高遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第3表 石高遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	勝田市教委	本調査	溝1, 土坑3	1
2	1983	勝田市教委	本調査	住居1, 土坑3, 道路	2
3	1986	武田遺跡群調査会	本調査	住居30, 溝1, 土坑1, 掘立1, 粘土探掘坑3	3
4	1988	公社	本調査	住居57, 溝	4
5	1989	公社	本調査	住居10, 土坑6, 陥穴13, 溝, 堀	5
6	1991	公社	本調査	住居102, 土坑, 溝	6
7	1992	公社	本調査	住居10, 土坑5, 溝2	6
8	1994	公社	本調査	住居3	7
9	2002	市教委	本調査	なし	8
10	2004	市教委	本調査	溝	9
11	2005	市教委	本調査	なし	10
12	2019	公社	試掘	なし	11

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書（昭和56年）
- 2 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 武田Ⅰ
- 4 武田Ⅱ
- 5 武田Ⅲ
- 6 武田Ⅴ
- 7 武田Ⅷ
- 8 平成14年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成17年度市内遺跡発掘調査報告書
- 11 令和元年度市内遺跡発掘調査報告書

3 峪遺跡

(1) 第2次調査報告

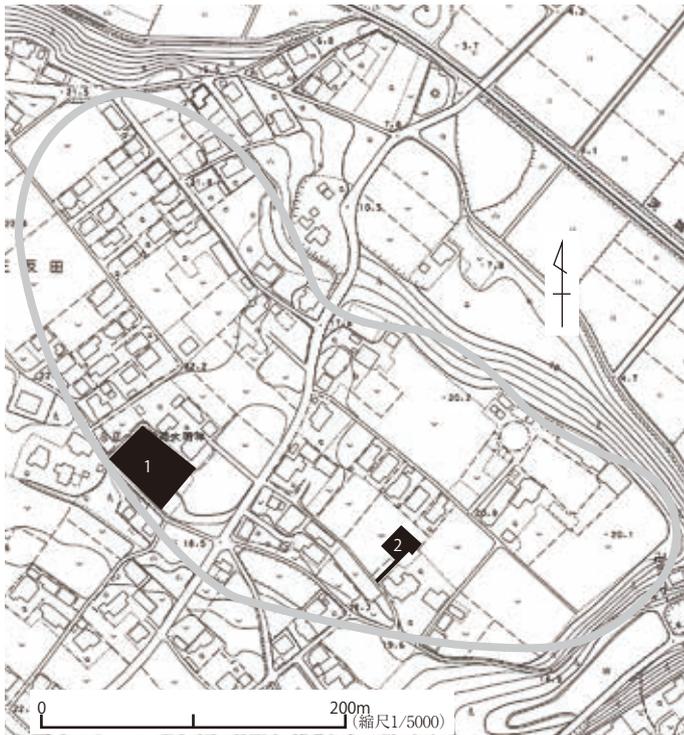
調査地は、中丸川低地から南西方向に入り込む谷から、北西方向に伸びる浅い小支谷にむけてゆるく傾斜する地形を呈する。調査は11か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

第4表 峪遺跡調査一覧

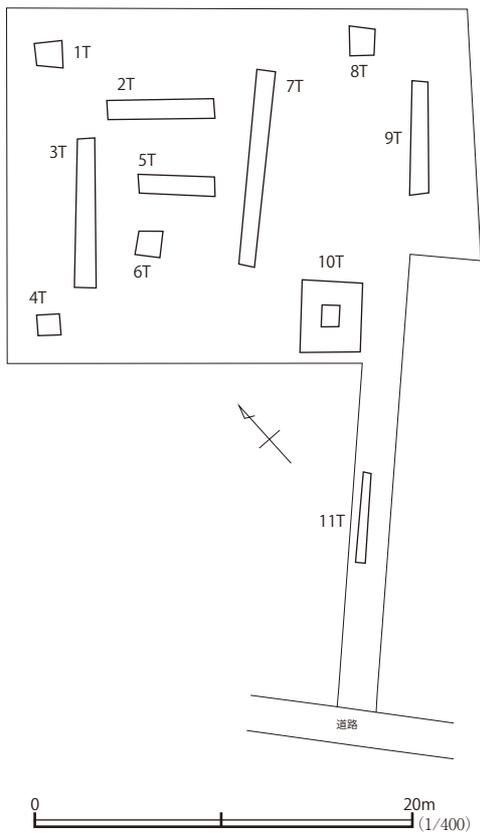
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2019	公社	試掘	なし	1

文献

- 1 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第14図 峪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

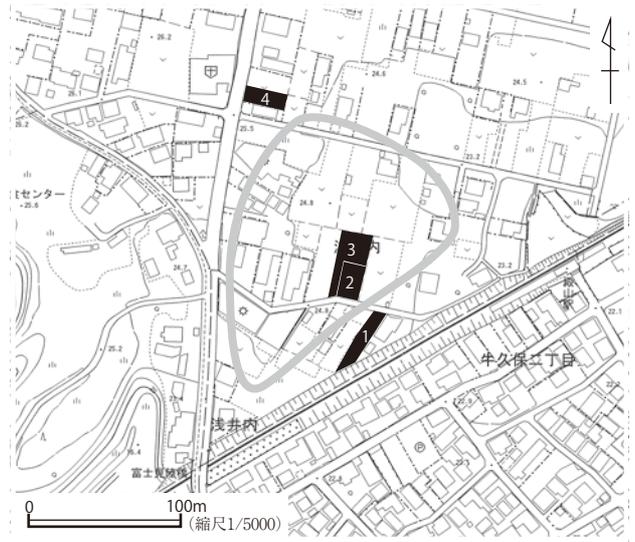


第15図 峪遺跡第2次調査区

4 浅井内遺跡

(1) 第4次調査報告

調査地は、那珂湊の市街地がある低地から北東に入り込む谷の谷頭から200mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は12カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～1.1mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



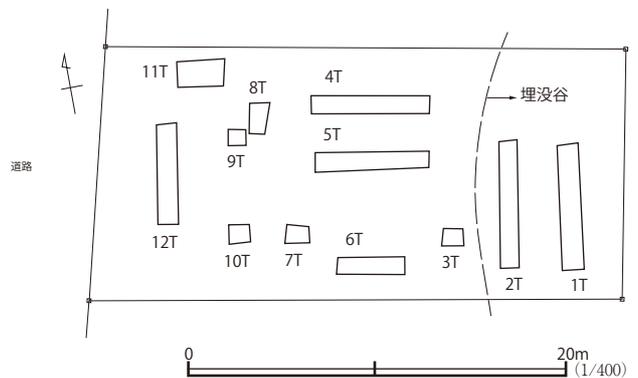
第16図 浅井内遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第5表 浅井内遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2004	市教委	試掘	土坑2	1
2	2018	公社	試掘	溝1	2
3	2018	公社	試掘	ピット1	2

文献

- 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

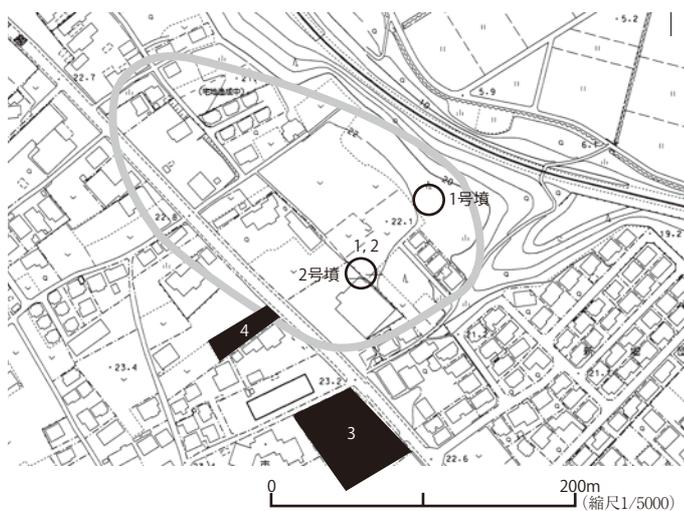


第17図 浅井内遺跡第4次調査区

5 相対遺跡

(1) 第4次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から160mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。調査区全体に土盛りが認められたため、トレンチの深さは0.8～1.0mとやや深めである。調査の結果、調査区全体に攪乱が広く入っており、遺構・遺物とも確認されなかった。



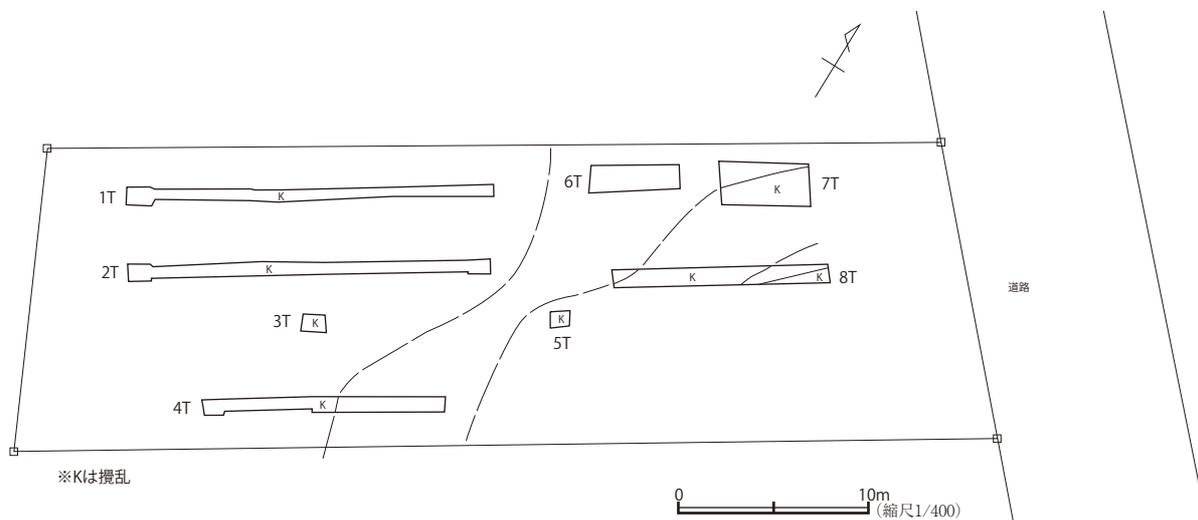
第18図 相対遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第6表 相対遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝田市教委	本調査	古墳1	1
2	1988	市遺跡調査会	本調査	古墳1	2
3	1995	市教委	本調査	住居1, 溝3	2

文献

- 1 昭和59年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 君ヶ台遺跡（第7次）、松原遺跡（第4次）、相対古墳群（第2次）、東原遺跡（第3・4次）
- 3 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書

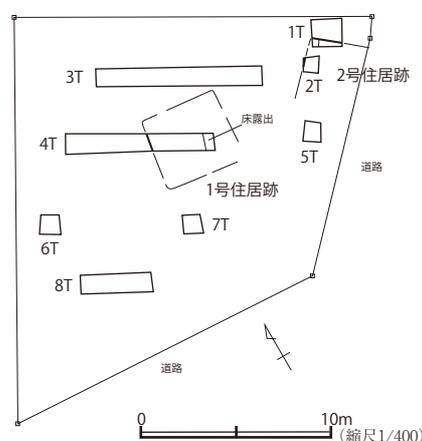


第19図 相対遺跡第4次調査区

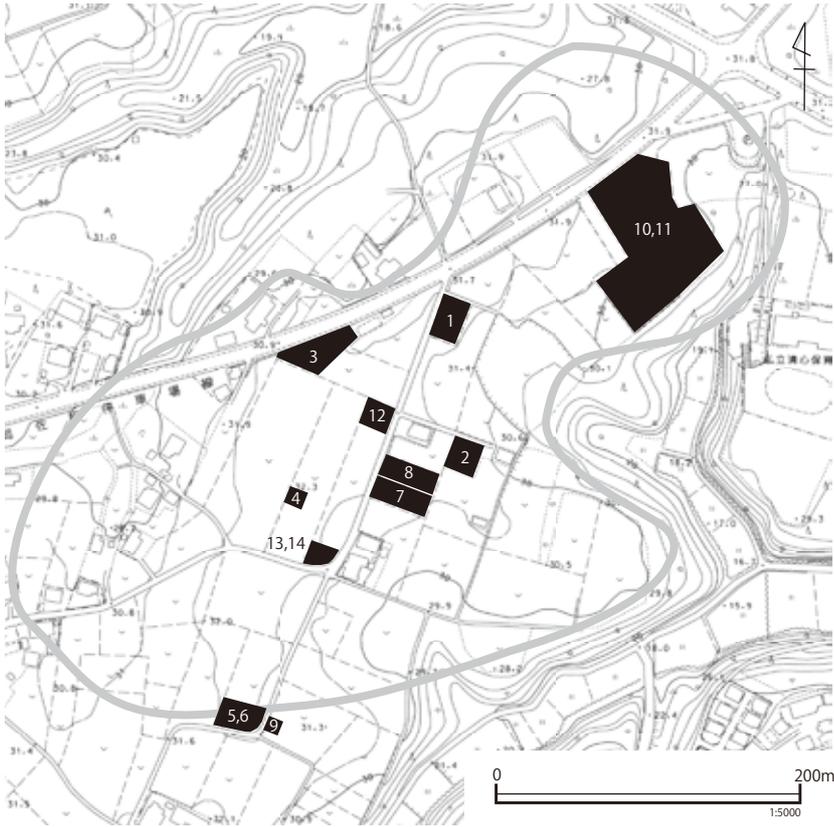
6 高野富士山遺跡

(1) 第13次調査報告

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、住居跡が2基確認された。出土遺物から1号住居跡が平安時代、2号住居跡が古墳時代と推定される。その他調査区からは、土師器片と須恵器片が少量確認されている。



第20図 高野富士山遺跡第13次調査区



第 21 図 高野富士山遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 7 表 高野富士山遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1989	勝田市教委	試掘	住居跡 1(古墳)	2
3	2001	市教委	本調査	土坑墓 1(近世), 住居跡 1(古墳)	3
4	2007	市教委	試掘	なし	4
5	2010	公社	試掘	住居跡 3(平安), 土坑 2	5
6	2010	公社	本調査	住居跡 1(平安)	5
7	2013	公社	試掘	なし	6
8	2015	公社	試掘	なし	7
9	2017	公社	試掘	なし	8
10	2017	公社	試掘	住居跡 3(古墳~奈良), 溝 1	8
11	2017	毛野考古学 研究所	本調査	住居跡 3(奈良・平安), 土坑 1, 溝 1	9
12	2018	公社	試掘	住居跡 1(古墳), 土坑 1	10

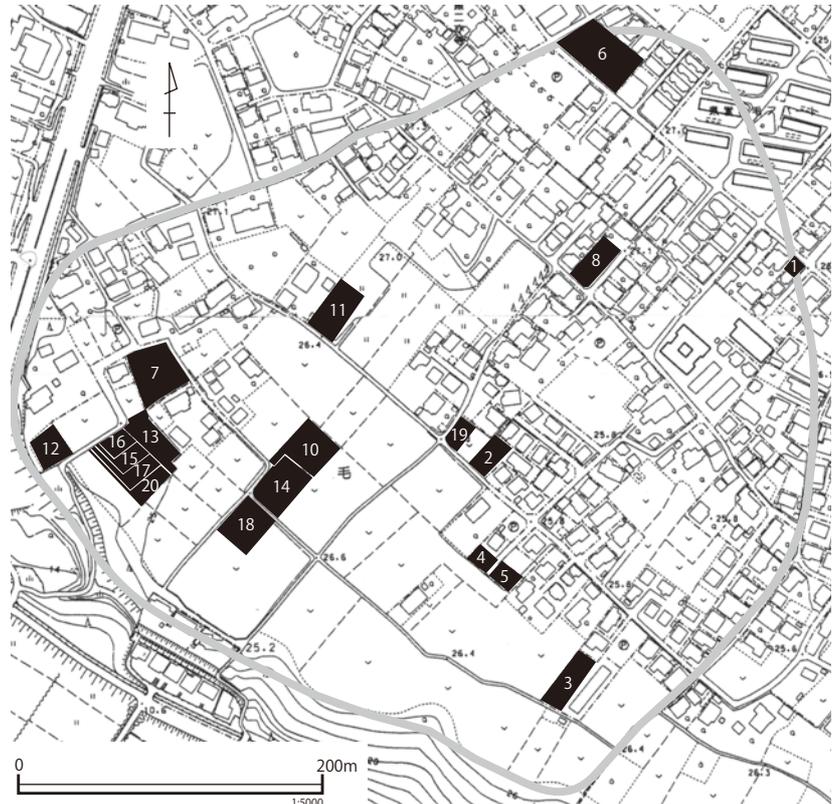
文献

- 1 昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 高野富士山遺跡
- 10 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

7 市毛下坪遺跡

(1) 第 20 次調査報告

調査地は、那珂川の低地を望む台地縁辺部から 40 m ほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は 8 カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.3 ~ 0.5 m を測る。調査の結果、住居跡 4 基、溝跡 1 条が確認された。出土遺物から住居跡は平安時代のものと推定される。溝跡の時期は不明である。遺物は、土師器片が少量出土している。



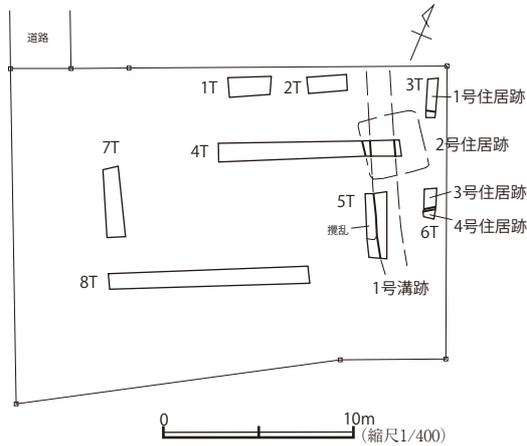
第 22 図 市毛下坪遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第8表 市毛下坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	勝田市教委	本調査	土坑1(時期不明)	1
2	1987	勝田市教委	本調査	溝1(9世紀)	2
3	1987	勝田市教委	本調査	住居1(8世紀), 溝2(時期不明)	2
4	1989	勝田市教委	本調査	住居1(9世紀), 溝1(時期不明)	3
5	1989	勝田市教委	本調査	溝2(時期不明)	3
6	1989	勝田市教委	本調査	住居2(8世紀), 溝2(時期不明)	3
7	1991	勝田市教委	本調査	住居3(古墳後期2, 9世紀1)	4
8	1993	勝田市教委	試掘調査	なし	5
9	2006	市教委	試掘調査	なし	なし
10	2012	公社	試掘	住居3(9世紀), 溝5・土坑1・ピット5(時期不明)	6
11	2014	公社	試掘	住居4(平安), 溝1	7
12	2016	公社	試掘	土坑4(近世2, 時期不明2)	8
13	2017	公社	試掘	住居4(古墳3, 平安1)	9
14	2018	公社	試掘	住居6(平安), 溝1・土坑3	10
15	2018	公社	試掘	溝1	10
16	2018	公社	試掘	なし	10
17	2018	公社	試掘	溝1	10
18	2018	公社	試掘	住居4(平安1, 時期不明3), 溝5	11
19	2019	公社	試掘	住居1(時期不明)	11

文献

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書 | 6 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 2 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書 | 7 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 3 平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書 | 8 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 4 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書 | 9 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書 | 10 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| | 11 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |



第23図 市毛下坪遺跡第20次調査区

8 三反田古墳群

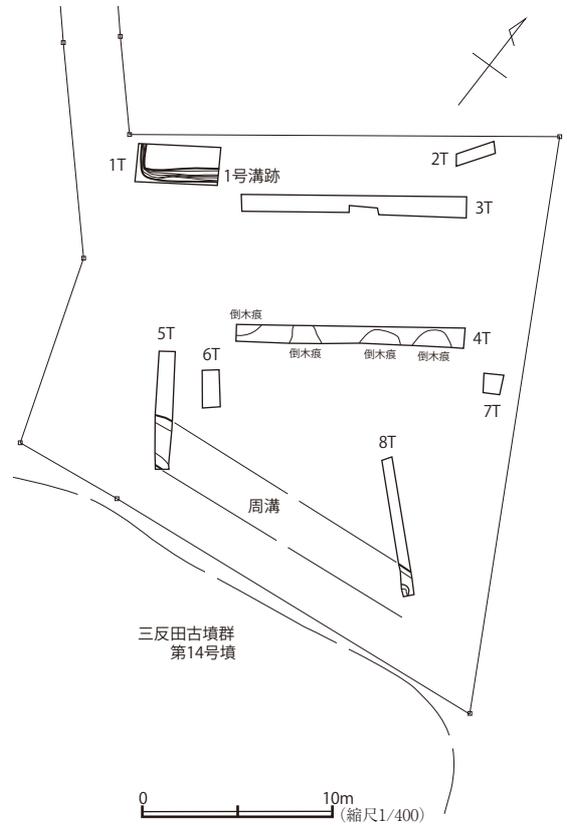
(1) 第4次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から320m、那珂川低地を望む台地縁辺から340mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチ

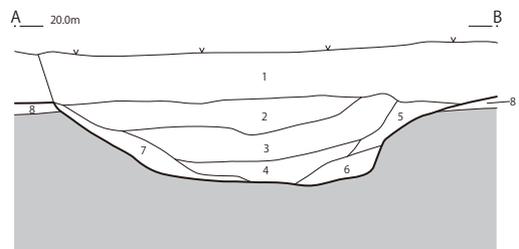
の深さは0.4～0.7mを測る。調査の結果、三反田古墳群第14号墳に伴う周溝を1条確認した。確認した周溝は、二重の周溝の外側の周溝と思われる。周溝の深さは遺構確認面から53～65cmを測る。そのほか時期不明の溝跡が1条確認された(根切り溝か?)。調査区から遺物は出土しなかった。

(2) 第5次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から310m、那珂川低地を望む台地縁辺から320mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は1カ所のトレン

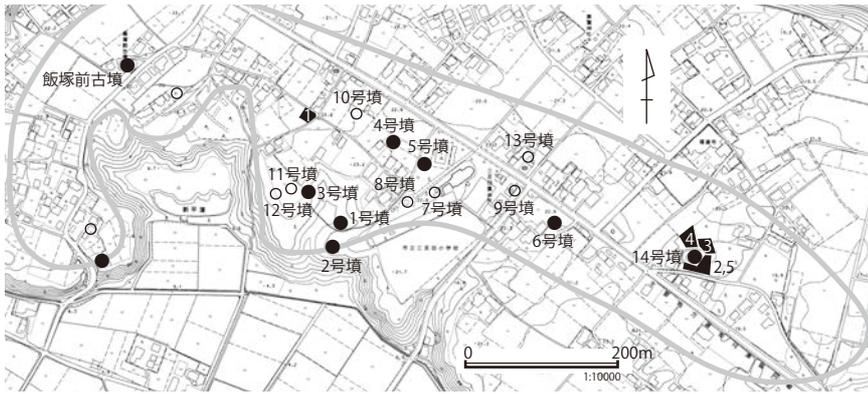


第24図 三反田古墳群第4次調査区



- | | |
|-----------|---------------------|
| 土層説明 | 4 褐色(ローム粒少量含む) |
| AB土層断面 | 5 黒褐色(ロームブロック少量含む) |
| 1 暗褐色(表土) | 6 明褐色 |
| 2 黒褐色 | 7 明褐色(ローム小ブロック少量含む) |
| 3 暗褐色 | 8 明褐色(ローム土混じる) |

第25図 三反田古墳群第4次調査区第14号墳周溝土層(第5トレンチ西壁)



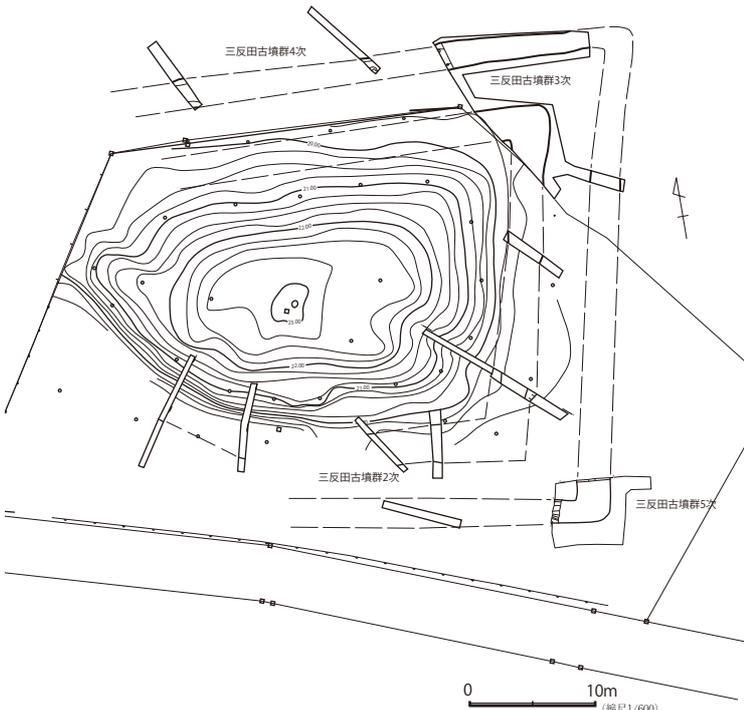
第 26 図 三反田古墳群の調査地点 (数字のみは調査回数)

チを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.3 ~ 0.4 m を測る。調査の結果、三反田古墳群第 14 号墳に伴う周溝を 1 条確認した。確認した周溝は二重周溝の外側周溝であり、その南東隅部である。周溝の深さは遺構確認面から約 0.5 m を測る。そのほか周溝および調査区からは弥生土器の小破片、石器が確認された。

遺物説明

第 28 図

- 1 出土位置：周溝サブトレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 (LR+ 2R) カ 備考：胎土に金雲母含む
- 2 出土位置：表土 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：小片のため不明 文様：付加条縄文 (LR+ 2R) カ 備考：胎土に金雲母含む
- 3 出土位置・注記：周溝サブトレ 時代時期：不明 器種：敲打痕のある円礫 石材：安山岩 法量：長さ 209mm, 幅 71mm, 高さ 73mm, 重さ 1659g 備考：表面にネズミの齧り痕が残る



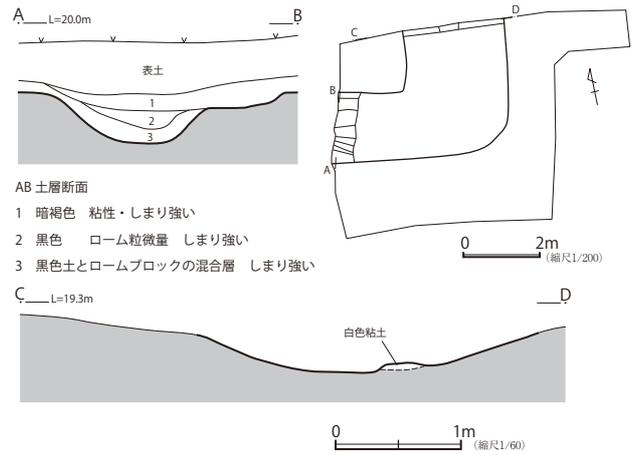
第 29 図 三反田古墳群第 14 号墳調査区的位置

第 9 表 三反田古墳群調査一覧

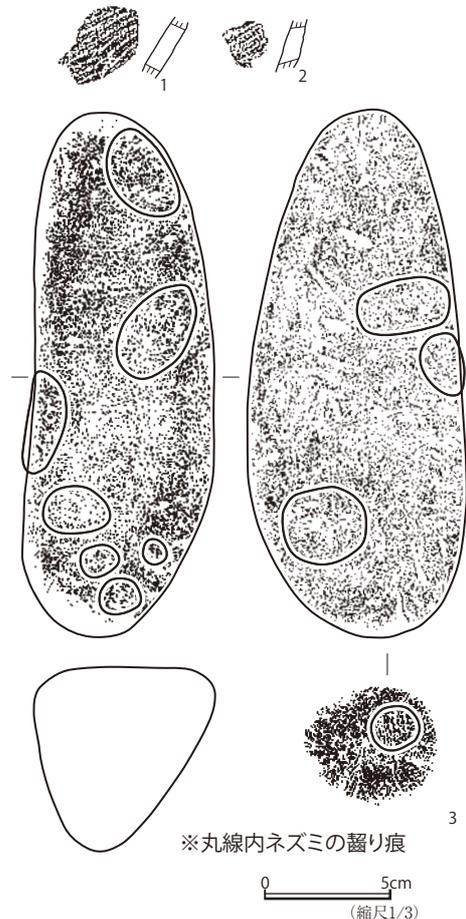
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2009	公社	試掘	住居 3 (古墳前期), 溝 3	1
2	2017	公社	試掘	長方墳 1	2
3	2019	公社	試掘	古墳周溝 (二重周溝)	3

文献

- 1 平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 27 図 三反田古墳群第 5 次調査区

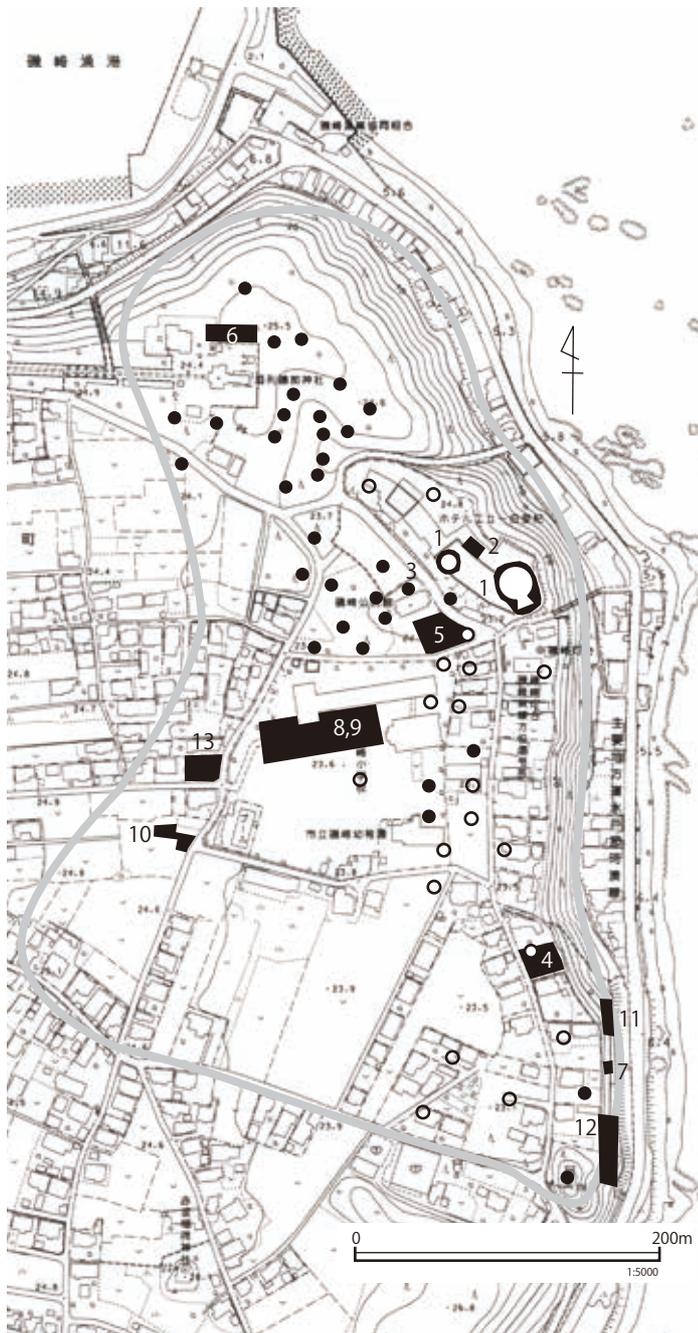


第 28 図 三反田古墳群第 5 次調査区出土遺物

9 磯崎東古墳群

(1) 第13次調査報告

調査地は、太平洋に望む海食崖から220mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査対象地内に7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.9～1.1mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



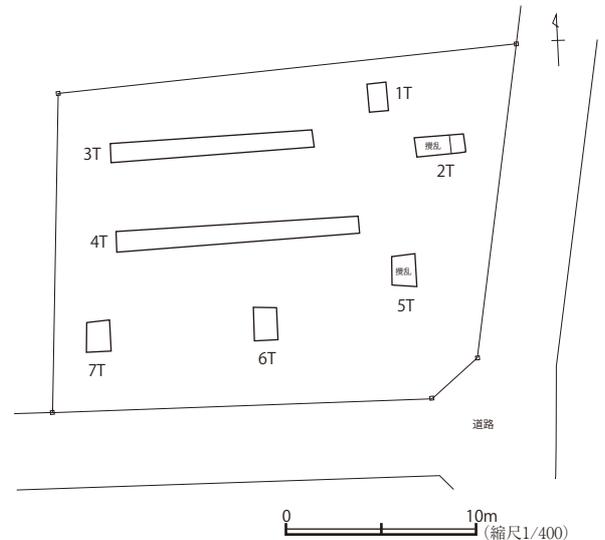
第30図 磯崎東古墳群の調査地点（数字は調査回数）

第10表 磯崎東古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	調査会	本調査	古墳2	1
2	1990	那珂湊市教委	本調査	石棺2	なし
3	1991	調査会	本調査	横穴式石室1	なし
4	1995	市教委	本調査	石棺1	2
5	2004	市教委	試掘	周溝1	3
6	2007	市教委	試掘	なし	4
7	2011	市教委	試掘	石棺1	なし
8	2011	公社	試掘	石室4, 古墳1(横穴式石室1)	5
9	2011	市教委	本調査	同上	なし
10	2012	公社	試掘	古墳1(石室1, 周溝), 溝2, 土坑1	6
11	2014	県文化課	工事立合	石棺2	なし
12	2016	県文化課	工事立合	石棺6	なし

文献

- 1 那珂湊市磯崎東古墳群
- 2 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第31図 磯崎古墳群第13次調査区

10 中曽根遺跡

(1) 第2次調査報告

調査地は、早戸川をのぞむ台地縁辺部付近に位置し、早戸川低地に向かい西に緩やかに傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は14か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～1.0mを測る。調査の結果、溝跡が1条確認された。調査区から遺物は出土していない。

11 平井遺跡

(1) 第4・5・7次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から200mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は第4次が7か所、第5次が17か所、第7次が9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～0.7mを測る。調査の結果、住居跡2基、溝跡1条、土坑3基、ピット21基を確認した。遺物の出土状況から遺構の時期は1号住居跡、2号住居跡ともに平安時代と考えられる。溝跡、土坑は出土遺物がなく時期不明である。土坑は覆土が柔らかかったため近代以後の土坑と思われる。なお調査区からは縄文土器の小破片が出土した。

遺物説明

第36図

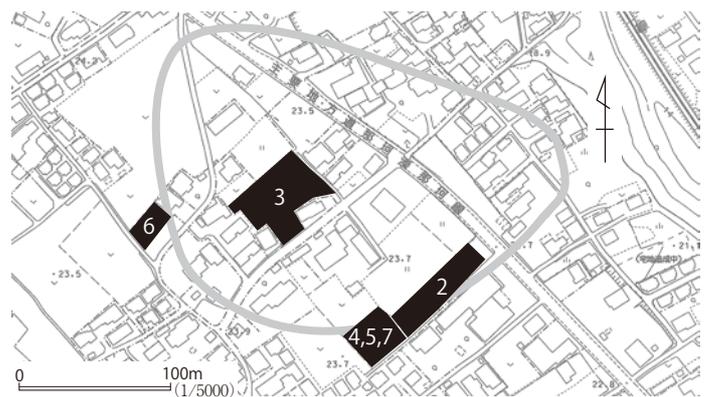
1 出土位置・注記：4次4トレンチ1住 材質：土師器 器種：有台杯 残存：底部 色調：外面褐色、内面黒色 胎土：砂（白褐少）特徴：底部外面回転ヘラ削り。内面ヘラミガキ（底部1方向）・黒色処理。

2 出土位置・注記：5次6トレンチ 材質：土師器 器種：大型管状土錘 残存：破片 法量：推定孔径1.4 色調：暗褐色、破面灰褐色 胎土：礫（白少、赤少）、黒雲母微量 技法等：外面指頭圧痕。

第37図

1 出土位置・注記：7次8トレ 時代時期：縄文時代早期（田戸下層式）カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文

2 出土位置・注記：5次5トレ 時代時期：縄文時代前期（植房式）



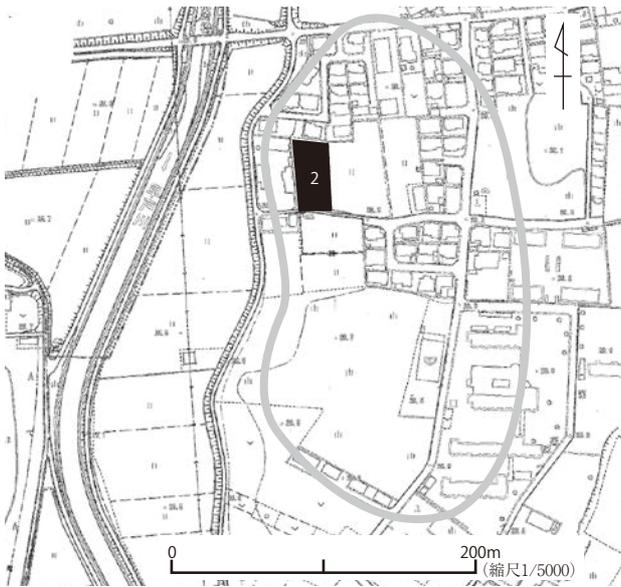
第34図 平井遺跡の調査地点

第12表 平井遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2002	市教委	本調査	住居1	なし
2	2014	公社	試掘	住居1（縄文）、溝1	1
3	2015	公社	試掘	溝2、土坑2	2

文献

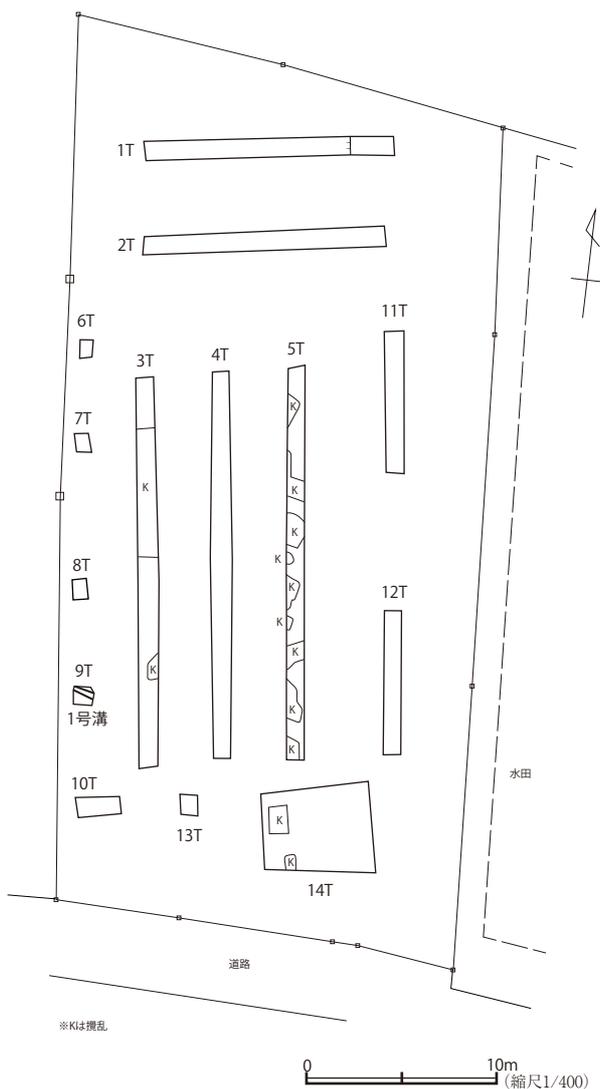
- 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



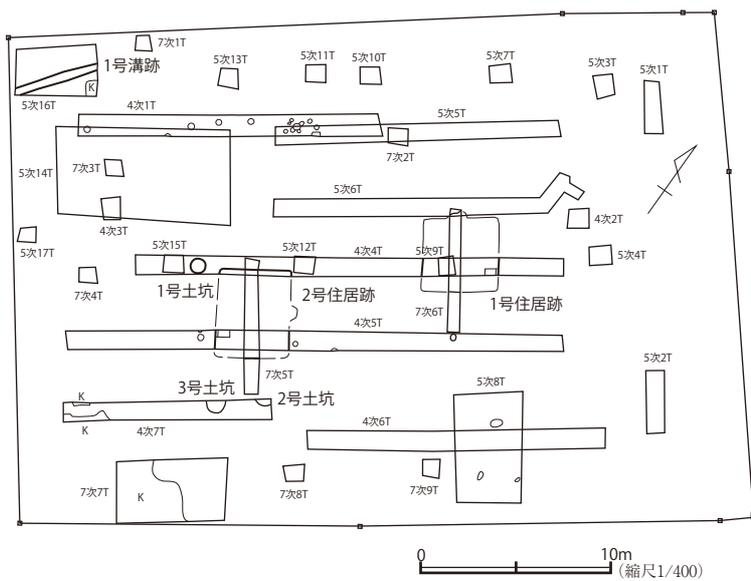
第32図 中曽根遺跡の調査地点

第11表 中曽根遺跡調査一覧

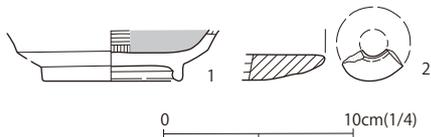
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2006	市教委	不明	不明	なし



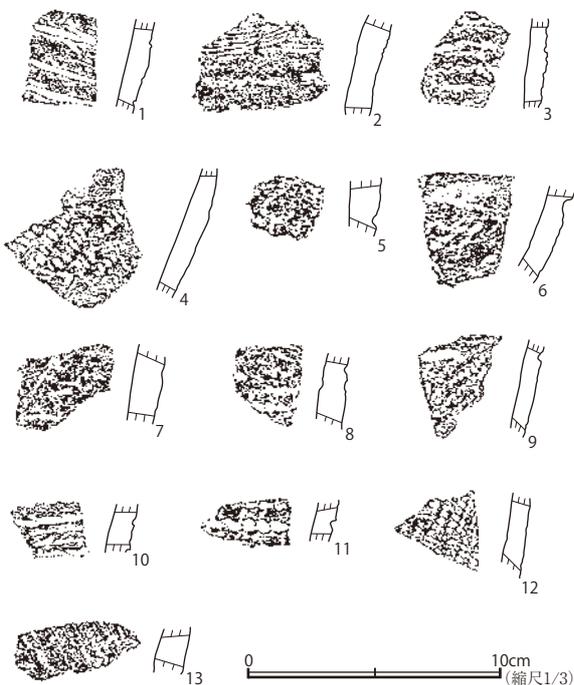
第33図 中曽根遺跡第2次調査区



第35図 平井遺跡第4・5・7次調査区



第36図 平井遺跡第4・5・7次調査区出土遺物(1)



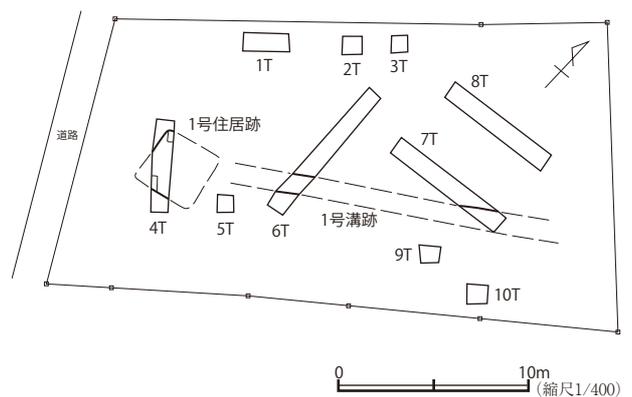
第37図 平井遺跡第4・5・7次調査区出土遺物(2)

- 器種：深鉢形土器 文様：櫛描文 備考：胎土に繊維含む
 3 出土位置・注記：5次5トレ 時代時期：縄文時代前期（植房式）
 器種：深鉢形土器 文様：櫛描文 備考：胎土に繊維含む
 4 出土位置・注記：5次8トレ 時代時期：縄文時代前期（植房式）
 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む
 5 出土位置・注記：5次8トレ 時代時期：縄文時代前期 器種：深

- 鉢形土器カ 備考：胎土に繊維含む
 6 出土位置・注記：5次14トレ 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 文様：撚糸文（LSで撚り戻し） 備考：胎土に繊維含む，器内面磨き
 7 出土位置・注記：4次5トレ 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 備考：胎土に繊維含む
 8 出土位置・注記：4次4トレ 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 備考：胎土に繊維含む
 9 出土位置・注記：5次6トレ 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む，器内面磨き
 10 出土位置・注記：4次4トレ 時代時期：縄文時代前期（浮島式）カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文
 11 出土位置・注記：4次5トレ 時代時期：縄文時代前期（浮島式）カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文
 12 出土位置・注記：4次6トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR）
 13 出土位置・注記：5次16トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 備考：器外面磨き，器外面一部剥落

(2) 第6次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から350mほど離れた台地上のほぼ中央に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。調査の結果、住居跡1基、溝跡1条が確認された。住居跡の時期は遺物が出土しなかったため不明である。

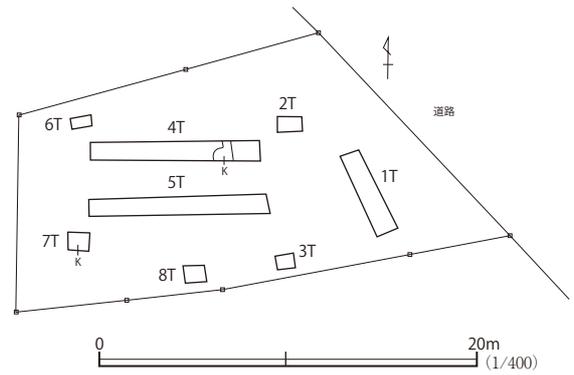


第38図 平井遺跡第6次調査区

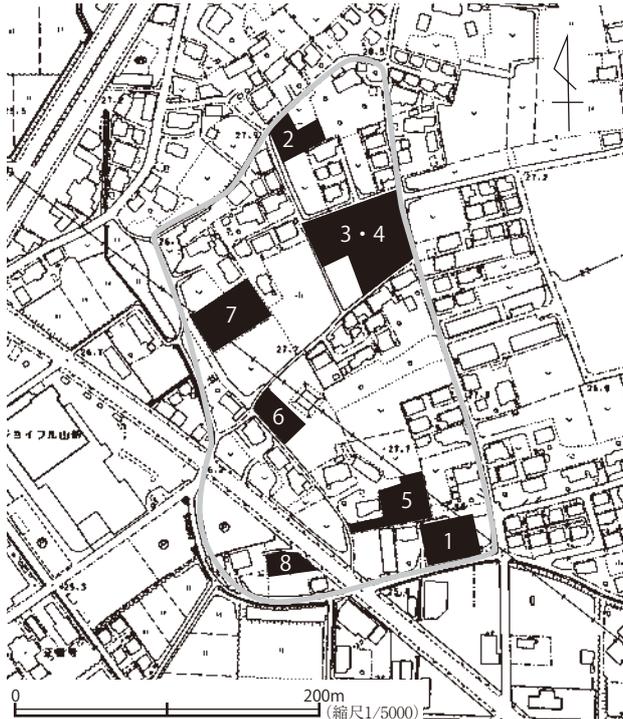
12 松原遺跡

(1) 第8次調査報告

調査地は、中丸川低地に向かいゆるく傾斜する台地縁部に位置する。調査時は畑地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～0.3mを測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



第40図 松原遺跡第8次調査区



第39図 松原遺跡の調査地点

第13表 松原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1998	市教委	試掘	なし	1
2	2001	市教委	試掘	なし	2
3	2008	公社	試掘	住居5（古墳前期1，時期不明4），土坑1（時期不明），ピット1（時期不明），溝2（時期不明），不明遺構1（時期不明）	3
4	2009	調査会	本調査	住居5（古墳前期5），溝2（時期不明）	4
5	2015	公社	試掘	住居1（古墳），井戸1（時期不明）	5
6	2018	公社	試掘	なし	6
7	2019	公社	試掘	住居4（古墳），土坑1	7

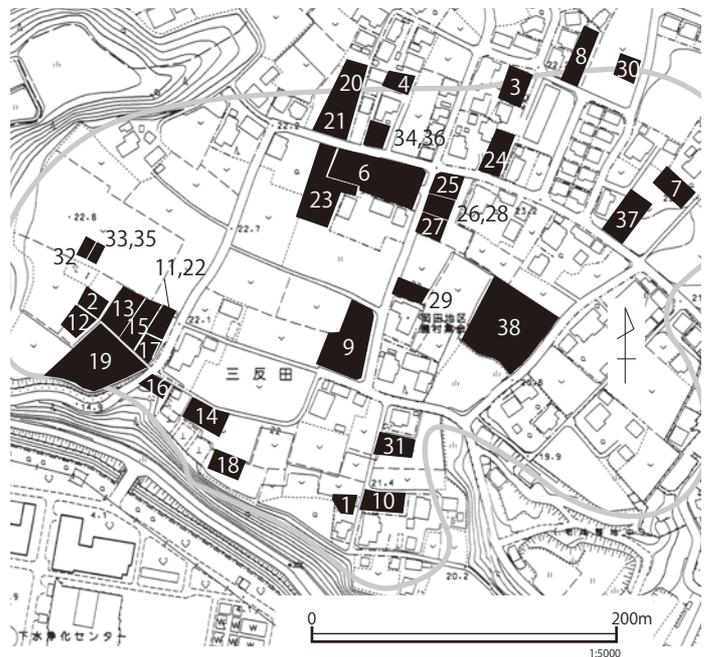
文献

- 平成10年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 君ヶ台遺跡（第7次）、松原遺跡（第4次）、相対古墳群（第2次）、東原遺跡（第3・4次）
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

13 岡田遺跡

(1) 第37次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷部から80mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



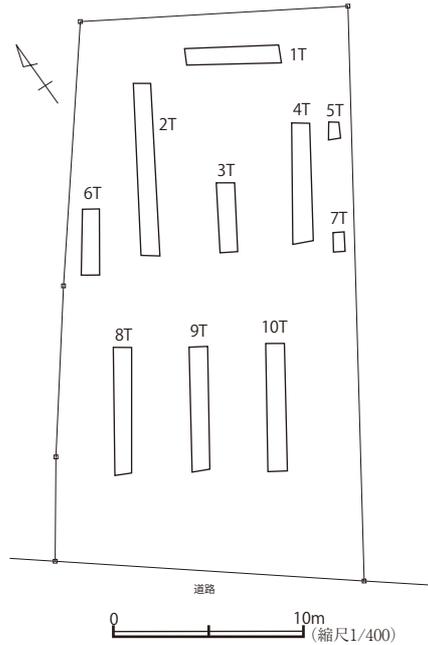
第41図 岡田遺跡の調査地点

第14表 岡田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1983	勝田市教委	本調査	住居3(十王台1,古墳後期2)	2
3	1985	勝田市教委	試掘	住居2(古墳後期1,不明1)	3
4	1990	勝田市教委	本調査	住居3(8世紀1,9世紀1,不明1), 竪穴遺構1	4
5	1991	勝田市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居5(十王台1,古墳後期1, 8世紀2,9世紀1)	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居2(時期不明)	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居1(十王台)	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居(時期不明)	なし
15	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
16	2007	市教委	本調査	住居1(古墳後期),溝1	9
17	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
18	2010	公社	試掘	住居2(十王台1,時期不明1)	10
19	2011	公社	試掘	住居6(十王台4,古墳前期1, 時期不明1)	11
20	2012	公社	試掘	住居1(時期不明)	12
21	2012	公社	試掘	住居2(古墳後期1,時期不明1), 溝1	12
22	2012	公社	試掘	土坑2,ピット9	12
23	2012	公社	試掘	住居6(奈良・平安4,時期不明2), 土坑2,ピット4	12
24	2013	公社	試掘	住居1(奈良・平安)	13
25	2015	公社	試掘	住居1(古墳),ピット1	14
26	2015	公社	試掘	住居5(弥生1,古墳1,平安1,時 期不明2),ピット1(奈良・平安)	14
27	2015	公社	試掘	住居1(古墳),土坑1	14
28	2015	公社	本調査	住居5基(弥生1,古墳1,平安3), 土坑2(平安1,時期不明1),溝1	15
29	2016	公社	試掘	なし	15
30	2017	公社	試掘	なし	16
31	2017	公社	試掘	溝1,土坑1	17
32	2017	公社	試掘	なし	17
33	2017	公社	試掘	住居4(弥生2,時期不明2), 土坑2	17
34	2017	公社	試掘	住居6(奈良・平安),溝1,土坑1	17
35	2018	公社	本調査	住居2(古墳1,平安1)	18
36	2018	公社	本調査	溝1	18

文献

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書 | 10 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 2 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書 | 11 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 3 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書 | 12 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 4 平成元年度市内遺跡発掘調査報告書 | 13 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 岡田遺跡発掘調査報告書 | 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 6 平成15年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 7 平成17年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 16 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 8 平成18年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 17 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 9 平成19年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 18 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |



第42図 岡田遺跡第37次調査区

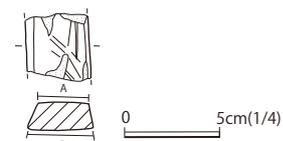
(2) 第38次調査報告

調査地は、那珂川低地から北西方向に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であったが、近年まで水田として使用されていたようである。調査は19か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～1.0mを測る。調査の結果、当調査区は水田として造成された際に、鹿沼パミス層状面まで削られたようであり、その際に遺存していた遺構は湮滅したのだろうと考えられる。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、砥石の小片が少量出土した。

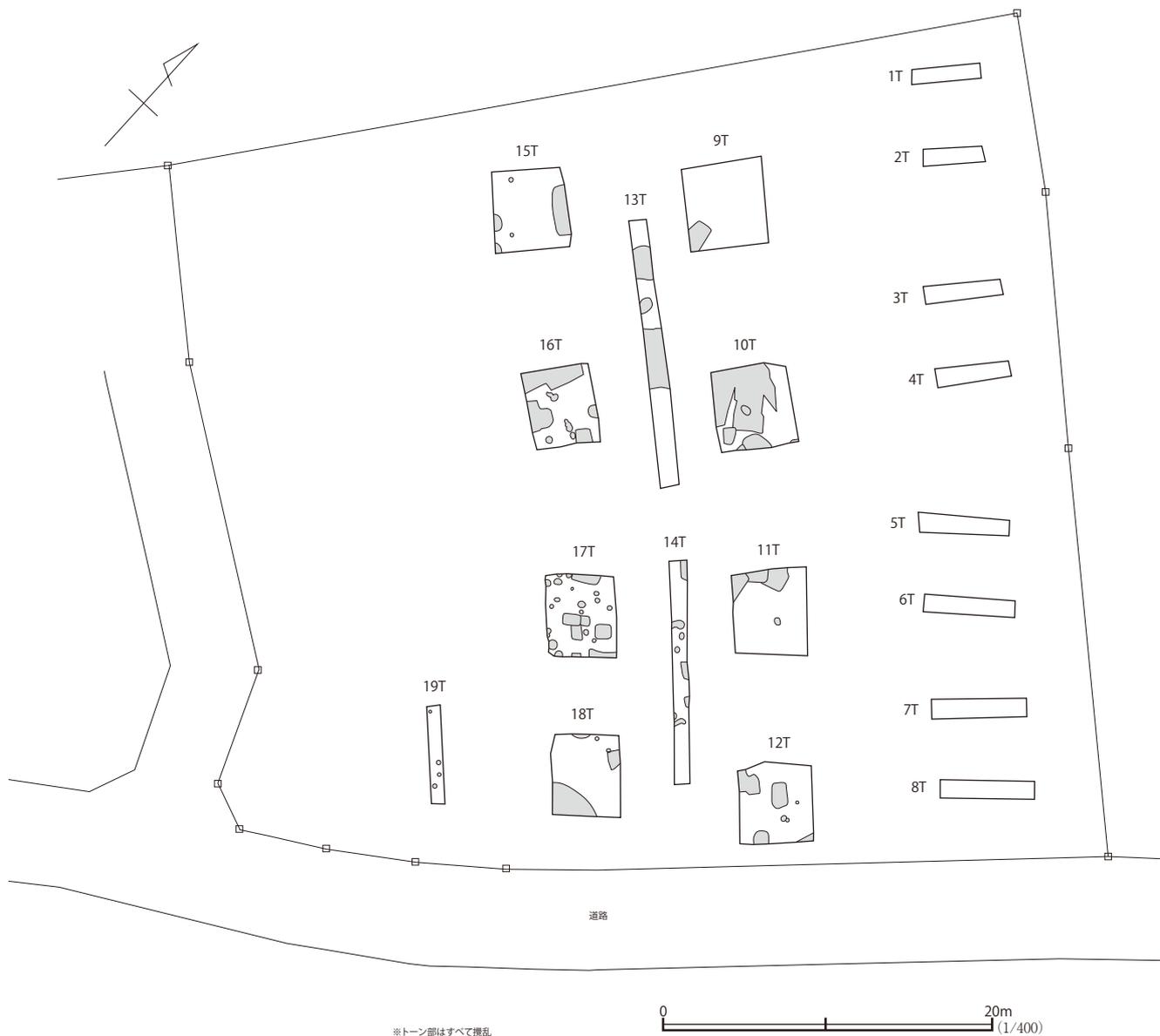
遺物説明

第43図

1 出土位置：11トレンチ 材質：流紋岩 種類：砥石 法量：長3.6、幅3.3、厚1.5、重量31.2g 特徴：砥面2面(A・B面)。A・B面に刻線が認められる。



第43図 岡田遺跡第38次調査区出土遺物

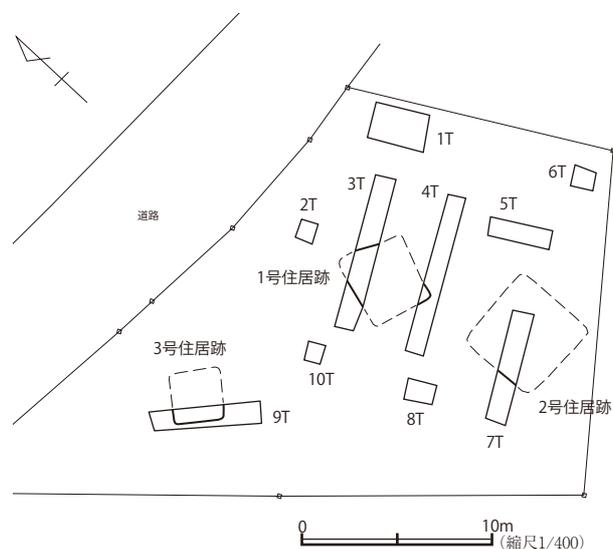


第44図 岡田遺跡第38次調査区

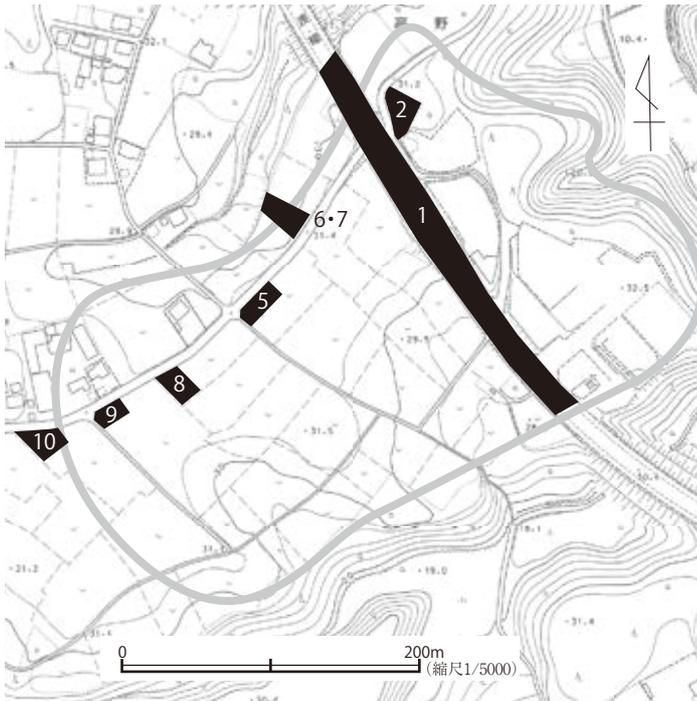
14 東原遺跡

(1) 第10次調査報告

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.8mを測る。調査の結果、住居跡が3基確認された。土師器・須恵器の小破片が出土しており、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。このほか調査区からは近世の磁器片が出土している。



第45図 東原遺跡第10次調査区



第 46 図 東原遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 15 表 東原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	県教育財団	本調査	住居 13(古墳 3, 奈良 5, 平安 1, 不明 4), 土坑 7, 溝 5, 井戸 1	1
2	1999	市遺跡調査会	本調査	土坑 1(縄文)	2
3	2006	市遺跡調査会	本調査	不明	なし
4	2007	市遺跡調査会	本調査	不明	なし
5	2015	公社	試掘	なし	3
6	2015	公社	試掘	住居 1(古墳)	3
7	2015	公社	試掘	なし	3
8	2016	公社	試掘	溝 1	4
9	2019	公社	試掘	住居 1(時期不明)	5

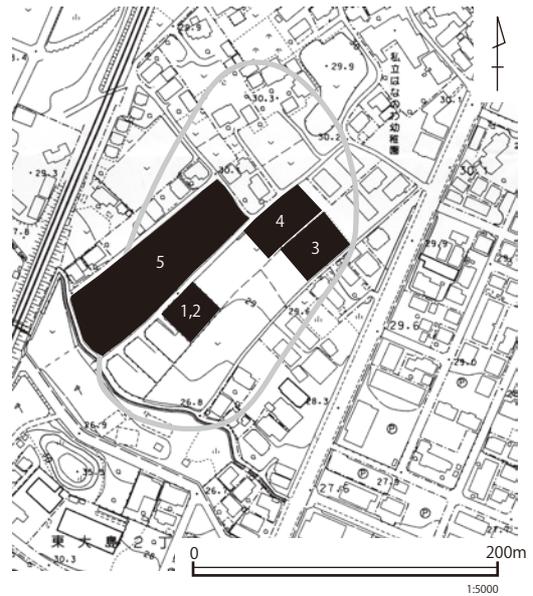
文献

- 1 主要地方道瓜連馬渡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書
- 2 東原遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

15 東石川新堀遺跡

(1) 第 5 次調査報告

調査地は、中丸川の谷から派生する小支谷に向かい緩やかにな南西方向に傾斜する地形を呈しており、調査時は荒地であった。調査は 13 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.1 ~ 0.7 m を測る。調査の結果、遺構は検出されなかった。2・3 トレンチでは窪み状の地形に黒色土が堆積した場所があり、一部にサブトレンチをいれたが遺物包含層は確認されなかった。また 1・4 トレンチでは風倒木痕が確認されている。調査区からは、石器・縄文土器片・弥生土器片・土器片が少量出土した。



第 47 図 東石川新堀遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 16 表 東石川新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1987	勝田市教委	本調査	溝 1	1
2	2000	市教委	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	なし	3
4	2012	公社	試掘	なし	3

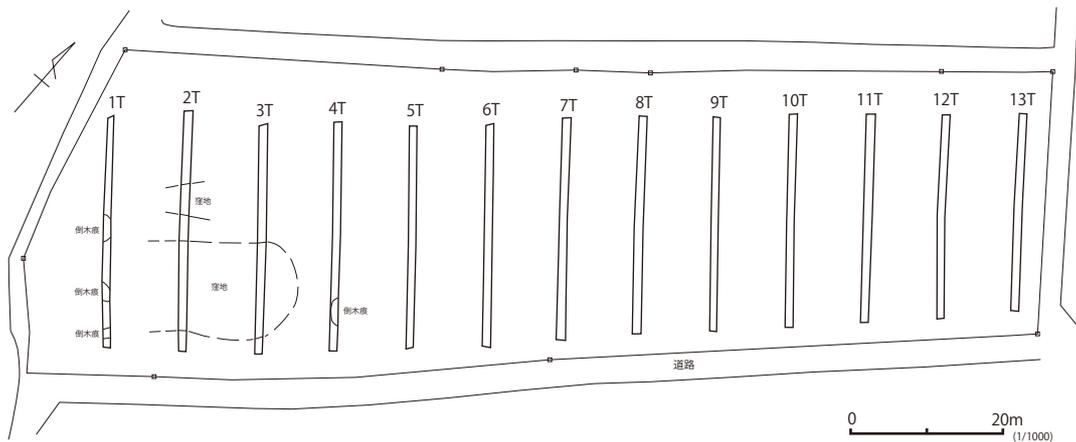
文献

- 1 昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 12 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

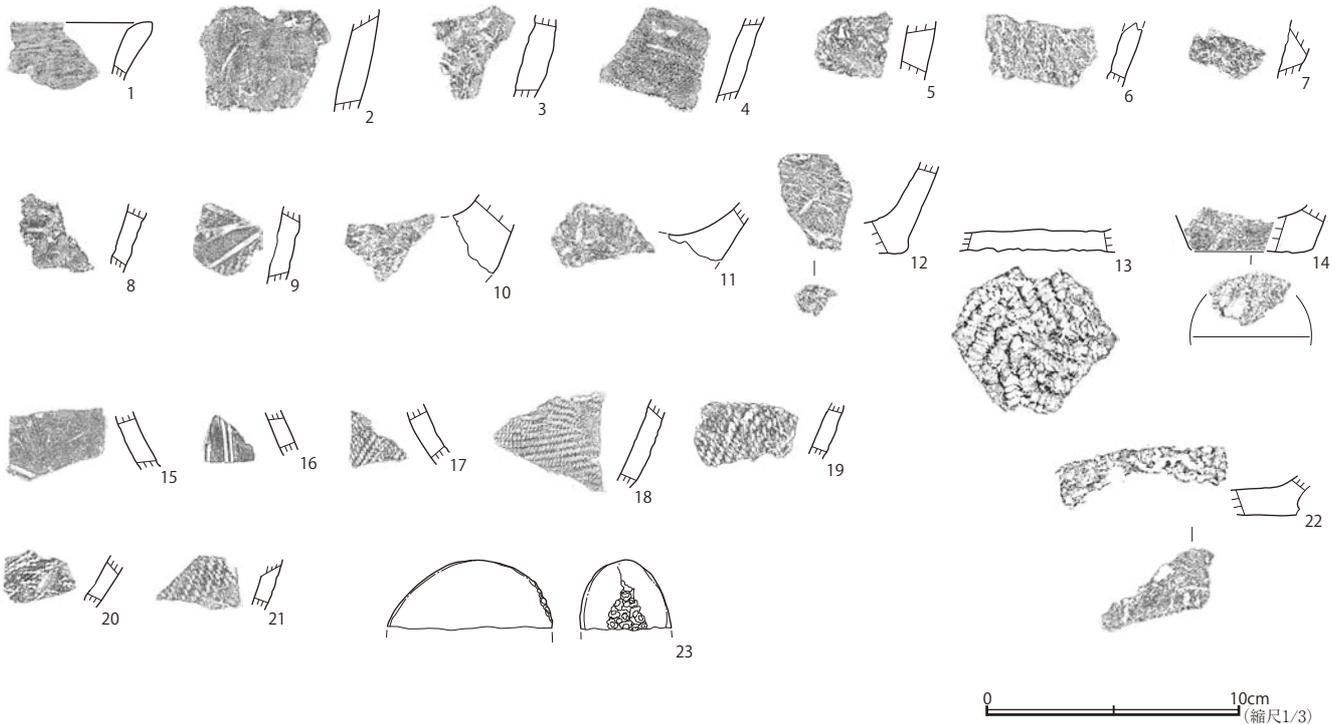
遺物説明

第 49 図

- 1 出土位置・注記: 12 トレ 時代時期: 縄文時代後期カ 器種: 深鉢形土器カ 備考: 器外面磨き
- 2 出土位置・注記: 5 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: 深鉢形土器カ
- 3 出土位置・注記: 2 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: 深鉢形土器カ 備考: 胎土に繊維含む
- 4 出土位置・注記: 1 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: 深鉢形土器 備考: 無文土器
- 5 出土位置・注記: 13 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: ー 備考: 無文土器
- 6 出土位置・注記: 5 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: 深鉢形土器カ 備考: 無文土器
- 7 出土位置・注記: 7 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: ー 備考: 無文土器, 器内面一部剥落
- 8 出土位置・注記: 3 トレ 時代時期: 縄文時代早期カ 器種: ー 備考: 無文土器, 胎土に赤褐色粒目立つ
- 9 出土位置・注記: 13 トレ 時代時期: 縄文時代後期カ 器種: ー 文様: 沈線文, 単節斜縄文(LR)カ 備考: 器内面一部剥落



第48図 東石川新堀遺跡第5次調査区



第49図 東石川新堀遺跡第5次調査区出土遺物

- 10 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：尖底深鉢形土器 備考：器外面に擦痕カ
- 11 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：尖底深鉢形土器
- 12 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：深鉢形土器カ 備考：器外面擦痕
- 13 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代前期（花積下層式）カ 器種：深鉢形土器カ 文様：底面に縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む
- 14 出土位置・注記：1トレ 時代時期：縄文時代 器種：— 備考：器外面擦痕
- 15 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 器種：壺形土器カ 文様：沈線文（半截竹管） 備考：器内面全面剥落，胎土に海綿骨針含む
- 16 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 器種：— 文様：沈線文（半截竹管）
- 17 出土位置・注記：10トレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：

- 文様：単節斜縄文（LR）
- 18 出土位置・注記：11トレ 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ 文様：単節斜縄文（LR）カ 備考：器内面全面剥落
- 19 出土位置・注記：10トレ 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S）カ 備考：器内面磨き
- 20 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中期カ 器種：— 文様：付加条縄文（R-S）カ 備考：胎土に海綿骨針含む，器内面一部剥落
- 21 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：付加条縄文（R-S）カ 備考：器内面磨き
- 22 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 文様：縄文あり
- 23 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文・弥生時代 器種：敲石 石材：砂岩 法量：長さ27mm，幅67mm，厚さ36mm，重さ80.9g

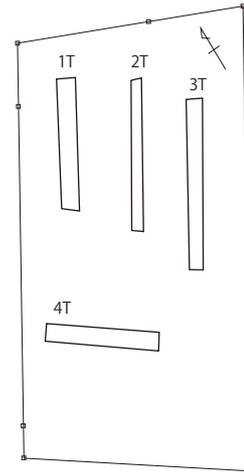
16 市毛上坪遺跡

(1) 第31次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から440mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は4か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7～0.9mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

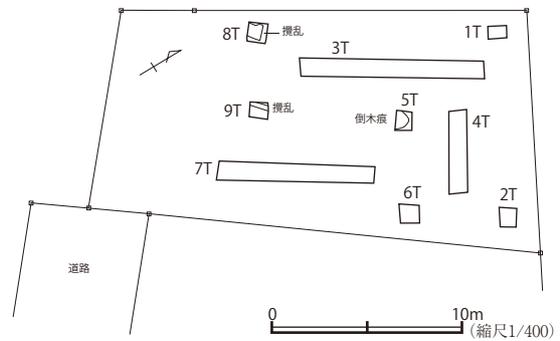
(2) 第32次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から440mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



0 10m (縮尺1/400)

第51図 市毛上坪遺跡第31次調査区



0 10m (縮尺1/400)

第52図 市毛上坪遺跡第32次調査区

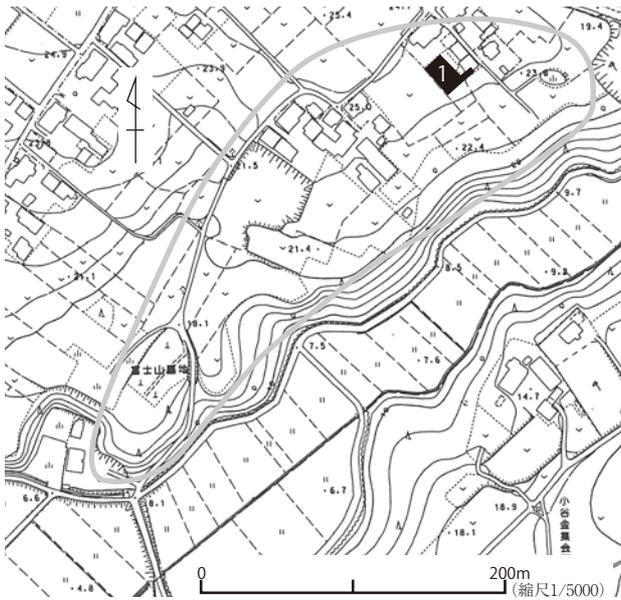


第50図 市毛上坪遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

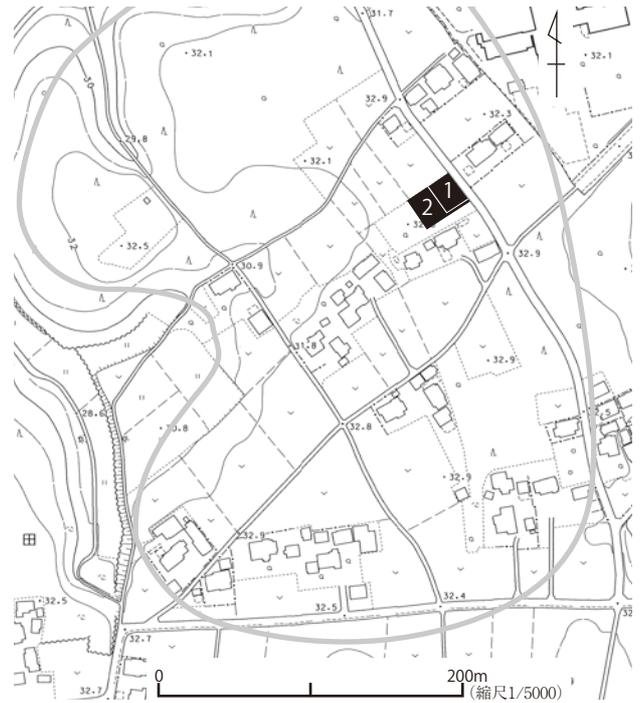
17 部田野富士山遺跡

(1) 第1次調査報告

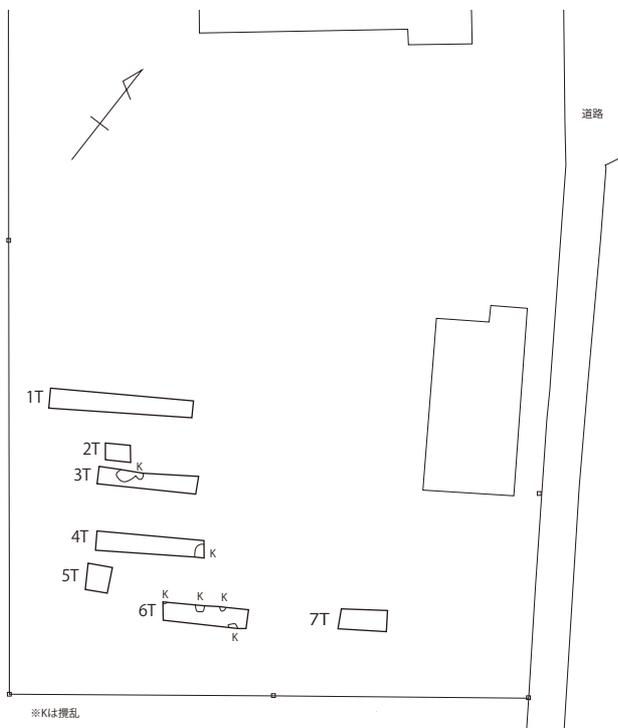
調査地は、那珂川低地から北東方向に入る谷を望む台地縁辺から70mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



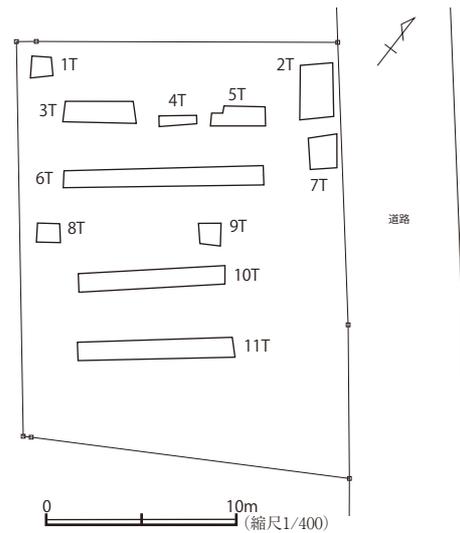
第53図 部田野富士山遺跡の調査地点 (数字は調査回数)



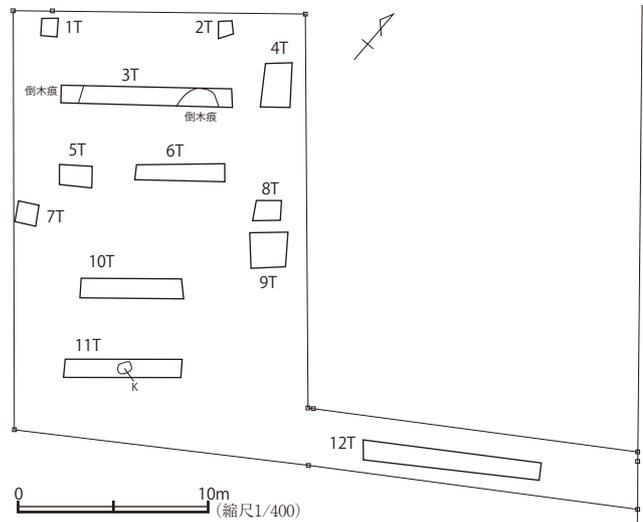
第55図 老ノ塚古墳群の調査地点 (数字は調査回数)



第54図 部田野富士山遺跡第1次調査区



第56図 老ノ塚古墳群第1次調査区



第57図 老ノ塚古墳群第2次調査区

18 老ノ塚古墳群

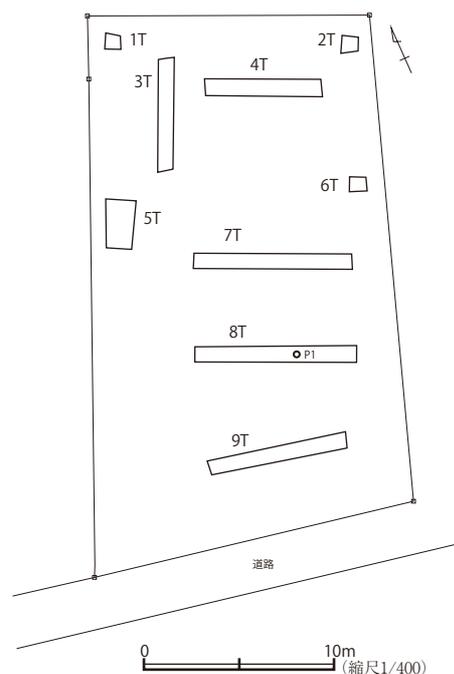
(1) 第1・2次調査報告

調査地は、新川上流から南西方向に入る谷から200mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は林地であった。調査は第1次調査区が11か所、第2次調査区が12か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

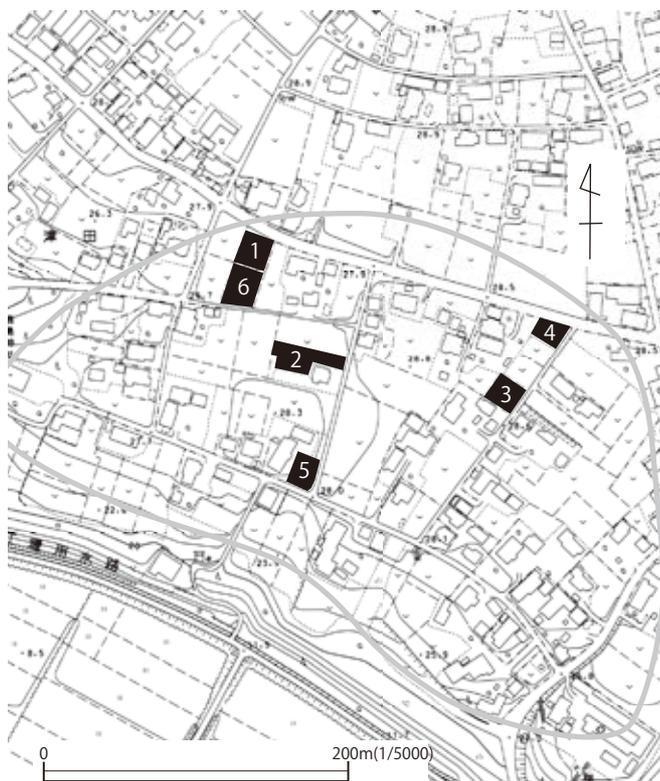
19 上馬場遺跡

(1) 第6次調査報告

調査地は、那珂川低地から入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7～1.0mを測る。調査の結果、時期不明のピット1基が確認された。調査区から遺物は出土していない。



第59図 上馬場遺跡第6次調査区



第58図 上馬場遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第17表 上馬場遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	なし	1
2	2008	公社	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	住居跡3（奈良1、不明2）	3
4	2012	公社	試掘	住居跡1（平安1）、溝3、炭窯1（近代）	3
5	2018	公社	試掘	ピット1	4

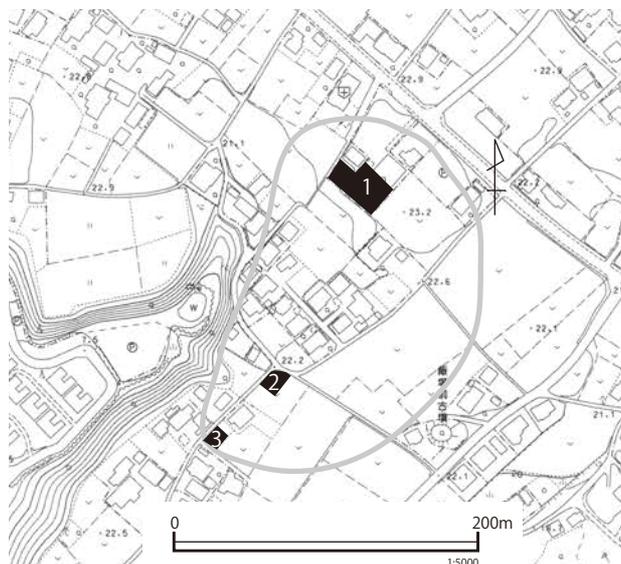
文献

- 1 上馬場遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

20 飯塚前遺跡

(1) 第3次調査報告

調査地は、那珂川低地から北東方向に入り込む小さな谷の東側台地縁辺部付近に位置し平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～0.8mを測る。ただし4～6トレンチ部分は浅い埋没谷と重なるため、黒色土中での遺構確認となっている。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



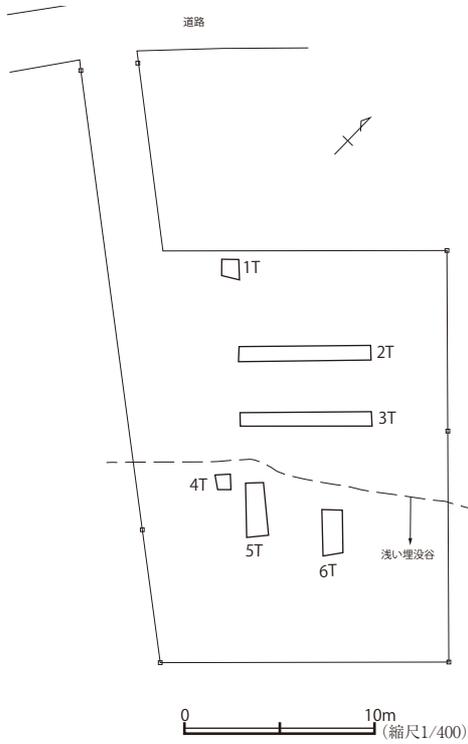
第60図 飯塚前遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 18 表 飯塚前遺跡調査一覧

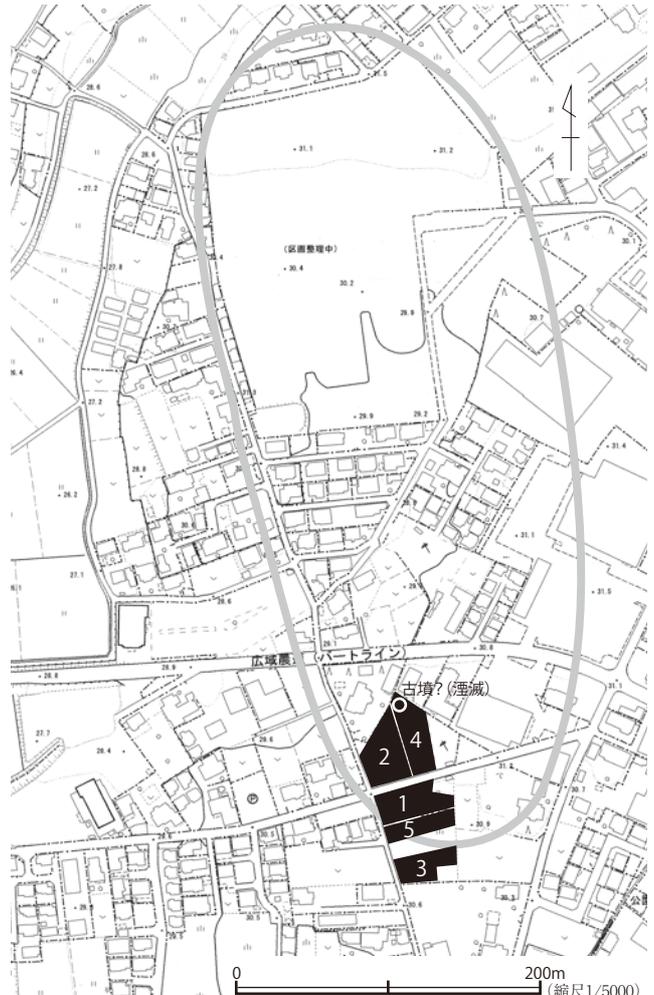
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1996	市遺跡調査会	本調査	溝 1, 土坑 2	1
2	2011	公社	試掘	土坑 1	2

文献

- 1 内手遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 61 図 飯塚前遺跡第 3 次調査区



第 62 図 寄居新田古墳群の調査地点 (数字は調査回数)

21 寄居新田古墳群

(1) 第 5 次調査報告

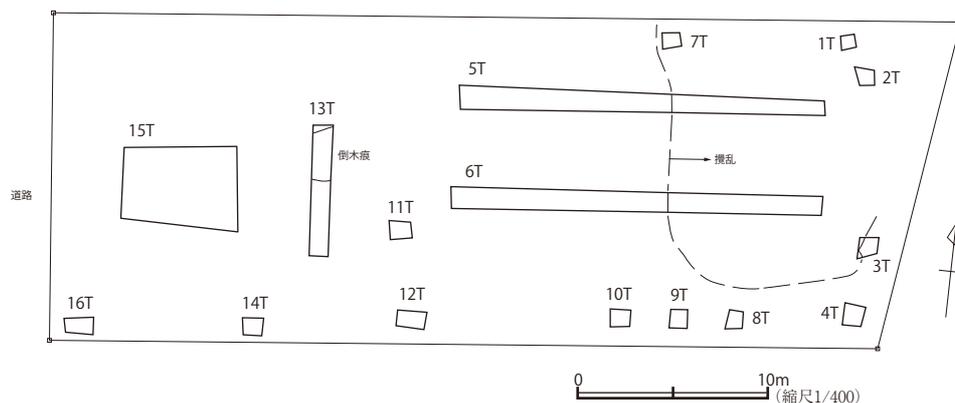
調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は畑地であった。調査は 16 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.6 ~ 0.8 m を測る。調査の結果、調査区からは遺構・遺物は確認されなかった。

第 19 表 寄居新田古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2019	公社	試掘	溝 2	1
2	2019	公社	試掘	なし	1
3	2019	公社	試掘	溝 1	1
4	2019	公社	試掘	溝 1, 土坑 1, ピット 1	1

文献

- 1 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 63 図 寄居新田古墳群第 5 次調査区

Ⅲ 本調査報告

1 三反田新堀遺跡第 20 次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字新堀 5233 番 1

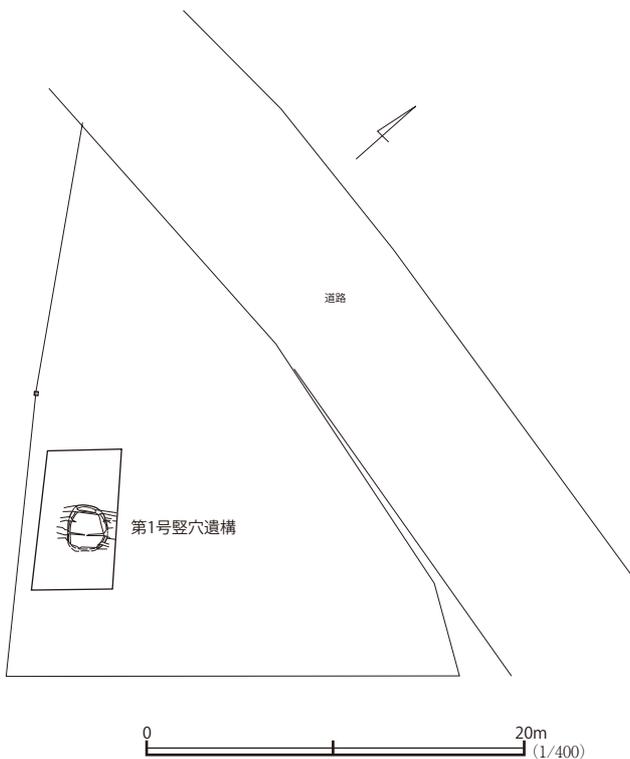
期間 / 令和 2 年 1 月 7 日～1 月 21 日 担当 / 佐々木義則,
田中美零 面積 / 32 m² 時代 / 弥生 遺構 / 竪穴遺構 1
基 (弥生時代)

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から 40 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 19 次調査) がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下、簡単に調査の経過を記す。

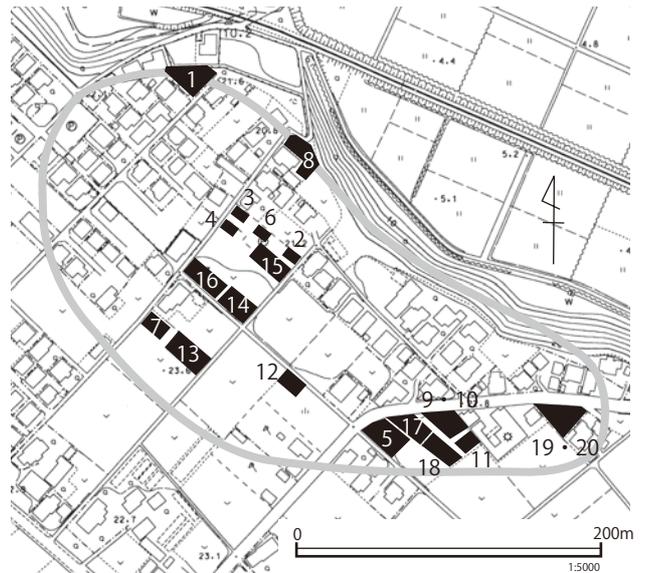
1 月 7 日：調査区設定後、重機による表土除去。竪穴遺構掘り込み開始。 1 月 10 日：遺構完掘写真撮影。

1 月 15 日：平面図作成。 1 月 16 日：サブトレンチによる掘形調査。 1 月 20 日：重機による埋戻し。

1 月 21 日：現場撤収作業。



第 64 図 三反田新堀遺跡第 20 次調査区の位置



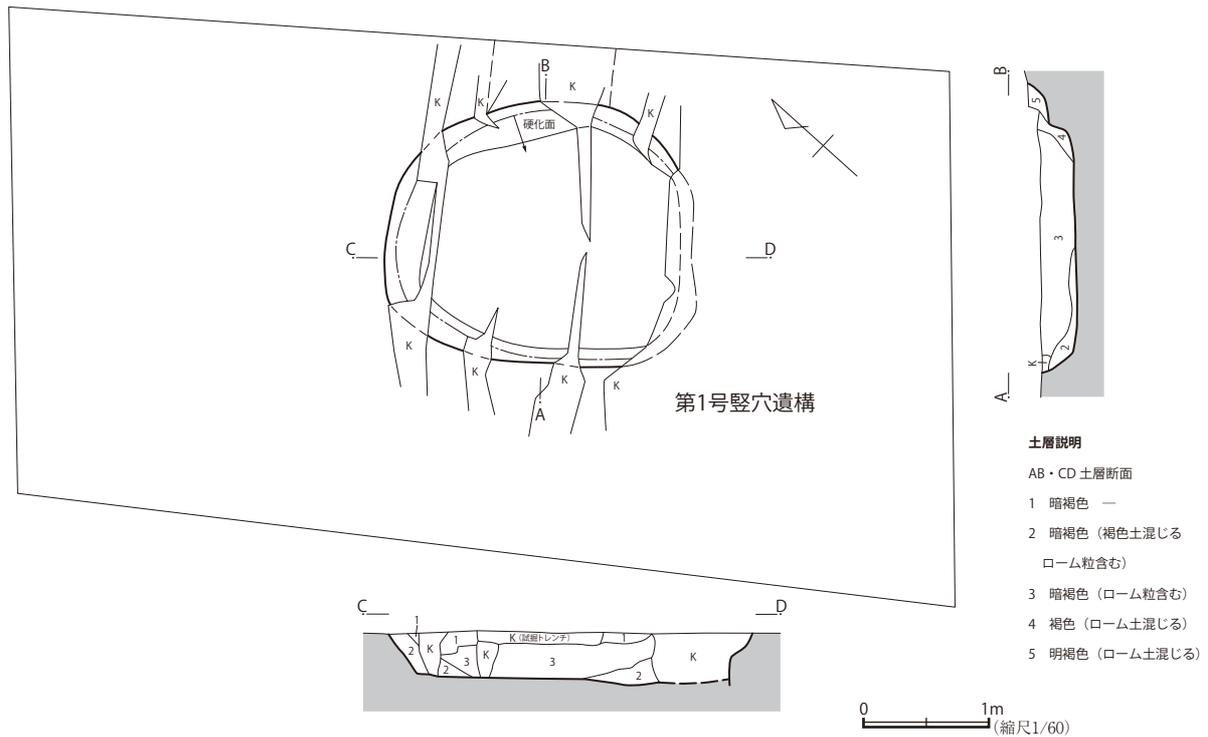
第 65 図 三反田新堀遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

第 20 表 三反田新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝田市教委	試掘	なし	1
2	2004	市教委	試掘	住居 1 (弥生中期), 溝 1	2
3	2005	市教委	試掘	溝 1, 土坑 1	3
4	2005	市教委	試掘	溝 1, 土坑 1	3
5	2006	市教委	試掘	なし	4
6	2007	市教委	試掘	なし	5
7	2008	公社	試掘	溝 1, ビット 3	6
8	2008	公社	試掘	溝 2	6
9	2008	公社	試掘	住居 2 (平安), 溝 1	6
10	2008	公社	本調査	住居 2 (9 世紀), 溝 2	6
11	2008	公社	試掘	なし	6
12	2008	市教委	試掘	なし	6
13	2009	公社	試掘	溝 2	7
14	2010	公社	試掘	溝 2, 土坑 1	8
15	2010	公社	試掘	住居 1 (古墳), 溝 1	8
16	2011	公社	試掘	なし	9
17	2012	公社	試掘	溝 2 (中世後期 1), 土坑 1	10
18	2016	公社	試掘	なし	11
19	2019	公社	試掘	住居 2 (弥生 1, 時期不明 1), ビット 1	12

文献

- 1 昭和 59 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 17 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 66 図 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竖穴遺構

(2) 竖穴遺構

第 1 号竖穴遺構

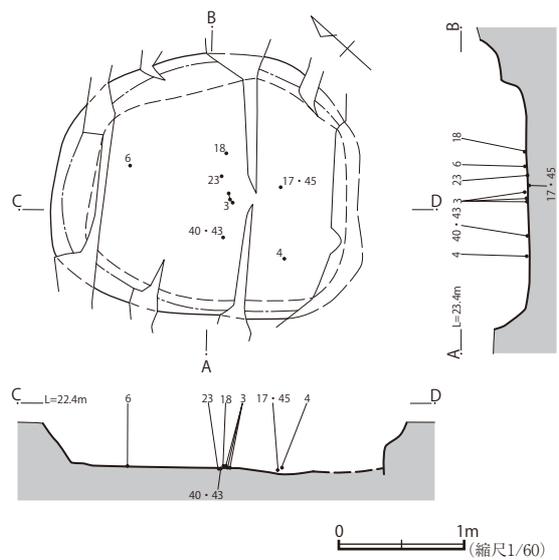
遺構 第 1 号竖穴遺構は重複する遺構はない。当遺構の長軸方向は、N-40° -W を測る。竖穴部の規模は、長軸 2.4 m、短軸 2.1 m で、形状は不整楕円形である。壁は壁高が 0.25 ~ 0.35 m を測り、丸みを持ちながら斜めに立ち上がる。床面に柱穴や炉は認められない。床は全体が硬化しており、その範囲は竖穴部壁の中位にまで及んでいた。竖穴部覆土は、暗褐色土を基調とする自然埋土と思われるが、北東側の壁際にローム土が混じる褐色土の堆積が認められた。竖穴部の掘形はその有無をサブトレンチにより確認したが、掘形はないことがわかった。

遺物出土状況 床面より土器 3・6 が出土し、床面からやや浮いた状態で土器 4・17・18・23・40・43・45 が出土している。いずれも弥生時代中期の土器片であることから、第 1 号竖穴遺構は弥生時代中期に属すると思われる。

遺物説明

第 68 ~ 69 図

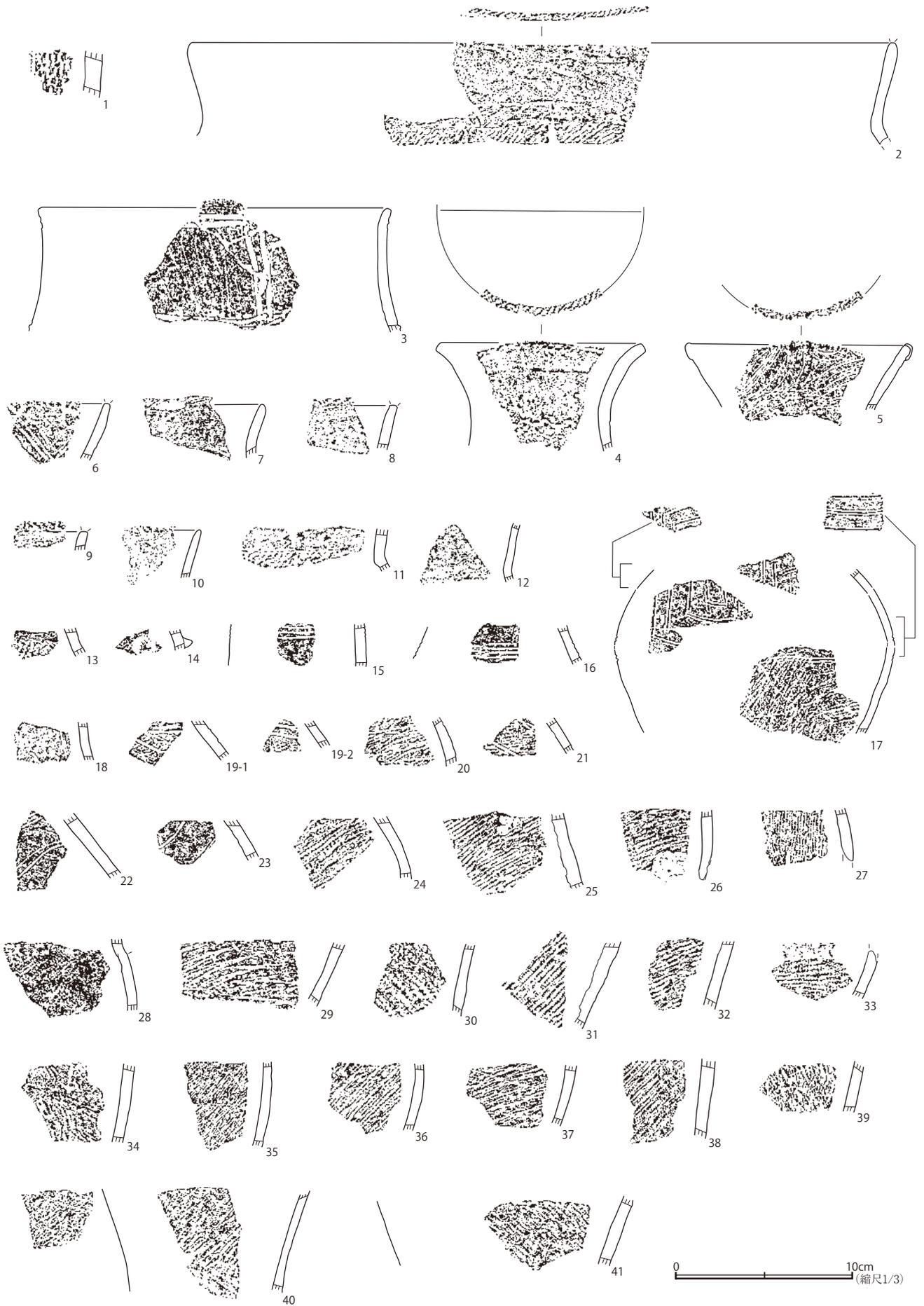
1 出土位置・注記：20 次 1 住 1 区 時代時期：縄文時代中期 器種：
 — 文様：撚糸文 (L) 備考：器内面剥落



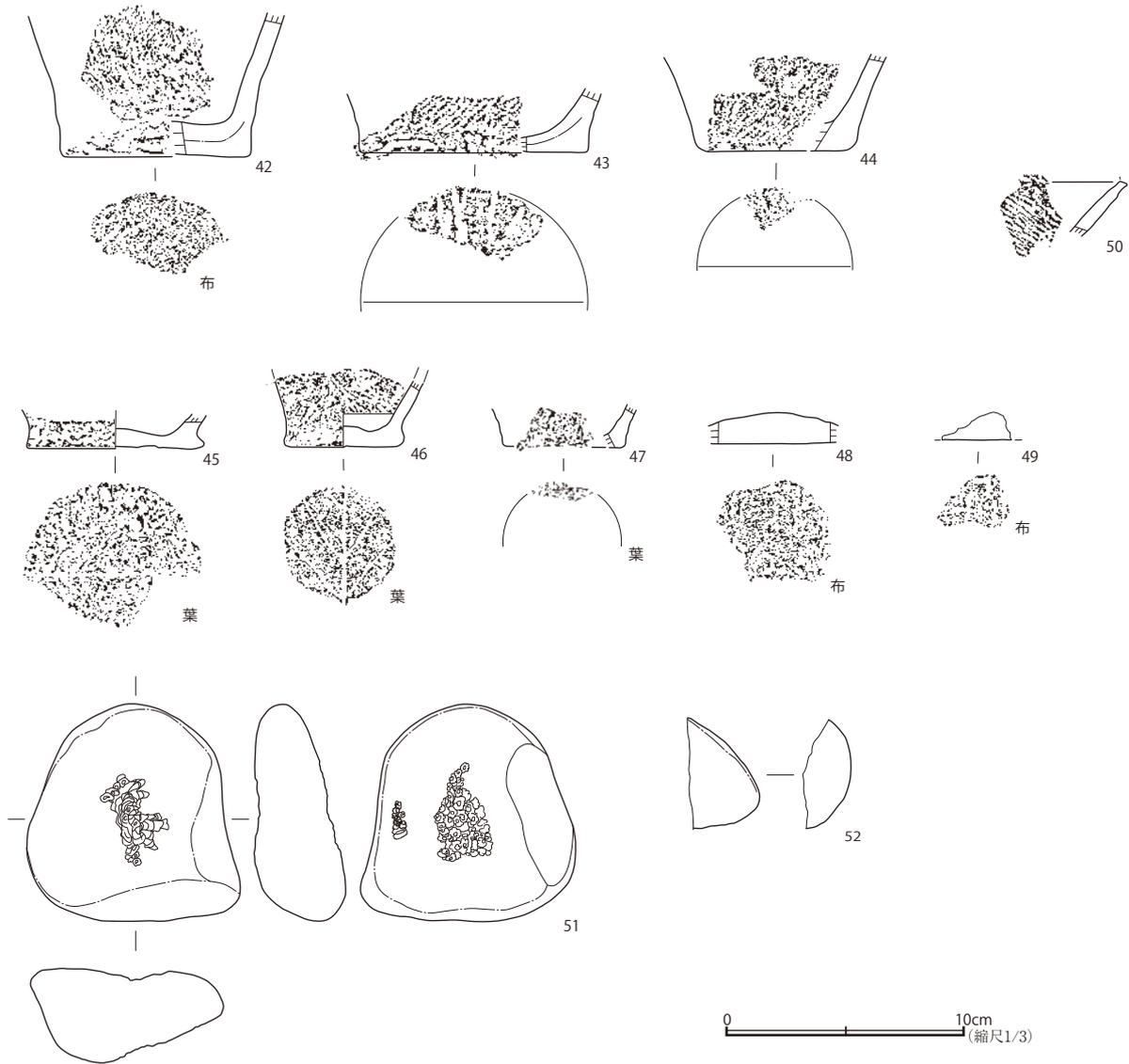
第 67 図 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竖穴遺構遺物出土状況



写真 1 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竖穴遺構遺物出土状況



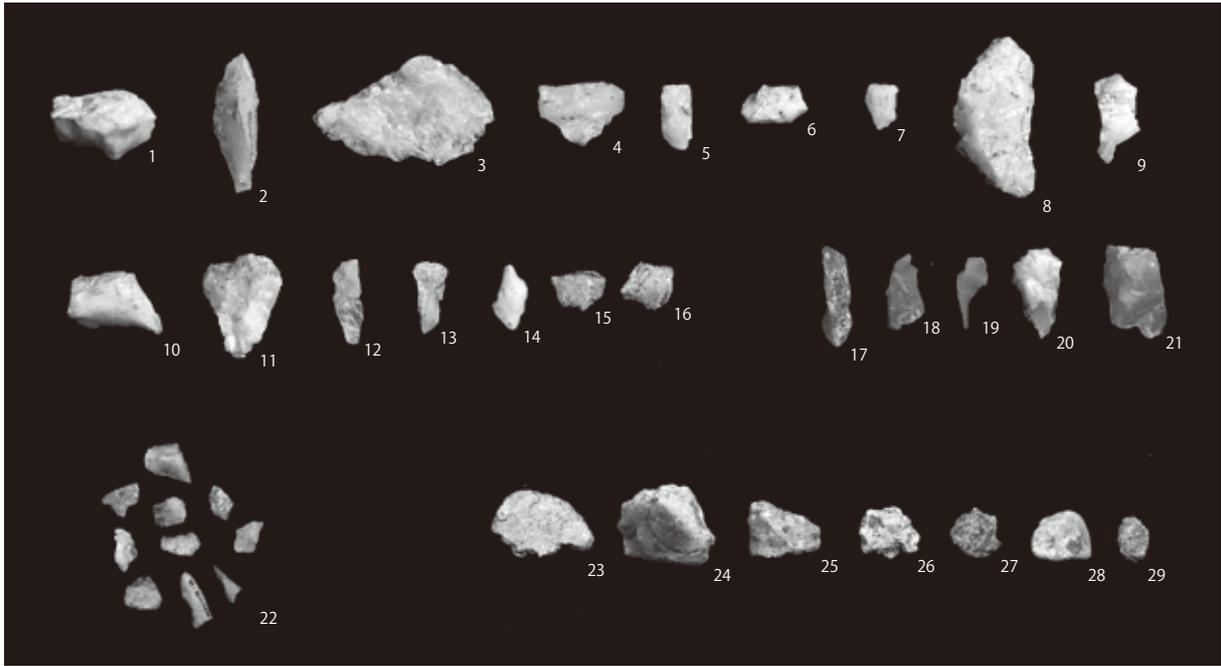
第 68 图 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竖穴遺構出土遺物 (1)



第 69 図 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竪穴遺構出土遺物 (2)

- 2 出土位置・注記：20 次 1 住 2 区, 4 区 時代時期：弥生時代中期
器種：甕形土器 法量：口径 397mm(残存率 9%), 頸径 382mm(残存率 12%) 文様：口唇部縄文, 頸部反撚り縄文(LL) カ
- 3 出土位置・注記：20 次 1 住 P7,P10,P12, 1 住 2 区, 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器 法量：推定口径 198mm, 頸径 196mm(残存率 14%) 文様：頸部沈線文(へら状工具) 備考：器内外面磨き, 胎土に白色粒目立つ
- 4 出土位置・注記：20 次 1 住 P2 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 法量：口径 118mm(残存率 20%) 文様：口唇部縄文(LR), 頸部単節斜縄文(LR) 備考：器内外面磨き
- 5 出土位置・注記：20 次 1 住 3 区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 法量：口径 126mm(残存率 17%) 文様：口唇部突起, 縄文カ, 口縁部沈線文(半截竹管)
- 6 出土位置・注記：20 次 1 住 P5, 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：口唇部縄文, 口縁部沈線文(棒状工具) 備考：器内面磨き
- 7 出土位置・注記：19 次 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：口唇部縄文(LR) カ 備考：器外面磨き, 胎土に海綿骨針

- 含む
- 8 出土位置・注記：20 次 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：口唇部縄文(LR) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 9 出土位置・注記：19 次 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：口唇部縄文(RL)
- 10 出土位置・注記：20 次 1 住 3 区 時代時期：弥生時代中期カ 器種：— 文様：口唇部縄文
- 11 出土位置・注記：20 次 1 住 1 区, 1 住 4 区 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：反撚り縄文(LL) カ
- 12 出土位置・注記：20 次 1 住 3 区 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：縄文あり
- 13 出土位置・注記：20 次 1 住 2 区 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：付加条縄文(R-S) 備考：器内外面磨き
- 14 出土位置・注記：20 次 1 住 4 区 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：貼瘤あり 備考：器外面赤彩あり
- 15 出土位置・注記：20 次 1 住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 法量：頸径 76mm(残存率 8%) 文様：櫛描文(3 本以上) 備考：



第70図 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴遺構出土遺物(3)

(写真縮尺1/2)

器外面赤彩あり

16 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 法量：頸径 85mm(残存率 10%) 文様：沈線文(半截竹管) 備考：器外面赤彩あり

17 出土位置・注記：20次1住P11, 1住3区, 1住, 表土 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 器種：小型壺形土器 法量：胴径 158mm(残存率 9%) 文様：重四角文(半截竹管), 付加条縄文(R-S) 備考：器内面磨き, 器外面炭化物付着

18 出土位置・注記：20次1住P6 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：沈線文(半截竹管) 備考：器内面磨き

19 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 器種：一 文様：沈線文(棒状工具)カ, 擦消し縄文

20 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：沈線文(棒状工具), 付加条縄文(LR+R)カ 備考：器内面磨き

21 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：沈線文(棒状工具), 付加条縄文(LR+R)カ 備考：器内面剥落

22 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 器種：壺形土器カ 文様：沈線文(棒状工具)

23 出土位置・注記：20次1住P9 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 器種：壺形土器カ 文様：沈線文(棒状工具) 備考：器内面剥落

24 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R-S) 備考：器内面一部剥落

25 出土位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：無節縄文(L) 備考：器内面剥落, 二次焼成あり

26 出土位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：無節縄文(L) 備考：器外面一部剥落

27 出土位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代 器種：一 文様：条痕カ 備考：器内面剥落

28 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R-S)

29 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：付加条縄文(LR+R)カ 備考：器内面磨き

30 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器カ 文様：付加条縄文(RL+L)カ

31 出土位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：付加条縄文(LR+R)カ 備考：胎土に礫粒目立つ, 器内面剥落

32 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：擦糸文カ 備考：器内面一部剥落

33 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(LR+2R)

34 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：反撚り縄文(RR) 備考：器内面一部剥落

35 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L3R+R)カ 備考：器内面磨き

36 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L3R+R)カ 備考：器内面磨き, 器外面炭化物付着

37 出土位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：(LR+RL-Z)カ 備考：器内面磨き

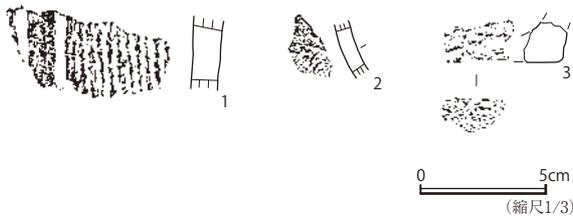
38 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：付加条縄文(L2R+R)カ

39 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(L×Lの撚り戻し)カ

40 出土位置・注記：20次1住P3, 1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 法量：径 104mm(残存率 12%) 文様：反撚り縄文(LL)カ 備考：器内外面磨き

41 出土位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 法量：径 144mm(残存率 13%) 文様：反撚り縄文(RR)カ

42 出土位置・注記：19次1住, 20次1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 法量：底径 80mm(残存率 29%) 文様：反撚り縄文(RR)カ, 底面布目痕



第71図 三反田新堀遺跡第20次調査区出土遺物

- 43 出土位置・注記：20次1住P3 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 法量：底径96mm(残存率23%) 文様：付加条縄文(LR+R), 底面にヘラ状工具による沈線カ
- 44 出土位置・注記：20次1住3区,1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 法量：底径68mm(残存率15%) 文様：付加条縄文(R-S)
- 45 出土位置・注記：20次1住P1,1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 法量：底径74mm(残存率54%) 文様：単節斜縄文(LR)カ,底面木葉痕
- 46 出土位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器 法量：底径50mm(残存率100%) 文様：単節斜縄文(RL)カ,底面木葉痕 備考：胎土に海綿骨針含む
- 47 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：壺形土器カ 法量：底径52mm(残存率18%) 文様：底面木葉痕
- 48 出土位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕
- 49 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕
- 50 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：高坏カ 文様：口唇部縄文,口縁部反撚り縄文(RR) 備考：器外面赤彩あり
- 51 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代 器種：敲石 石材：砂岩 法量：長さ93mm,幅90mm,厚さ39mm,重さ414.75g
- 52 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代 器種：擦石 石材：砂岩 法量：長さ47mm,幅30mm,厚さ20mm,重さ28.8g

第70図

- 1 出土位置・注記：20次1住S1 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ20mm,幅27mm,厚さ18mm,重さ74mg
- 2 出土位置・注記：20次1住S2 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ38mm,幅12mm,厚さ8mm,重さ27mg
- 3 出土位置・注記：20次1住S3 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ30mm,幅49mm,厚さ9mm,重さ85mg
- 4~7 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 8・9 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 10~16 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 17~19 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ 備考：17は外形が円礫の破片で水晶が生じている
- 20 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ

21 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ

22 出土位置・注記：20次1住2区,4区,1住 時代時期：弥生時代 石材：石英

23~29 出土位置・注記：20次1住2区,3区,1住 時代時期：弥生時代 器種：焼粘土塊 備考：23は平らなクッキー状の焼粘土塊

(3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

遺物説明

第71図

- 1 出土位置・注記：20次表土 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 器種：深鉢形土器 文様：沈線文,撚糸文(L)カ 備考：器内面磨き
- 2 出土位置・注記：19次9トレ 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：付加条縄文(LR+R)カ
- 3 出土位置・注記：20次表土 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕

2 市毛上坪遺跡第 30 次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛上坪 1209 番 5 期間 / 令和 2 年 1 月 21 日～2 月 12 日 担当 / 佐々木義則, 田中美零 面積 / 77 m² 時代 / 弥生・古墳 遺構 / 竪穴住居跡 4 基 (弥生時代 1 基, 古墳時代 3 基), 土坑 3 基

調査地は, 那珂川低地を望む台地縁辺から 140 m ほど離れた地点に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 29 次調査) がなされていたが, 今回の調査により試掘とは一部の遺構配置が異なる結果となった。調査区は全体的にかなり深く攪乱が入っており, 遺構の遺存状況はよくなかった。以下, 簡単に調査の経過を記す。

1 月 21 日: 調査区設定。 1 月 22～24 日: 重機による表土除去。 1 月 30 日: 遺構確認, 掘り込み開始。

1 月 31 日: 図面・写真による記録作業開始。 2 月 5 日: 調査区全体図作成。 2 月 12 日: 現場撤収作業。

(2) 住居跡

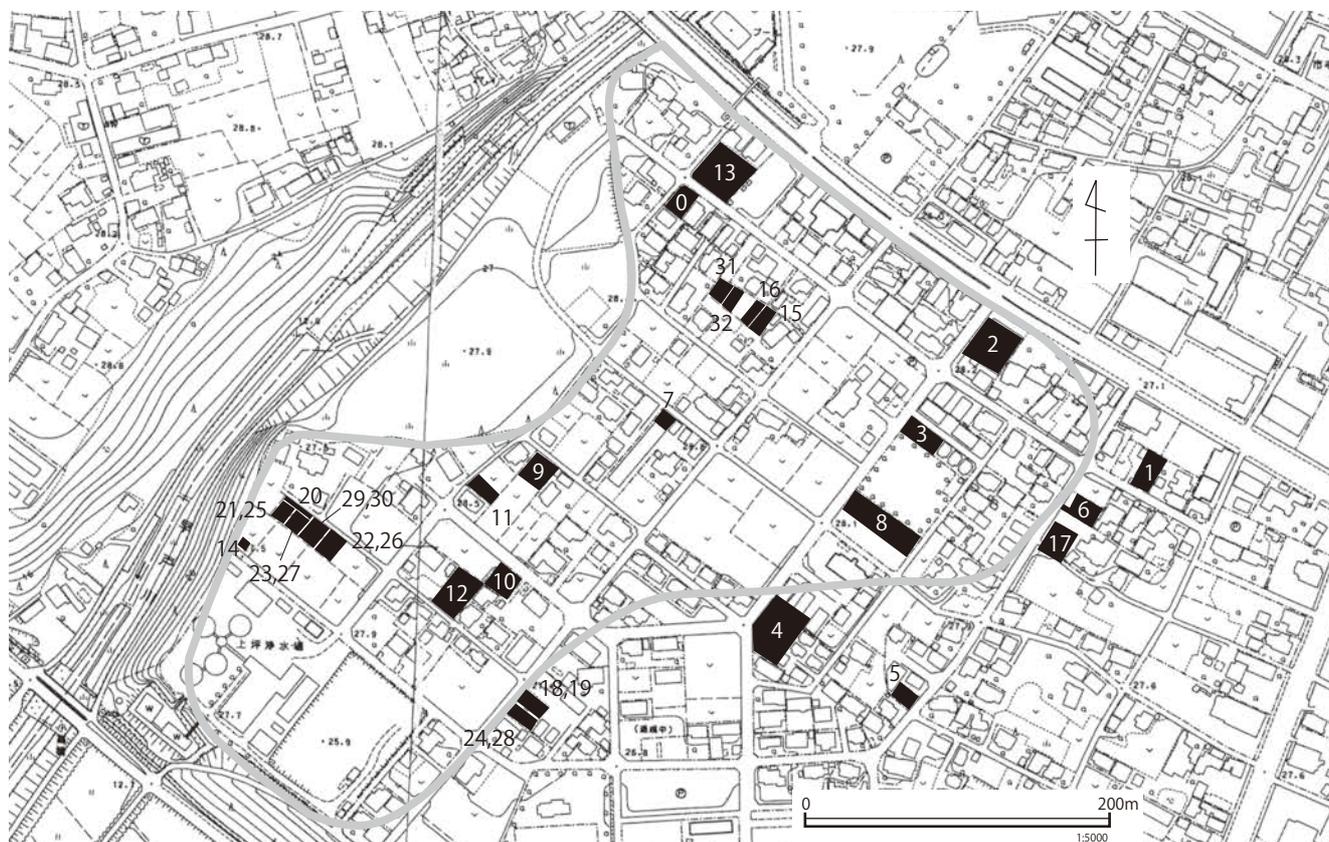
第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は床面・竈の一部等が確認できたのみで遺存状況は悪く, 規模や形状等は不明である。北東側の床面境界部分と思われるラインが, 遺構確認面の色調差により確認でき, 支柱穴のあり方などを合わせ考えると, 主軸方向は, N-45° -W を測る。遺存部分の状況からみて竪穴部の規模は一辺 5 m 以上と推定される。ピットは P1～4 が支柱穴であろう。ピットの深さは, P1 が 64cm, P2 が 31cm, P3 が 59cm, P4 が 51cm を測る。攪乱が床面まで達しているため床の遺存状況は悪いが, それでも竈前から南東方向に向かい支柱穴内部に硬化面を認めることができた。竈は焚口部分付近の確認にとどまるが, 泥岩切石により焚口部両脇は補強されていた。

遺物は覆土中より土師器甕や杯の小片が出土している。土器の年代は不明瞭であるが, 古墳時代後期になると思われる。

第 2 号住居跡

遺構 第 2 号住居跡は北西隅部が攪乱のため床面が



第 72 図 市毛上坪遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 21 表 市毛上坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1979	勝田市教委	本調査	不明	なし
1	1980	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (古墳)	1
2	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (古墳)	なし
3	1985	勝田市教委	試掘調査	なし	2
4	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 2 (平安), 溝跡 1, 土坑 10	2
5	1986	勝田市教委	試掘	なし	3
6	1991	勝田市教委	試掘	なし	4
7	1992	勝田市教委	本調査	溝跡 1	5
8	1996	市教委	試掘	なし	6
9	2006	市教委	試掘	なし	7
10	2006	市教委	本調査	住居跡 2 (古墳 1, 平安 1), 土坑 1	7
11	2006	市教委	試掘	住居跡 2 (古墳 1, 平安 1), 溝跡 1	7
12	2012	公社	試掘	住居跡 14 (古墳か)	8
13	2013	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)	9
14	2014	公社	試掘	住居跡 1 (古墳), 土坑 1	10
15	2015	公社	試掘	住居跡 1 (古墳), 溝跡 1	11
16	2016	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	12
17	2017	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	13
18	2017	公社	試掘	住居跡 3 (平安 2, 時期不明 1)	13
19	2017	公社	本調査	住居跡 4 (古墳 2, 平安 2)	14
20	2017	公社	試掘	住居跡 2 (時期不明), 溝跡 1	14
21	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳)	14
22	2018	公社	試掘	住居跡 4 (弥生 1, 古墳 3)	14
23	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳), 土坑 2	14
24	2018	公社	試掘	住居跡 4 (奈良・平安)	14
25	2018	公社	本調査	住居跡 5 (古墳), 溝跡 1, 道跡 1, 土坑 2	14
26	2018	公社	本調査	住居跡 4 (古墳)	14
27	2018	公社	本調査	住居跡 4 (古墳), 溝跡 1	14
28	2018	公社	本調査	住居跡 4 (古墳 2, 平安 2)	14
29	2019	公社	試掘	住居跡 6 (古墳 4, 時期不明 2), 溝跡 1	15

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 55 年度)
- 2 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

削られており、また全体的に床面近くまで攪乱されているため、遺存状況は悪い。住居北西部のみの調査であり主軸方向は N-26° -W を測る。竪穴部の規模は東西 6.8 m を測る。ピットは P1・2 が主柱穴と思われるが、位置からみて P2 は主柱穴ではないかもしれない。ピット

の深さは P1 が 67cm, P2 が 53cm を測る。北東隅部の壁高は 11 cm である。炉は 2 か所確認された。炉 1 は径 0.3m ほどに床面が焼けている状況であった。炉 2 は長軸 1 m, 短軸 0.4 m, 深さ 3 cm ほどの浅い掘り込みの底面が焼けるものであった。床面は北壁際を除く部分に硬化面がみられている。竪穴部覆土は攪乱を受け遺存状況がよくないため様相は不明である。住居掘形は EF 土層断面部分にサブトレンチを入れて確認したが特に掘り込みは見られなかった。

遺物は覆土中より土師器甕や杯の小片が出土している。炉をもつ住居跡であることから時期は古墳時代中期になるであろう。

第 3 号住居跡

遺構 第 3 号住居跡は第 1 号住居跡と重複する。円形を呈すると思われる住居跡の南東部のみの調査であり、竪穴部の規模は不明であるが調査部分からみておそらく径 3m ほどになるだろうと思われる。壁高は 0.2 m ほどを測り壁周溝はみられない。ピットは壁際に 2 つあり、深さは P1 が 18cm, P2 が 16cm を測る。P1・2 付近を除く底面が硬化していた。竪穴部覆土は壁際にロームブロックを含む暗褐色土の堆積がみられており、竪穴部周囲の盛土の崩落土かもしれない。なお床面からの観察であるが、住居掘形は認められないようである。

遺物は覆土から土師器甕の小片が少量出土しているが、住居形態からみて弥生時代の住居跡と思われるので、1 点のみ出土した弥生土器を図化している。

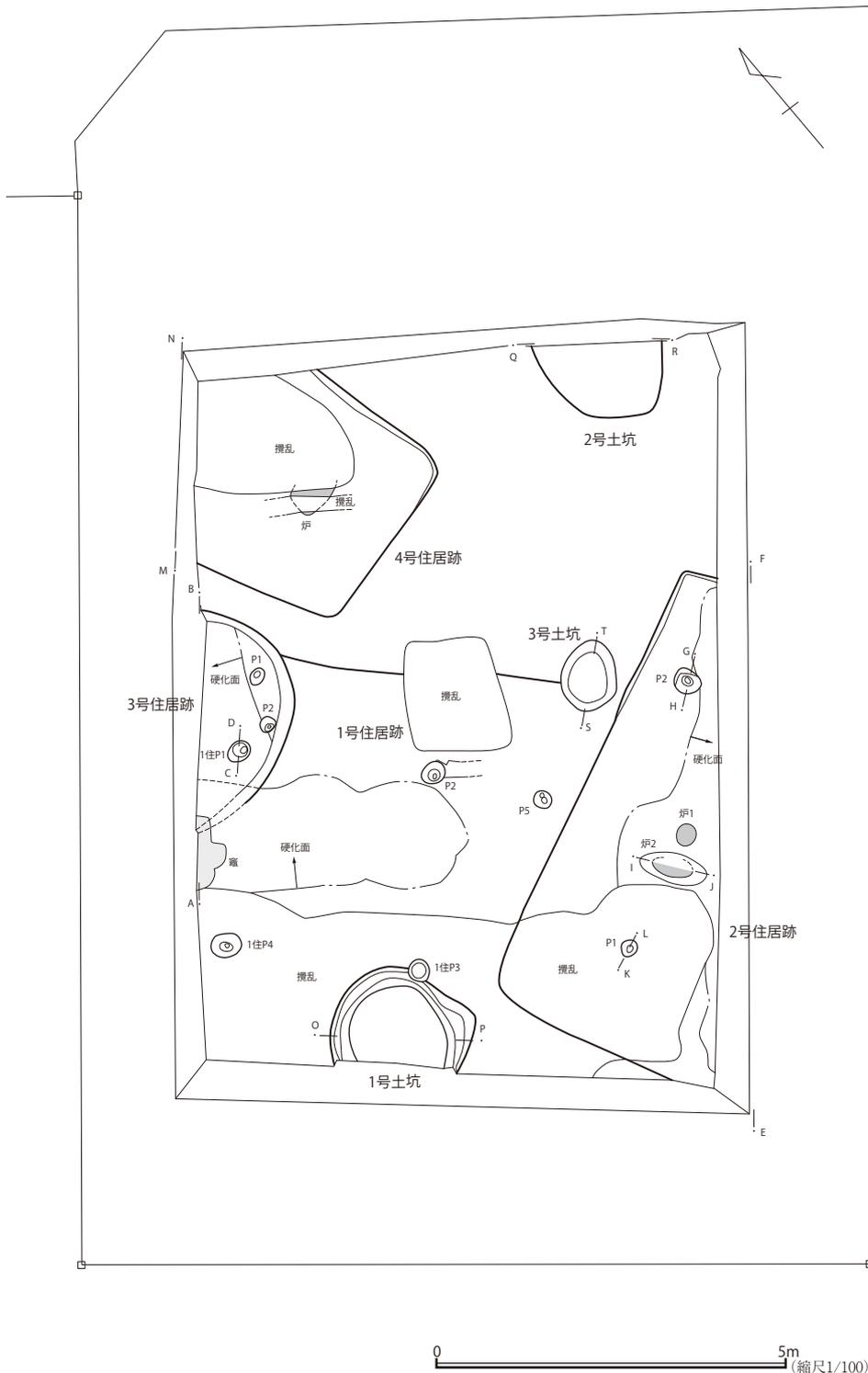
遺物説明

第 75 図

1 出土位置・注記：3 住 時代時期：弥生時代後期 (十玉台式) 器種：壺形土器 文様：櫛描文 (4 本) カ, 付加条縄文 (L × L) 備考：器外面に炭化物付着, 器内面一部変色

第 4 号住居跡

遺構 第 4 号住居跡は攪乱のため床面が大きく削られており、また全体的に床面近くまで攪乱されているため、遺存状況は悪い。住居南半部のみの調査であり主軸方向は N-17° -W を測る。竪穴部の規模は東西 3.2 m, 南北 3.6 m 以上を測る。ピットは認められなかった。東壁の壁高は 9 cm である。炉は 1 か所確認され、推定径 0.7 × 0.5m ほどに床面が焼けるものである。床面は攪乱が



第73図 市毛上坪遺跡第30次調査区

多く不明瞭ではあるが、全体的に硬化するようである。住居掘形はMN土層断面部分では全体的に10cmほど掘り込まれているようである。

遺物は覆土中より土師器小片が少量出土している。炉をもつ住居跡であることからみて、時期は古墳時代中期であろう。

(3) 土坑

土坑は3基検出した。第1号土坑は径2.0m、深さ30cmほどを測る円形を呈する。底面は平坦で、壁際が1～5cmほど溝状にくぼんでいる。一部掘り下げたところ床下は10cmほどの深さの掘形を有するようであり、ロームブロックを多く含む土で埋め戻されていた。遺物は覆土中より古墳時代後期の土師器杯が出土しているので、当該期の土坑になる可能性もある。

第2号土坑は規模が不明だが、残存部分から推定して2.2×1.7mほどの不整形円形を呈するものと思われる。攪乱により床面の一部が確認されたにとどまるが、やや凹凸のある床面には白色粘土が敷かれていた。遺物は出土しなかった。

第3号土坑は1.0×0.8mほどの不整形円形を呈するものと思われる。壁は緩く斜めに立ち上がり、床面は平坦である。遺物は出土しなかった。

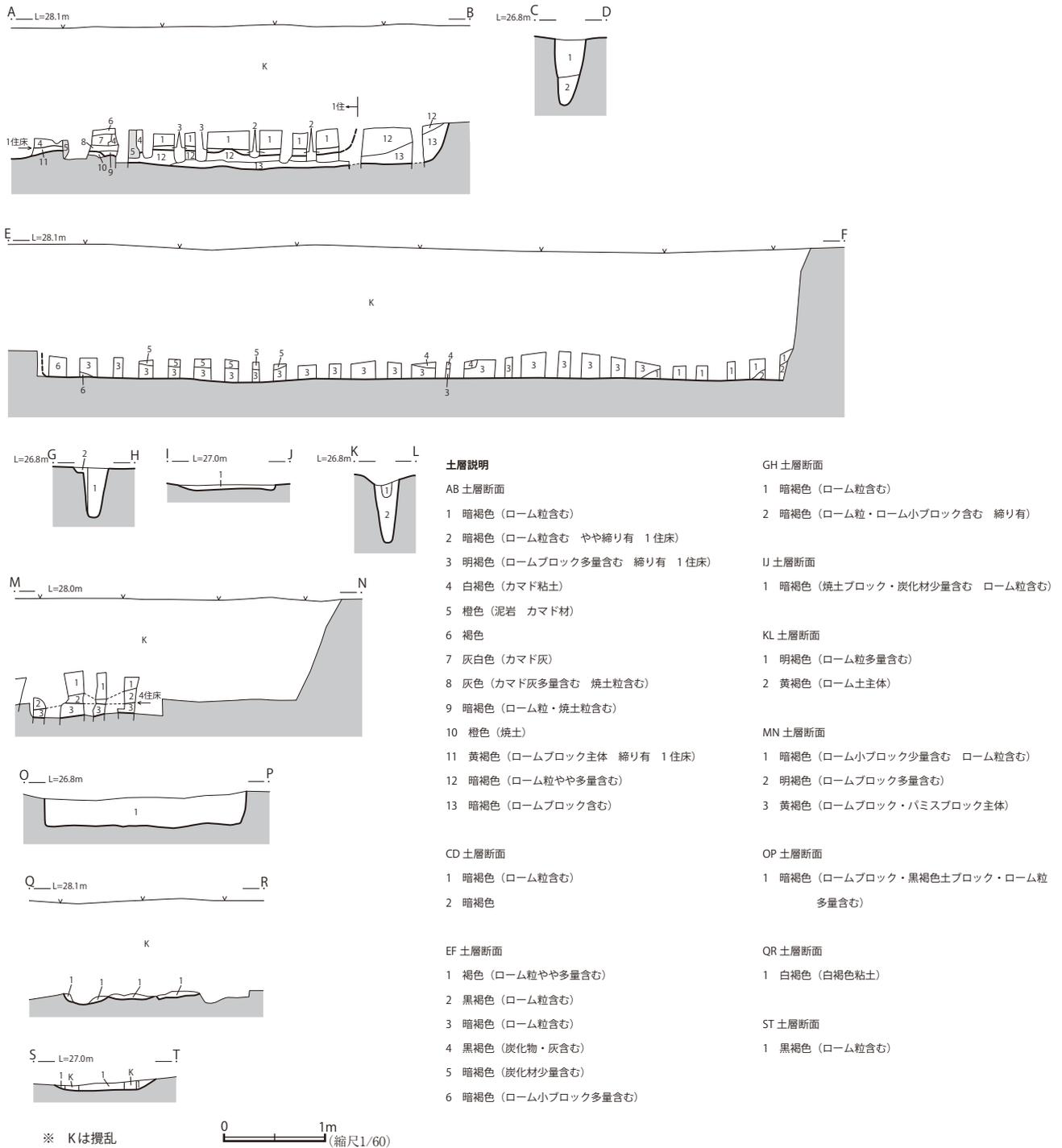
(4) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

遺物説明

第76図

1 出土位置：1号土坑 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径(12.1)、高(3.5) 色調：内外とも褐～黒褐色 胎土：砂(白、



第74図 市毛上坪遺跡第30次調査区土層

透少) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上位ナデ, 下位ヘラ削り。内面口縁~体部上位ヨコナデ, 体部ヘラミガキ。内外面とも黒色処理。 使用痕:一 備考:一

2 出土位置:表土 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁部10% 法量:口径(18.0), 高(6.5) 色調:外面にぶい黄褐~黒褐色。内面浅黄~黒。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多, 黒微) 焼成:良好 技法等:外面口縁部上~中位ヨコナデ, 下位~胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ・ナデ。 使用痕:一 備考:一

3 出土位置:表土 材質:土師器 器種:壺 残存:口縁部10% 法量:口径(16.3), 高(5.3) 色調:外面赤橙~橙色。胎土:礫(白微), 砂(白

多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面ヨコナデ後ヘラ削り。内面ヨコナデ? 使用痕:一 技法等:内面器面の大半が剥離している。

第77図

1 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代中期 器種:深鉢形土器カ 文様:単節斜縄文(LR) 備考:胎土に赤褐色粒目立つ

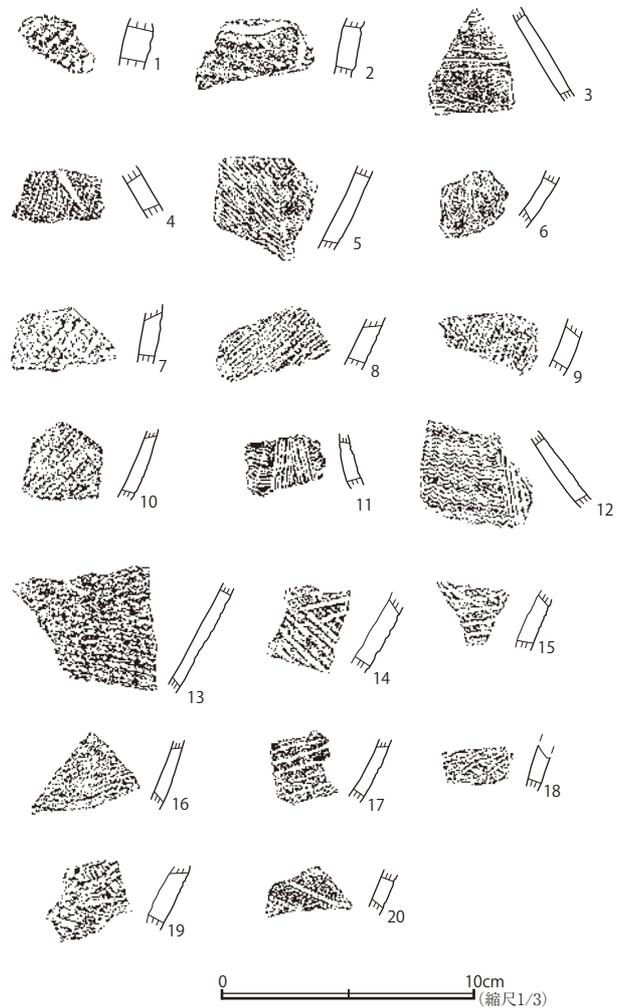
2 出土位置・注記:2住 時代時期:縄文時代後期(称名寺式)カ 文様:沈線文, 単節斜縄文(LR)カ 備考:胎土に白色粒目立つ

3 出土位置・注記:SK1 時代時期:弥生時代中期 器種:壺形土器 文様:沈線文 備考:胎土に海綿骨針含む

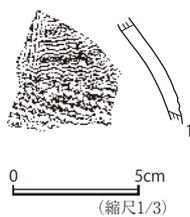
4 出土位置・注記:2住 時代時期:弥生時代中期カ 器種:壺形土器

- 文様：沈線文カ，単節斜縄文（LR）
- 5 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器
文様：反撚り縄文（LL）
- 6 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：反撚り縄文（RR）カ
- 7 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ
文様：単節斜縄文（LR） 備考：器内面磨き
- 8 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縄文（LR+R）カ 備考：器内面磨き
- 9 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縄文（R-S），備考：器内面磨き
- 10 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縄文（R-S）
- 11 出土位置・注記：4住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
小型細頸壺形土器カ 文様：櫛描文（6本）
- 12 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：櫛描文（4本）
- 13 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：付加条縄文（R×R，L×L）
- 14 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器 文様：付加条縄文（R×R，L×L） 備考：内面一部剥落
- 15 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器 文様：付加条縄文（R×R，L×L） 備考：器内面一部剥落
- 16 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器カ 文様：付加条縄文（R×R） 備考：胎土に海綿骨針含む，
器内外面変色，器外面炭化物付着
- 17 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：付加条縄文（R×R）
- 18 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器カ 文様：付加条縄文（R×R）
- 19 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ

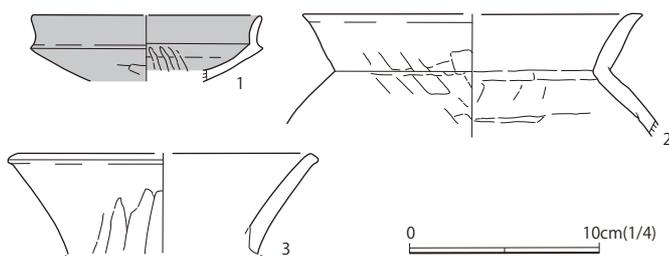
- 文様：付加条縄文（R×L）カ 備考：器内面剥落
- 20 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ
文様：付加条縄文（RL+L）カ



第77図 市毛上坪遺跡第30次調査区出土遺物(2)



第75図 市毛上坪遺跡第30次調査区第3号住居跡出土遺物



第76図 市毛上坪遺跡第30次調査区出土遺物(1)

3 堀口遺跡第 32 次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市堀口字塙坪 42 番 9 期間 / 令和 2 年 2 月 18 日～3 月 11 日 担当 / 佐々木義則, 田中美零 面積 / 39 m² 時代 / 奈良・平安 遺構 / 竪穴住居跡 3 基 (奈良・平安時代 2, 時期不明 1)

調査地は, 那珂川低地を望む台地縁辺から 230 m ほど離れた地点に位置する。調査区北東方向には那珂川低地から延びる谷の谷頭部分があるため, 調査区周辺は北東方向へ緩く傾斜する地形を呈する。調査時は調査区に宅地造成が済んでおり, 砂質土による土盛りが施された状況であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 29 次調査) がなされていたため住居跡の配置はおおよそ予想通りであった。以下, 簡単に調

査の経過を記す。

2 月 18 日: 調査区設定。 2 月 19 日: 重機による表土除去。 2 月 20 日: 遺構確認, 掘り込み開始。 2 月 26 日: 図面・写真による記録作業開始。 2 月 28 日: 調査区全体図作成。 3 月 11 日: 現場撤収作業。

(2) 住居跡

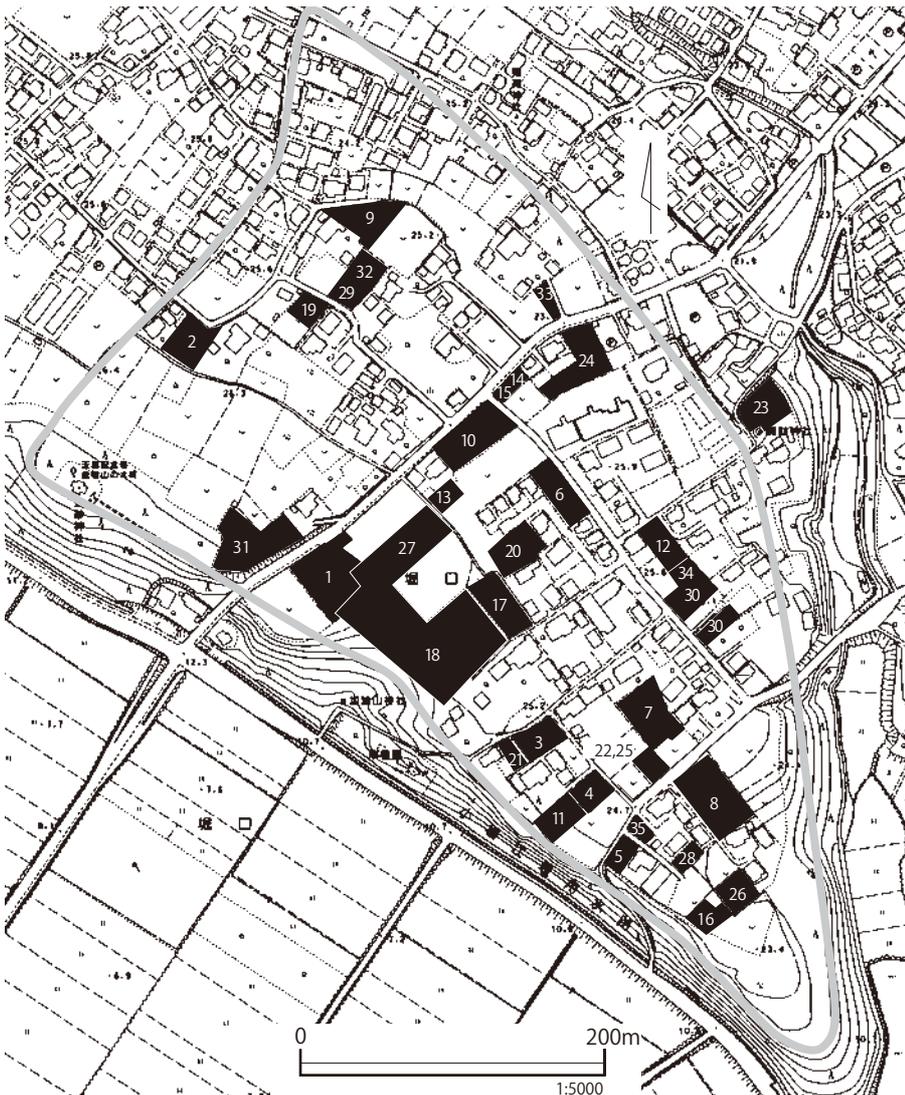
第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は第 2 号住居跡と重複する。新旧は土層から第 2 号住居跡→第 1 号住居跡である。当住居跡の主軸方向は, N-44° -W を測る。

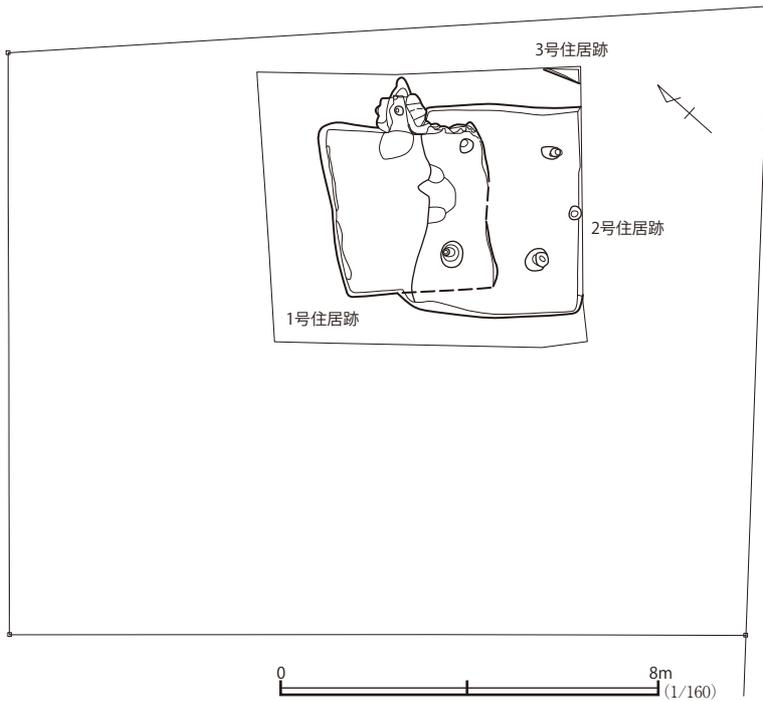
竪穴部は, 3.6 × 3.4 m, 面積 12.2 m² で, 形状はやや縦長の正方形である。壁高は竈のある壁を北壁とみると, 東壁 0.5 m (CD 土層断面による), 西壁 0.5 m, 南壁 0.5 m, 北壁 0.5 m である。壁周溝は断続的にめぐりようであるが不明瞭である。床面にピットはみられない。

床は南壁際および住居東側を除く部分が硬化する。竪穴部覆土はブロック土を含む褐色土が堆積しており, 人為的埋土かもしれない。住居中央やや南西よりの覆土中位から白褐色粘土ブロックがまとまって出土していることも人為的な埋め戻しを示すものかもしれない。この白褐色粘土ブロックは竈に用いられるものと類似する。

竈は両側面の粘土が比較的良好に残っており, 竈前床面が若干浅くくぼんでいた。竈右側の焚口側面部において, 白褐色粘土を覆うように土師器甕胴部片が出土したが, これはおそらく 2 号住居跡との重複部分であるため補強が図られたのであろう。竈から右側に向けて竪穴部壁面に白褐色粘土が貼られているが, これも壁面の崩落を防ぐための処置と思われる。なお竈中央床面に小さなピットが確認されたが, これは位置からみて支脚を据えた穴ではないだろう。また竈覆土中に灰が認めら



第 78 図 堀口遺跡の調査地点 (数字は調査回数)



第79図 堀口遺跡第32次調査区

れたため、その土層を採取し洗浄したところ、25点以上の炭化米が検出された。

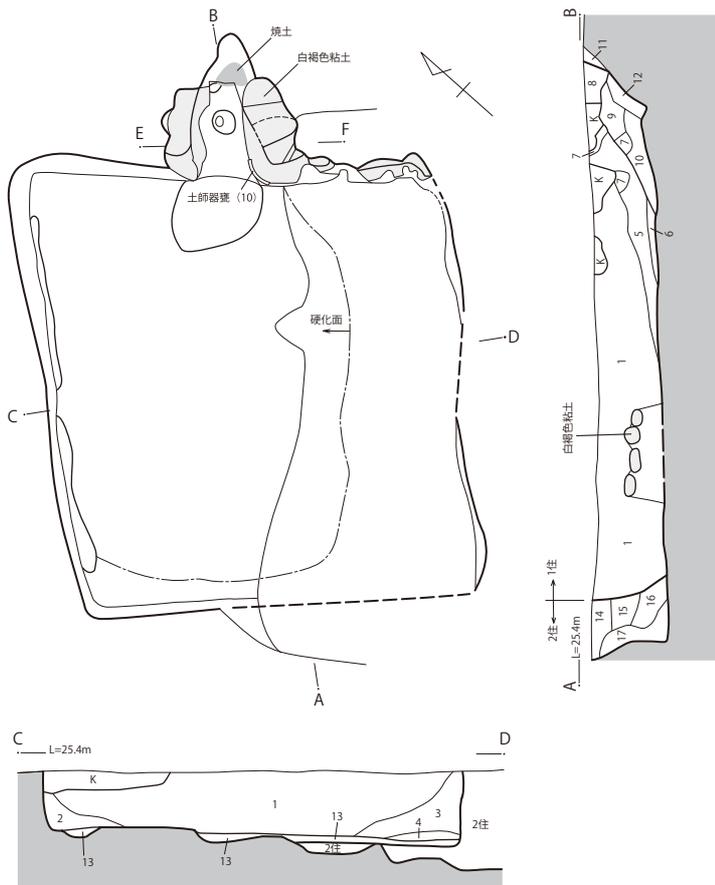
住居掘形は、CD土層断面部で確認したがほとんど掘り込みはみられなかった。

遺物出土状況 土師器甕8は竈補強材として用いられた土師器甕10と同様に、竈付近および住居南隅部付近から出土している。住居廃絶に伴う竈解体の際に、竈補強材として用いられた土師器甕(8・10)の一部が住居南隅に投げ捨てられたのではないと思われる。このほか覆土中から銅板小片が出土している。

遺物説明

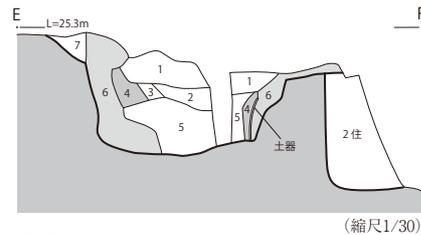
第82図

1 出土位置：1住 注記：P11 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部外周20%、体部下半10% 法量：底部(9.3) 色調：灰色 胎土：礫(白少)、砂(白、白



0 1m (縮尺1/60)

※Kは攪乱



(縮尺1/30)

土層説明

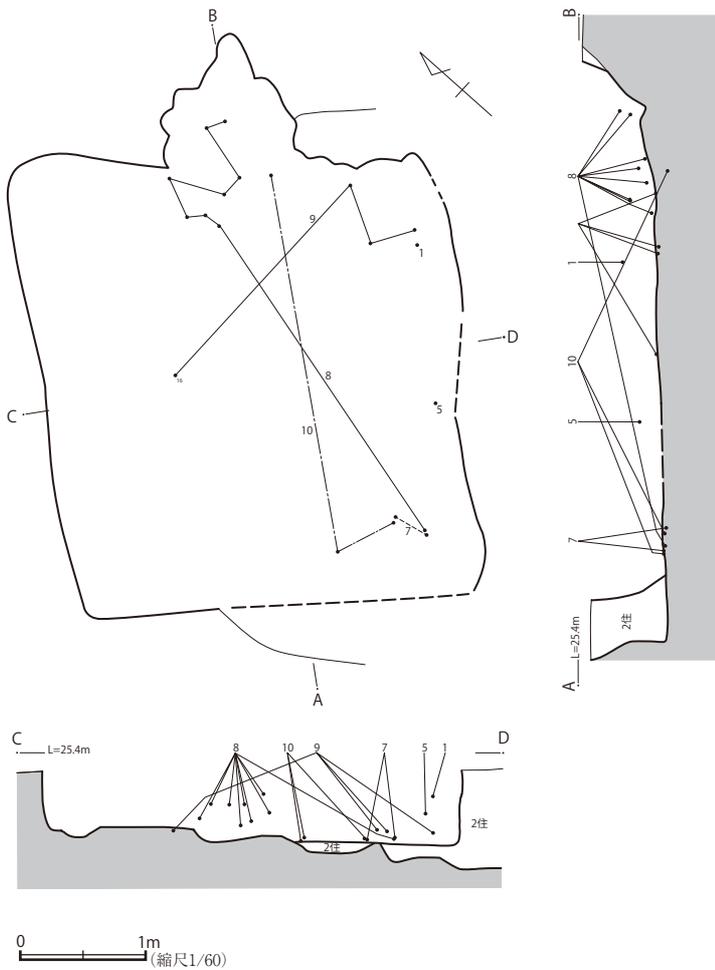
AB・CD土層断面

- 1 褐色(ローム粒やや多量含む ローム小ブロック含む 黒褐色土ブロック含む)
- 2 褐色(ローム粒やや多量含む)
- 3 暗褐色(ローム粒やや多量含む)
- 4 黄褐色(ローム粒・ローム小ブロック非常に多量含む)
- 5 褐色(ローム粒やや多量含む)
- 6 明褐色(ローム小ブロック含む)
- 7 明褐色(カマド粘土ブロック多量含む)
- 8 暗褐色(ローム粒少量含む)
- 9 褐色(カマド粘土小ブロック・焼土粒・ローム粒含む 暗褐色土混じる)
- 10 明褐色(カマド粘土ブロック多量含む 焼土ブロック少量含む 灰混じる)
- 11 橙褐色(焼土)
- 12 明褐色(カマド粘土小ブロックと焼土小ブロックと灰の混合層)
- 13 明褐色(ロームブロック多量含む 焼土小ブロック少量含む 灰混じる)
- 14 暗褐色(ローム粒含む ローム小ブロック少量含む)
- 15 褐色(ローム粒やや多量含む)
- 16 暗褐色(ローム粒含む)
- 17 明褐色(ローム土混じる)

EF土層断面

- 1 褐色(ローム粒多量含む 焼土小ブロック少量含む)
- 2 褐色(白褐色粘土ブロック多量含む 焼土粒含む)
- 3 明褐色(白褐色粘土粒多量含む)
- 4 橙褐色(焼土)
- 5 褐色(焼土粒・炭化物粒少量含む 白褐色粘土混じる)
- 6 白褐色(カマド粘土)
- 7 明褐色(ローム土と褐色土の混合層)

第80図 堀口遺跡第32次調査区第1号住居跡



第 81 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況

透少, 灰少) 特徴: 回転ヘラ切り 備考: 木葉下窯産か

2 出土位置: 1 住 注記: 4 区② 材質: 須恵器 器種: 有台杯

残存: 底部 30% (高台若干残存) 法量: 高台径 (6.7) 色調: 灰色 胎土: 砂 (白), 骨針微量 特徴: 底部外面に浅いヘラ記号

3 出土位置: 1 住 注記: 3 区 材質: 須恵器 器種: 杯 残存: 底部中央部片 法量: — 色調: 灰色 胎土: 砂 (白), 骨針少 特徴: 底部外面ナデの後ヘラ記号。底部外面墨書 (文字不明)。

備考: 木葉下窯産か

4 出土位置: 1 住 注記: 4 区 材質: 須恵器 器種: 杯 残存: 体部片 法量: — 色調: 明灰色 胎土: — 特徴: 内面に黒色漆 (あるいは油煙) 付着

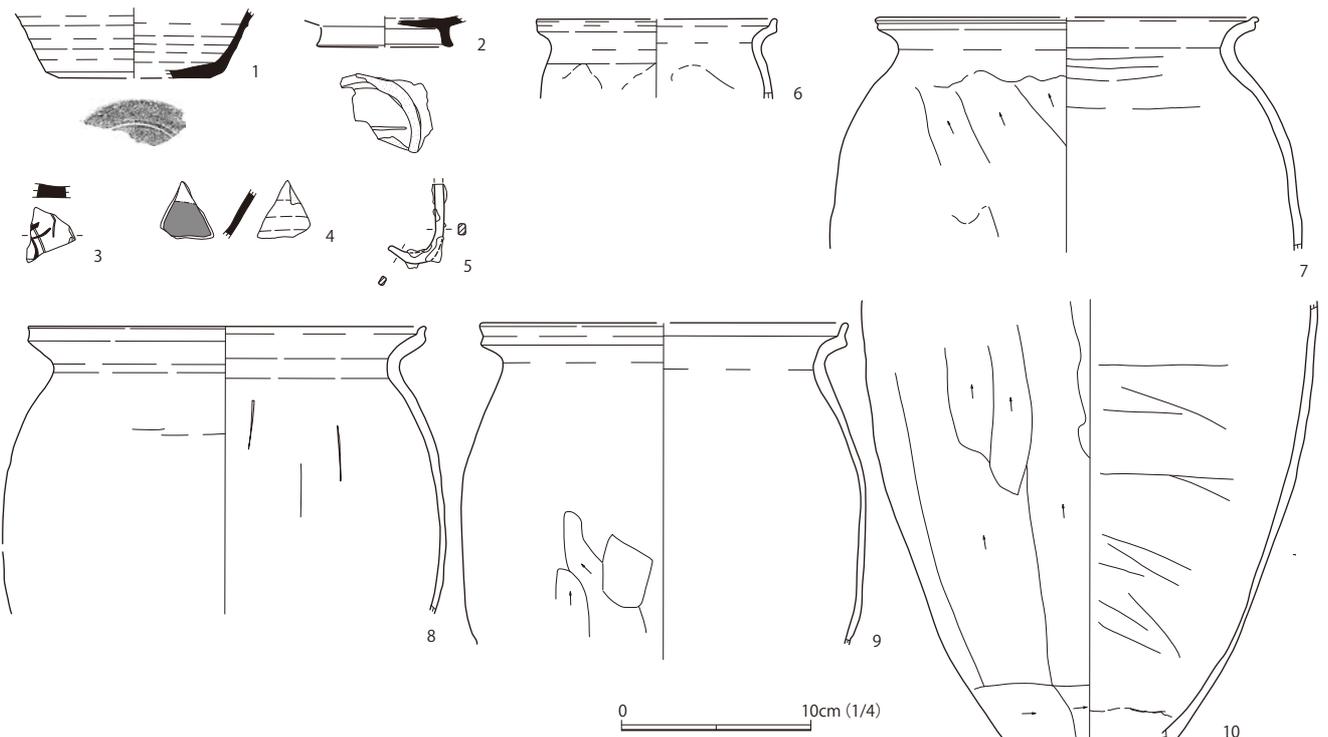
5 出土位置: 1 住 注記: 11 材質: 鉄 器種: 不明 (釘か?) 法量: 残存長 6.8, 重量 6.5g 特徴: 断面やや長方形

6 出土位置: 1 住 注記: カマド 材質: 土師器 器種: 甗 残存: 口縁部 15% 法量: 口径 (12.4) 色調: 橙色 胎土: 砂 (透多, 白少), 骨針微量 特徴: 胴部内外面ナデ。口縁部ヨコナデ。内面汚染により黒味を帯びる。

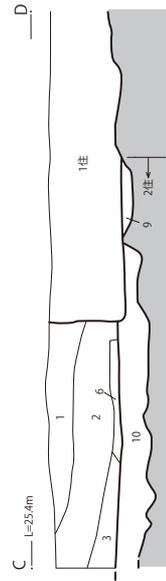
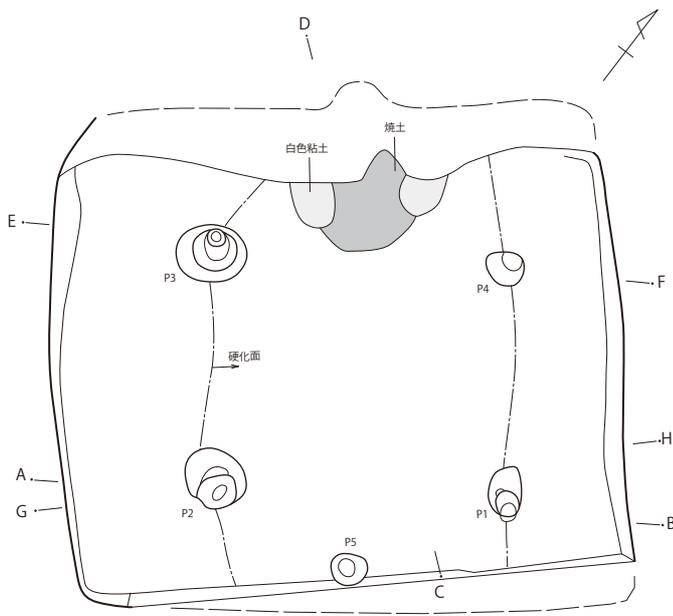
7 出土位置: 1 住 注記: P6・8, 2 区, 2 住 材質: 土師器 器種: 甗 残存: 口縁部 20% 法量: 口径 (19.7) 色調: 橙褐色 胎土: 礫 (白透, 灰少), 砂 (透, 灰少) 黒雲母微量 特徴: 肩部外面斜方向ヘラ削り。肩部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

8 出土位置: 1 住 注記: P7・17・18・19・20・22・23・29・30, 4 区, カマド 材質: 土師器 器種: 甗 残存: 口縁部 80%, 胴部上半 30% 法量: 口径 20.7 色調: 暗褐色 胎土: 砂 (透多, 白透), 骨針微量 特徴: 胴部外面ナデ。胴部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

9 出土位置: 1 住 注記: P12・13・15・16, 1 区, 2 区, カマド, 2 住 Pit4 材質: 土師器 器種: 甗 残存: 口縁部 50%, 胴部上半 30% 法量: 口径 (19.0) 色調: 橙色 胎土: 礫 (白, 灰少, 白,



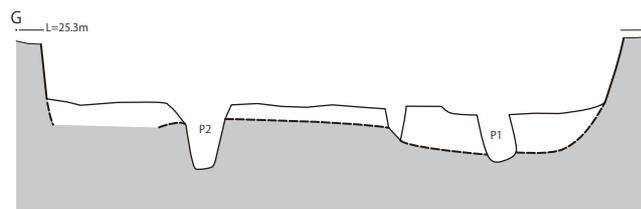
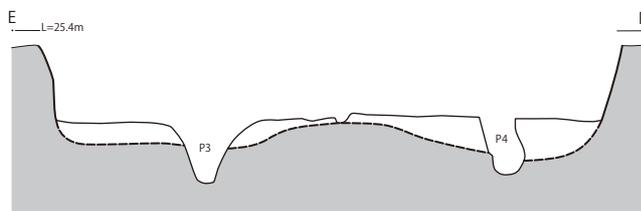
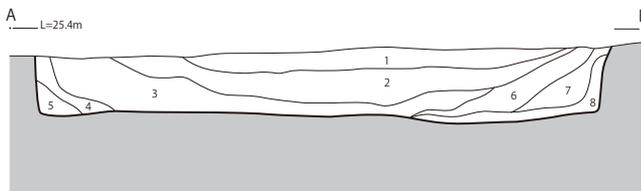
第 82 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡出土遺物



土層説明

AB・CD 土層断面

- 1 明褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む
黒褐色ブロック含む 人為的埋土か)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む
人為的埋土か)
- 3 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)
- 4 暗褐色 (ローム粒多量含む)
- 5 明褐色 (ローム小ブロック・ローム粒多量含む)
- 6 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む)
- 7 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)
- 8 明褐色 (ローム粒非常に多量含む ローム小ブロック含む)
- 9 明褐色 (ローム小ブロック多量含む
焼土小ブロック少量含む 灰混じる)
- 10 明褐色 (ローム小ブロック多量含む
ロームブロック・暗褐色土小ブロック含む)



第 83 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡

透, 灰) 特徴: 胴部外面ヘラ削り後肩部ナデ。胴部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

10 出土位置: 1 住 注記: P3・5・24, 2 区, 2 住 Pit4 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 胴部下半 30% 法量: 底径 (8.7) 色調: 明褐~暗褐色 胎土: 砂 (透多, 白少, 白透少, 灰少) 特徴: 胴部外面縦方向ヘラ削りの後, 下端をヨコ方向ヘラ削り。胴部内面横方向ナデ。

第 2 号住居跡

遺構 第 2 号住居跡は第 1 号住居跡と重複する。新旧は土層から第 2 号住居跡→第 1 号住居跡である。当

住居跡の主軸方向は N-39° -W を測る。

竪穴部の規模は, 東西 4.5 m, 南北推定 4.0 m で, 形状は横長の正方形である。壁高は東壁 0.5 m, 西壁 0.5 m を測る。壁周溝は認められないようである。ピットは P1 ~ P4 が支柱穴, P5 が出入口ピットと思われる。ピットの深さは P1 が 36cm, P2 が 51cm, P3 が 50cm, P4 が 51cm, P5 が 32cm を測る。床は竈前から出入口ピットに向けて支柱穴の間の部分が硬化する。竪穴部覆土は, 上層部 (第 1・2 層) にロームブロックを含む褐色~明褐色土が堆積しているの, 住居跡がある程度埋まったところでその窪みを埋めたのかもしれない。

竈は 1 号住居跡により削平されていたので, 竈前面床面の痕跡が残る程度であった。

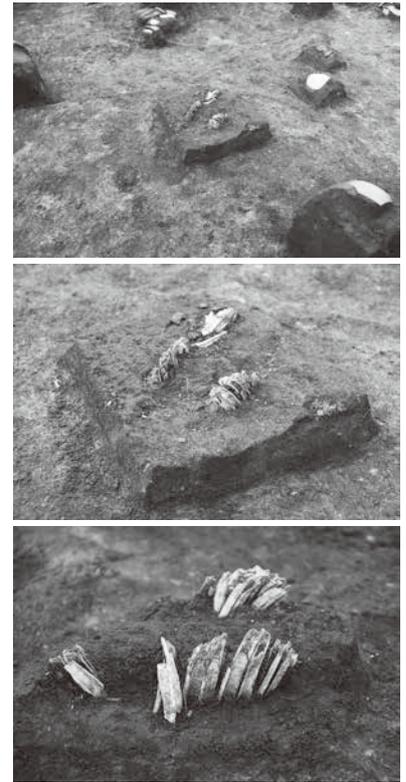
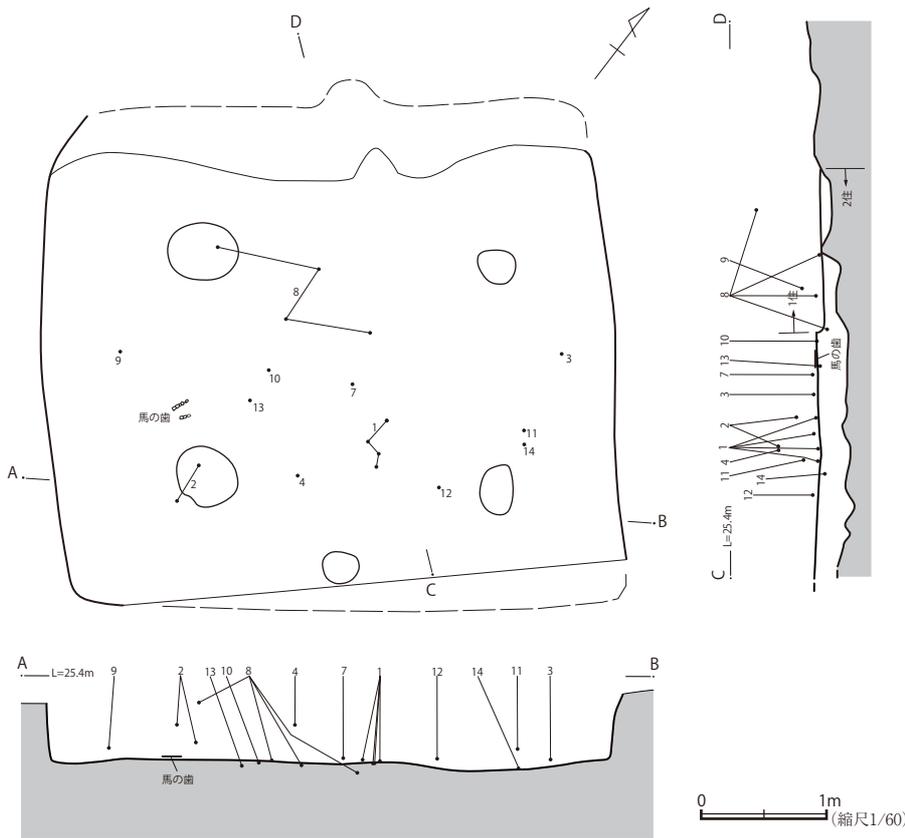
住居掘形は, CD・EF・GH 土層断面部分のサブトレンチによる確認にとどまるが, 周囲をやや深く掘り込むタイプと思われる。

遺物出土状況 床面から馬歯 (上顎骨) が出土した。馬歯から 1 m ほど離れた床面上からは, 底部外面に墨書 (文字不明) をもつ完形の須恵器杯や, 完形の手づくね土器が出土していることから, 住居跡廃絶に際して (贖罪を目的とした) 動物供犠祭祀が行われたのかもしれない。やや離れて勾玉も出土したが, これは覆土中出土のため馬歯とは関わりがない可能性が高いだろう。

遺物説明

第 85 図

1 出土位置: 2 住 注記: P3・12・13・19, 2・3・4 区, 1 住 材質:



馬歯の出土状況

第84図 堀口遺跡第32次調査区第2号住居跡遺物出土状況



写真1 堀口遺跡第32次調査区住居跡遺物出土状況

須恵器 器種：杯 残存：体部下半若干欠失 法量：口径 12.4，器高 4.8，底径 7.9 色調：灰色 胎土：礫（白，灰少，白透少）骨針微量 特徴：回転ヘラ切り。口唇部および底部周縁摩滅。底部外面墨書（文字不明瞭）。

2 出土位置：2住 注記：P4・5，1区，1住1区 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部60%，体部20% 法量：口径（13.0），器高 4.7，底径（8.4） 色調：灰色，口縁部外面黒化 胎土：礫（白多，白透少） 特徴：回転ヘラ切り。底部外面ヘラ記号「=」。備考：木葉下窯産か

3 出土位置：2住 注記：P17 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部30%，体部10% 法量：口径（13.7），器高 4.9，底径（9.0） 色調：白褐色 胎土：礫（灰少，白透少） 特徴：底部外面手持ちヘラ削り。口唇部・口縁部内面・外面底部周縁が摩滅。備考：木葉下窯産か

4 出土位置：2住 注記：P7 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部20% 法量：口径（10.8），器高 4.0，底径（6.7） 色調：暗灰色 胎土：砂（白多，透多） 特徴：外免体部下端・底部回転ヘラ削り。口唇部やや摩滅。備考：産地不明

5 出土位置：2住 注記：3区 材質：須恵器 器種：有台杯蓋 残存：鈕部（若干欠失） 法量：鈕径 2.5 色調：灰色 胎土：— 特徴：上面周縁やや摩滅

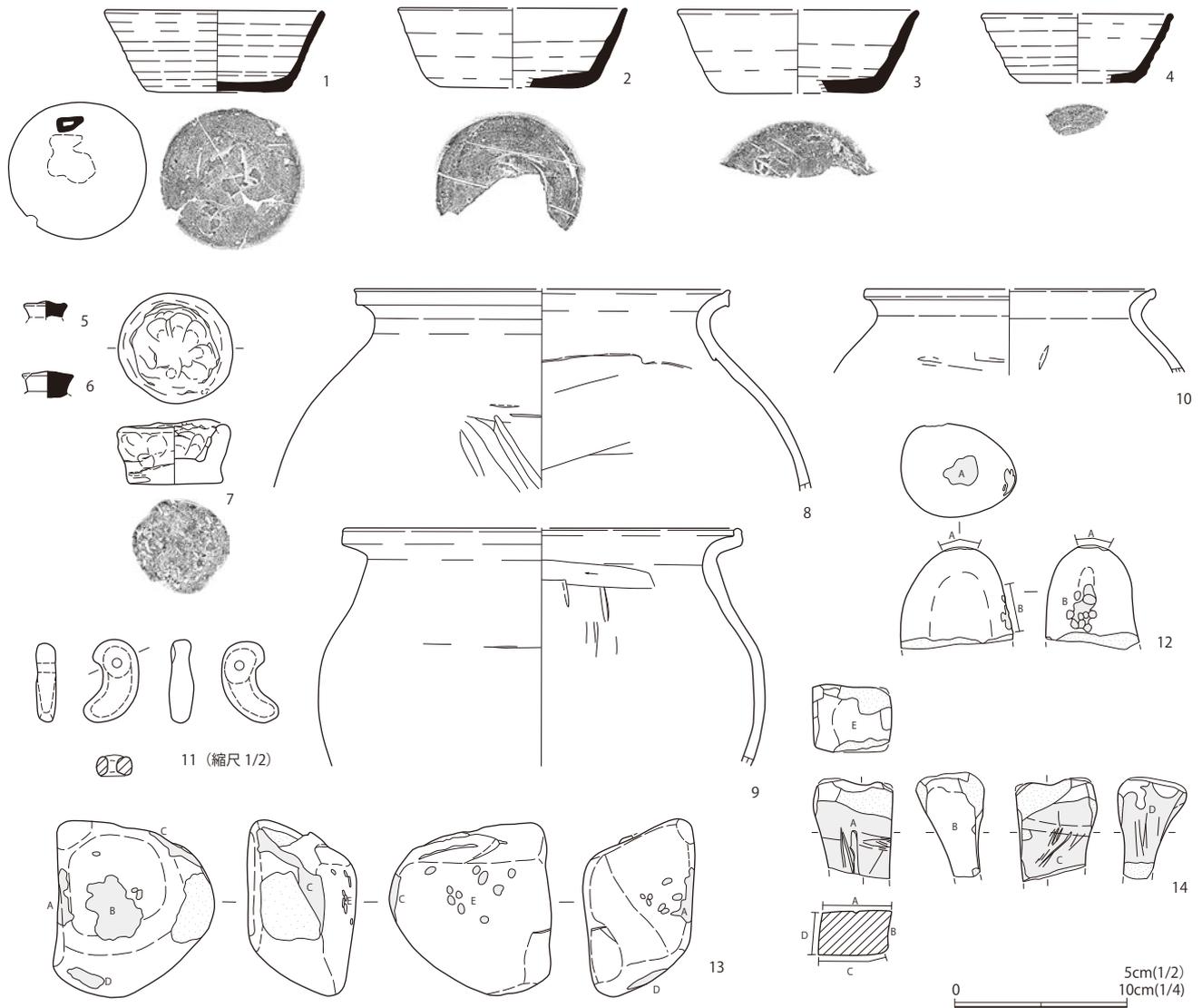
6 出土位置：2住 注記：4区 材質：須恵器 器種：有台杯蓋 残存：鈕部（一部欠失） 法量：鈕径（3.0） 色調：灰色 胎土：砂（白） 特徴：上面中央および周縁が摩滅する

7 出土位置：2住 注記：P11 材質：土師器 器種：手づくね土器 残存：完形 法量：口径 5.8，器高 3.3，底径 5.4 色調：明褐色，茶褐色，底部外面黒色 胎土：砂（灰微量），細砂 特徴：底部外面未調整。側面に指頭圧痕（指紋あり）および粘土組接合痕あり。内面は放射状の指頭圧痕あり。

8 出土位置：2住 注記：P8 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径（22.6） 色調：外面漆褐～暗褐色，内面褐色 胎土：砂（白透多），白雲母多 特徴：外面口縁部ヨコナデ→胴部ナデ。内面胴部横方向ナデ・口縁部ヨコナデ→胴部ナデ→頸部ヨコ方向ヘラ削り。

9 出土位置：2住 注記：P18，3区，4区，1住P4・9・25，1住1区・2区・4区 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部40%，胴部片 法量：口径（21.5） 色調：褐色 胎土：礫（白透多，白），白雲母多 特徴：胴部外面縦方向ヘラミガキ。胴部内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

10 出土位置：2住 注記：P6 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部15% 法量：口径（16.5） 色調：暗褐色 胎土：砂（白透多），白雲母 特徴：外面・肩部縦方向ヘラナデ痕。内面横方向ヘラナデ→ナデ。



第 85 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡出土遺物

口縁部ヨコナデ。内面汚染により黒色化。

11 出土位置：2 住 注記：S1 材質：石 器種：勾玉 残存：完形
 法量：縦 2.4，最大幅 1.0，最大厚 0.7，孔径 0.25，重量 3.83g 色調：
 濃緑色 特徴：穿孔部周囲が両側とも凹む 備考：「蛇紋岩（もしくは滑
 石岩）か。塊状。帯褐緑色弱半透明。軟質。不透明黒色粒（磁鉄鉱か）。
 不透明褐色～真鍮色鉱物（黄鉄鉱および黄鉄鉱後のゲーテ石）含有。」（矢
 野徳也氏による実体顕微鏡観察）

12 出土位置：2 住 注記：S5 材質：石 器種：敲石 残存：大きく
 欠失 法量：重量 280.1g 色調：灰色 特徴：頂部と側面部に敲打痕あ
 り。A は浅く B はやや深い円形敲打痕の集合である。備考：「アルコー
 ス質粗粒砂岩。塊状。灰褐色。被熱による弱い赤褐変色あり。粒子：円
 磨が悪い，淘汰やや悪い，石英，長石，白雲母，チャート，頁岩，黒雲母。
 外形は自然礫（円礫）の破片。」（矢野徳也氏による実体顕微鏡観察）

13 出土位置：2 住 注記：S3 材質：石（砂岩） 残存：若干欠失 法量：
 10.2 × 9.1 × 6.2 色調：灰褐色 特徴：A～E の 5 カ所に敲打痕 備
 考：「石英質中粒砂岩。塊状。暗灰色。粒子：円磨やや悪い，淘汰やや悪
 い，石英 ++，長石，チャート。外形は自然礫。」（矢野徳也氏による実体
 顕微鏡観察）

14 出土位置：2 住 注記：S7 材質：石（流紋岩） 器種：砥石 残
 存：大きく欠失 法量：現存長 5.6，幅 4.6，厚 3.9 色調：白褐色，暗

褐色 特徴：3 面使用（A・C・D 面）。B・E 面は未使用。全ての使用面
 に刻線があるため最終使用面は不明。A 面中央に浅い沈潜状の研磨痕あ
 り。備考：「珪化流紋岩。塊状。斑状組織。帯淡緑白色。斑晶は白色細
 粒物質が置換。四面に湾曲した平滑面を生じ，水酸化鉄が粒状～皮膜状
 に附着。」（矢野徳也氏による実体顕微鏡観察）

第 3 号住居跡

遺構 第 3 号住居跡は調査区の東隅で西壁部分の一
 部が確認された住居跡である。壁高は 0.4 m を測る。出
 土遺物はなく時期は不明である。

4 堀口遺跡第 34 次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市堀口字新地 148 番 1 ほか 期間 / 令和 2 年 6 月 16 日～7 月 7 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 47 m² 時代 / 古墳, 中世 遺構 / 竪穴住居跡 1 基 (古墳時代), 溝跡 1 条 (中世), 土坑 1 基 (時期不明), 地下式坑 1 基

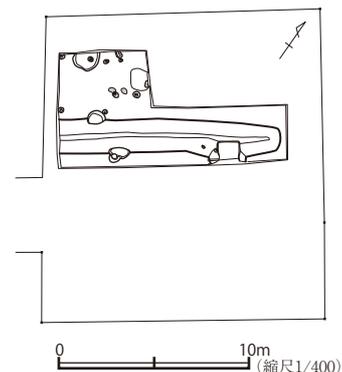
調査地は, 那珂川低地から北方に入り込む谷から 80m ほど離れた地点に位置し, 平坦な地形を呈する。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 30 次調査) がなされていたため遺構の配置はおおよそ予想通りであった。以下, 簡単に調査の経過を記す。

6 月 16 日: 調査区設定。 6 月 17 日: 重機による表土除去。 6 月 18 日: 遺構確認, 掘り込み開始。 6 月 24 日: 図面・写真による記録作業開始。 7 月 3 日: 調査区全体図作成。 7 月 7 日: 重機による埋め戻し。現場撤収作業。

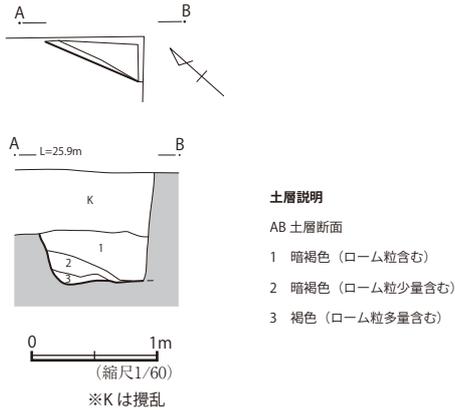
(2) 住居跡

第 1 号住居跡

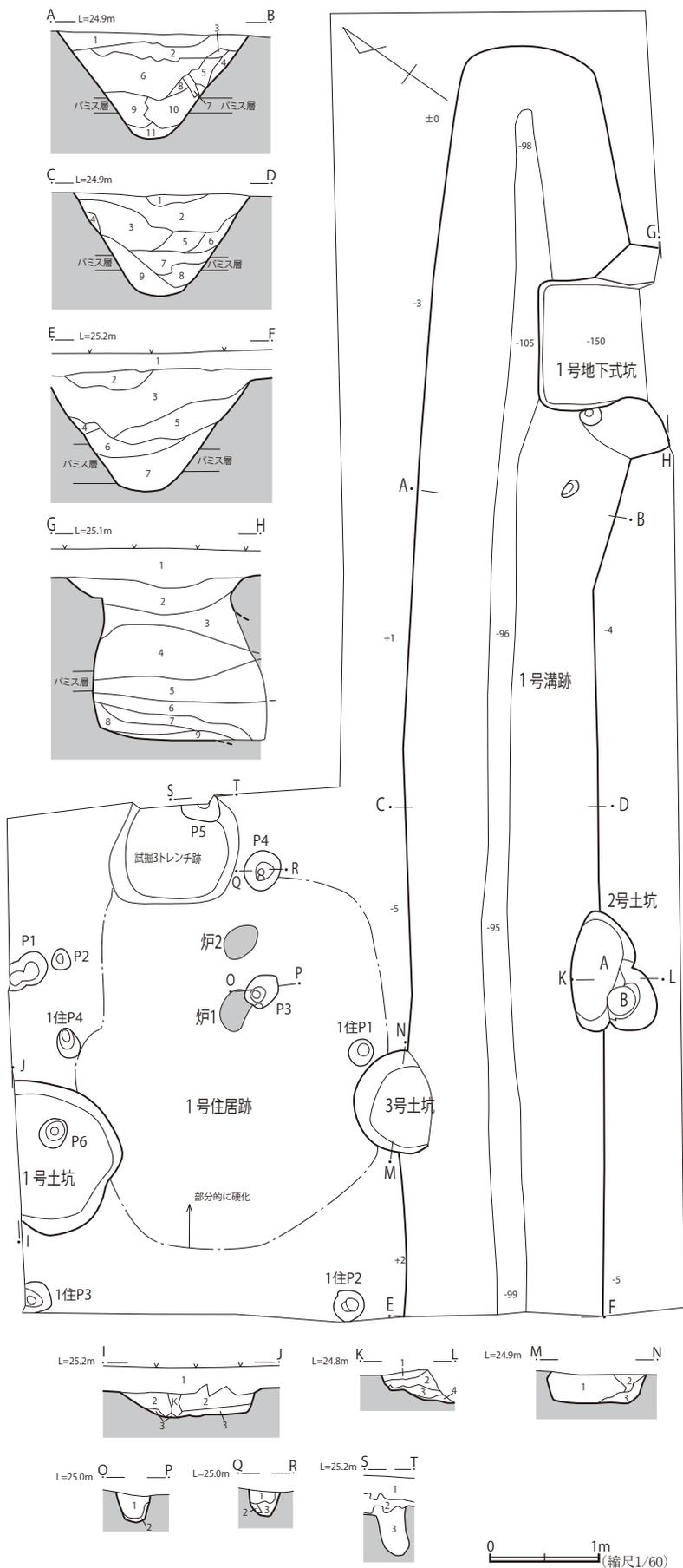
遺構 第 1 号住居跡は所々床面の硬化面が遺存する程度の残存状況であり, 住居跡の形状は把握できなかった。確認面のローム層の状況や表土層の薄さからみて, 当調査区は全体的に削平を受けているのかもしれない。当住居跡は炉跡と思われる焼土面が 2 か所確認されているので, 古墳時代前・中期の住居跡になる可能性が高い。遺物は出土しなかった。



第 87 図 堀口遺跡第 34 次調査区的位置



第 86 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 3 号住居跡



土層説明

AB 土層断面

- 1 黒褐色 (ロームブロック含む)
- 2 茶褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 茶褐色
- 4 黄褐色
- 5 茶褐色 (ローム粒含む)
- 6 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 7 黒褐色
- 8 茶褐色
- 9 茶褐色 (ローム粒多量含む, バミス粒少量含む)
- 10 褐色 (バミス粒多量含む)
- 11 褐色 (バミス小ブロック含む)

KL 土層説明

- 1 茶褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 茶褐色 (ローム小ブロック多量含む)
- 3 茶褐色 (ローム粒少量含む)
- 4 黄褐色

MN 土層説明

- 1 茶褐色 (ローム粒多量含む, 炭化物少量含む, ローム小ブロック少量含む)
- 2 黄褐色
- 3 茶褐色 (ローム粒多量含む, 炭化物少量含む)

CD 土層説明

- 1 茶褐色
- 2 茶褐色
- 3 黒褐色 (ローム粒含む)
- 4 黄褐色
- 5 茶褐色
- 6 茶褐色
- 7 褐色 (バミスブロック多量含む, 黒褐色土混じる)
- 8 褐色 (ローム粒混じる)
- 9 茶褐色 (ローム小ブロック含む)

OP 土層説明

- 1 茶褐色 (ローム小ブロック・ローム粒・焼土粒少量含む)
- 2 黄褐色

QR 土層説明

- 1 黒褐色 (ローム小ブロック多量含む)
- 2 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 黄褐色 (黒色粒少量含む)

EF 土層説明

- 1 黒土
- 2 茶褐色 (ローム粒多量含む)
- 3 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 4 赤褐色 (ローム大ブロック多量含む)
- 5 茶褐色 (黒土多量含む, ローム小ブロック多量含む)
- 6 茶褐色 (バミス粒少量含む)
- 7 茶褐色 (ローム粒多量含む, バミス小ブロック・黒土小ブロック少量含む)

ST 土層説明

- 1 黒土 (耕作土)
- 2 黄褐色 (黒土ブロック含む, トレンチによる攪乱)
- 3 茶褐色 (ローム粒多量含む)

GH 土層説明

- 1 暗褐色 (ローム粒含む, 表土)
- 2 褐色 (ローム粒やや多量含む)
- 3 明褐色 (ローム粒多量含む, ロームブロック少量含む)
- 4 黄褐色 (ロームブロック主体, バミスブロック含む)
- 5 黄褐色 (ロームブロック主体, 天井部崩落土か)
- 6 褐色 (ロームブロック多量含む, 黒褐色土混じる)
- 7 黄褐色 (ローム小ブロック主体, 黒褐色土少量混じる)
- 8 明褐色 (ローム粒含む)
- 9 黄褐色 (ローム粒・ローム小ブロック主体)

IJ 土層説明

- 1 黒褐色 (ローム粒含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む)
- 3 褐色 (ローム粒多量含む, 黒褐色土混じる, 縞り有り)

第 88 図 堀口遺跡第 34 次調査区 (第 1 号溝跡中の数字は土 0 からの比高差cmを示す。)

第 22 表 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号溝跡出土礫一覧

台帳番号	長 cm	幅 cm	厚 cm	重量 g	台帳番号	長	幅	厚	重量
S 2	11.9	9.3	5.1	657.7	3 区	12.4	9.7	4.6	658.8
S 3	16.1	8.2	6.7	1335.2	"	9.7	5.7	5.2	508.1
S 4	9.7	7.5	6.7	646.0	"	10.3	6.6	4.5	462.8
1 区	15.5	8.7	6.5	1221.5	"	7.4	7.2	5.6	433.8
"	12.5	9.5	5.5	908.0	"	10.6	9.4	1.9	398.6
"	12.8	6.6	4.9	593.1	"	10.7	5.2	4.0	283.8
"	10.2	7.0	4.9	492.1	"	8.6	7.5	3.1	277.8
"	8.4	5.6	3.5	216.2	"	9.4	7.9	3.1	272.0
"	9.6	7.1	2.9	209.6	"	10.4	7.6	2.5	261.2
"	8.7	7.3	2.3	194.0	"	9.6	8.1	2.8	257.5
"	6.8	5.1	2.5	130.6	"	8.2	5.6	4.1	249.2
"	6.1	5.6	2.1	94.6	"	11.8	5.2	3.3	227.7
"	6.5	5.2	0.9	47.0	"	7.6	7.0	2.2	176.8
"	3.6	3.1	0.8	17.9	"	7.1	5.7	2.0	153.1
"	2.9	2.6	0.8	7.1	"	7.6	5.0	2.6	139.4
"	3.9	3.0	1.0	13.1	"	5.7	4.9	3.8	110.9
"	1.3	0.8	0.6	0.9	"	6.7	3.1	2.2	62.2
2 区	7.9	8.8	5.7	592.6	"	5.8	3.9	1.5	56.6
"	8.7	7.1	3.2	286.1	"	4.1	3.6	2.6	53.6
"	9.0	6.7	4.0	281.2	"	5.5	4.4	2.7	49.7
"	9.5	6.6	2.5	244.9	"	4.2	3.7	1.4	40.7
"	7.4	5.1	3.0	153.0	"	5.9	4.4	1.1	34.4
"	7.0	7.1	1.7	143.6	"	5.7	2.9	1.4	31.2
"	4.7	4.0	3.6	90.2	"	2.8	2.8	2.7	29.5
"	6.0	5.1	3.2	140.2	"	3.9	3.6	1.3	28.9
"	7.8	5.4	1.0	62.7	"	6.4	2.8	0.9	25.8
"	5.2	4.3	2.3	61.3	"	3.3	2.1	1.7	20.4
"	7.3	3.2	2.0	53.5	"	2.3	1.6	1.4	6.6
"	4.5	3.1	0.5	16.6	"	2.4	1.7	1.0	4.3
					"	2.5	1.9	0.3	2.2

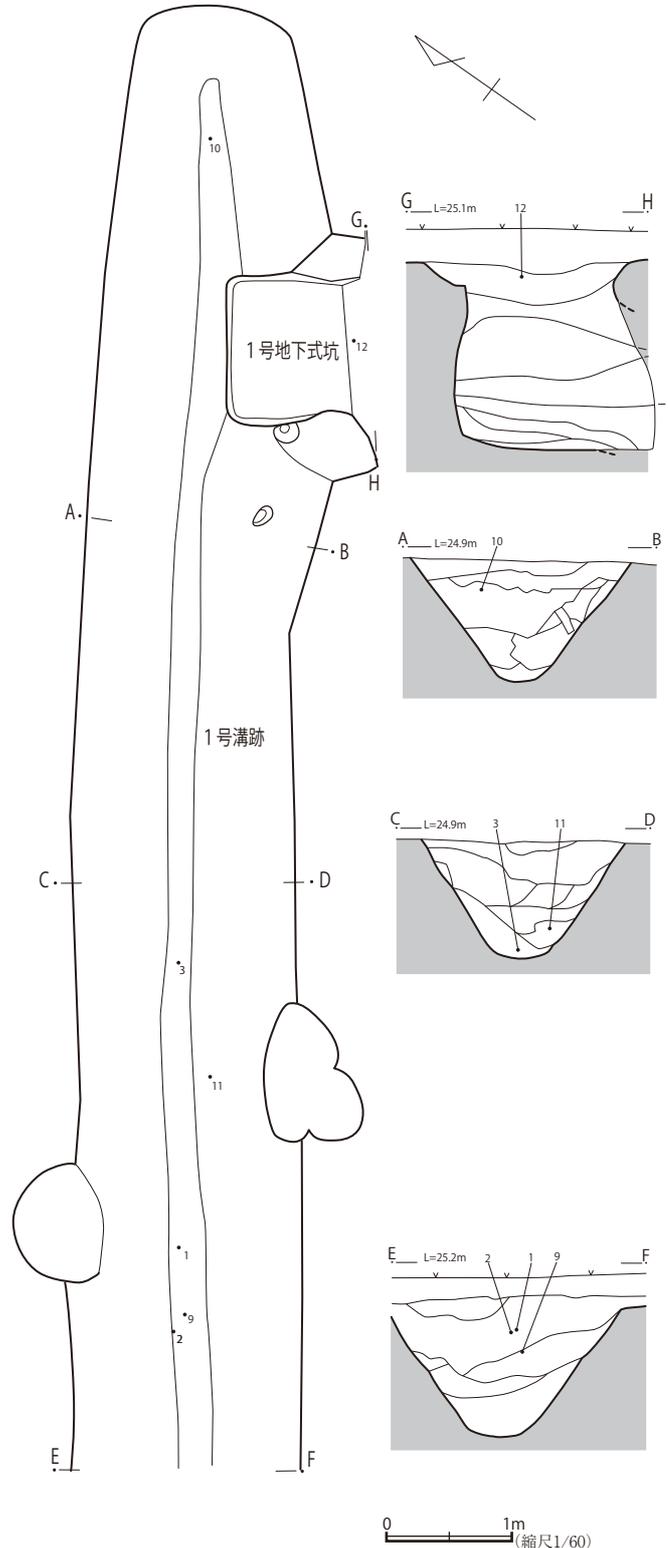
(3) 溝跡

第 1 号溝跡

遺構 第 1 号溝跡は東西方向に伸びる断面 V 字形の溝である。第 1 号地下式坑・第 2 号土坑・第 3 号土坑と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第 1 号溝跡→第 1 号地下式坑となる。第 2・3 号土坑との新旧は不明である。確認面幅 1.2～1.9 m、確認面からの深さは 1 m ほどを測る。溝底面の標高はほぼ 23.8 m 前後を測り、一方向への傾斜は認められない。土層断面をみると、覆土中層に南側から流れ込む茶褐色土があるの

で、南側に土塁状の盛土があったと推定される。また溝は東側が途切れていることから、その部分に通路が存在した可能性がある。現在その部分は土地の境界となっており、通路として利用されている。

遺物は土層断面図の位置を境にして、東から 1～3 区に分けて取り上げた。溝底面近くから小皿 (3) が



第 89 図 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号溝跡遺物出土状況



第90図 堀口遺跡第34次調査区出土遺物(1)

出土しており、小皿の形状からみて16世紀頃に位置づけられる(田口睦子2011「県央・県北のかわらけ」『茨城中世考古学の最前線』)と思われるので、溝跡の年代もその頃の可能性がある。また覆土上層から瀬戸・美濃産志野鉄絵丸皿(1・2)が出土しているので、17世紀前葉には埋没していると考えられ

る。なお溝覆土中からの遺物として丸瓦と炉壁片が注意されるが、丸瓦は古代の瓦の混在である可能性が高いと思われる。炉壁片は中世から近世初頭の可能性もあるかもしれない。

遺物説明

第90図

- 1 出土位置：1 溝 注記：P2 材質：陶器 器種：小皿 残存：底部 40%，口縁部 20% 法量：口径（12.0），器高 2.8，高台径（7.1）色調：素地明褐色 胎土：— 特徴：内外面長石釉（白褐色）。内面鉄絵（赤紫色）。備考：瀬戸・美濃産志野織部皿
- 2 出土位置：1 溝 注記：P1 材質：陶器 器種：小皿 残存：25% 法量：口径（12.0），器高 2.1，高台径（7.7）色調：素地明褐色 胎土：— 特徴：内外面長石釉（白緑色）。内面鉄絵（黒藍色）。内外面に目跡。備考：瀬戸・美濃産志野織部皿
- 3 出土位置：1 溝 注記：P5 材質：土師器 器種：小皿 残存：完形 法量：口径 10.1，器高 2.9，底径 4.0 色調：橙色 胎土：砂（透），骨針多，黒雲母 特徴：回転糸切り。底部外面板状圧痕。内面底部 1 方向ナデ。備考：胎土からみて東海村周辺産か？
- 4 出土位置：1 溝 注記：3 区，HRG30 次 5 トレ 1 溝 材質：土師器 器種：小皿 残存：底部 70% 欠失 法量：口径 9.8，器高 2.9，底径（3.7）色調：橙色 胎土：骨針多，黒雲母 特徴：回転糸切り。底部内面 1 方向ナデ。備考：胎土からみて東海村周辺産か？
- 5 出土位置：1 溝 注記：1 区 材質：土器 器種：内耳土鍋 残存：内耳部 法量：— 色調：外面黒褐色，内面明褐色 胎土：細砂（透，角閃石・輝石類） 特徴：—
- 6 出土位置：1 溝 注記：瓦 1 材質：瓦 器種：丸瓦 残存：破片 法量：厚 1.8 色調：橙色，暗褐色 胎土：砂（白褐多，透，白透，灰少） 特徴：凸面ナデ。凹面布目痕（紐圧痕あり）。側面および凹面側端部ヘラ削り。
- 7 出土位置：1 溝 注記：1 区 材質：鉄製品 器種：不明 残存：— 法量：重量 3.9g
- 8 出土位置：1 溝 注記：2 区 材質：石 器種：砥石 残存：破片 法量：重量 66.2g 色調：白褐色 特徴：使用面 3 面（A～C）備考：日立産結晶片岩か
- 9 出土位置：1 溝 注記：S1 材質：石 器種：茶臼（下臼） 残存：縁辺部 10% 法量：— 色調：灰褐色，外面灰色 特徴：火を受けているか？ 外面に整形時の細かい凸凹残る。備考：砂岩か
- 10 出土位置：1 溝 注記：S3 材質：石 器種：敲石 残存：完形 法量：長 16.1，幅 8.2，厚 6.7，重量 1335.2g 色調：灰色 特徴：平坦面の縁辺部に A～C の敲打痕がみられる。備考：砂岩か
- 11 出土位置：1 溝 注記：S5 材質：石 器種：台石 残存：大きく破損 法量：重量 4544g 色調：灰色 特徴：敲打痕 A は全体的に表面が荒れており，ところどころに径 3～5 mm ほどの浅い凹みができている。備考：砂岩か
- 12 出土位置：1 溝 注記：I 1 材質：鉄滓 種類：鍛冶滓（椀形滓） 残存：破片 法量：重量 89.4g 特徴：椀形滓の下部破片
- 13 出土位置：1 溝 注記：3 区 材質：炉壁 残存：炉壁内壁破片 法量：重量 76.2g 特徴：炉壁と思われる。内面はガラス質滓を主とし，鉄小塊が木炭片などを若干付着する。鑄造炉の破片か？
- 14 台帳：1 溝 3 区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 100% 法量：高（1.8），底径 7.0～7.4 色調：外面にぶい赤橙～にぶい橙色。内面黄橙色。胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラ削り。内面ヘラナデ。使用痕：外面器面が被熱している。備考：—

(4) 地下式坑

第 1 号地下式坑



写真 2 堀口遺跡第 34 次調査区第 2 号土坑人骨出土状況

遺構 第 1 号地下式坑は第 1 号溝跡と重複する。第 1 号溝跡の覆土上面では第 1 号地下式坑の掘り込みは見られなかったが，掘り込み作業を進めて行くと，溝覆土中層ぐらゐから第 1 号地下式坑の掘り込みが現れてきたので，おそらく溝跡がやや埋まった段階で地下式坑が掘られたものと思われる。玄室部は調査区外のため竪穴部のみ調査にとどまる。竪穴部床面は確認面から深さ 1.5m を測る。GH 土層断面をみると，おそらく第 4 層が天井部崩落土になるのであろう。遺物は地下式坑天井崩落後の覆土上層から椀形滓（12）が出土しているのみである。地下式坑の年代は溝がやや埋まった段階で掘り込まれていると思われるので，16 世紀頃に位置づけられるのであろう。

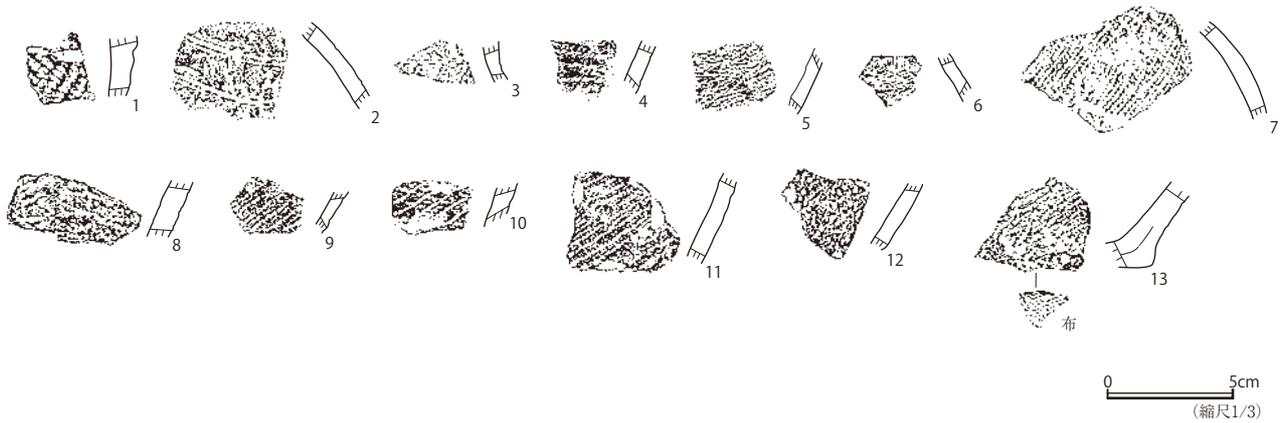
(5) 土坑

土坑は 3 基確認された。第 1・3 号土坑は円形の土坑であり，遺物がなく時期不明である。第 2 号土坑は，形状からみて A・B の二つの土坑が重複していると思えたが，2 A 土坑の東側から人の頭蓋骨及び歯の一部が出土したため，当土坑が墓壙であることがわかった。

(6) 調査区出土遺物

第 91 図

- 1 出土位置・注記：1 溝 3 区 時代時期：縄文時代中期（加曾利 E 式）カ 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文
- 2 出土位置・注記：1 溝 1 区 時代時期：弥生時代中期（足洗式）器種：壺形土器カ 文様：沈線文（半截竹管），付加条縄文（R-S）カ
- 3 出土位置・注記：1 溝 3 区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S）



第91図 堀口遺跡第34次調査区出土遺物(2)

- 4 出土位置・注記:1溝3区 時代時期:弥生時代中期 器種:壺形土器カ
 文様:撚糸文カ 備考:器内面磨き,器外面一部剥落
- 5 出土位置・注記:1溝3区 時代時期:弥生時代中・後期 器種:
 壺形土器カ 文様:付加条縄文(R-S,L-Z)カ 備考:器内面全面剥落
- 6 出土位置・注記:1溝3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:
 壺形土器カ 文様:櫛描文(6本)
- 7 出土位置・注記:1溝1区 時代時期:弥生時代後期カ 器種:壺
 形土器 文様:付加条縄文(LR+R)
- 8 出土位置・注記:1溝3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:
 壺形土器カ 文様:付加条縄文(R×R,L×L)カ
- 9 出土位置・注記:1溝1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:
 壺形土器カ 文様:付加条縄文(R×R)
- 10 出土位置・注記:1溝1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式)
 器種:壺形土器カ 文様:付加条縄文(R×R,L×L) 備考:器外
 面一部剥落
- 11 出土位置・注記:— 時代時期:弥生時代後期 器種:壺形土器
 文様:付加条縄文(LR+2R)
- 12 出土位置・注記:1溝3区 時代時期:弥生時代後期 器種:壺形
 土器カ 文様:単節斜縄文(LR)カ
- 13 出土位置・注記:1溝1区 時代時期:弥生時代中・後期 器種:
 壺形土器 文様:付加条縄文(LR+R)カ,底面布目痕

5 高野富士山遺跡第14次調査報告

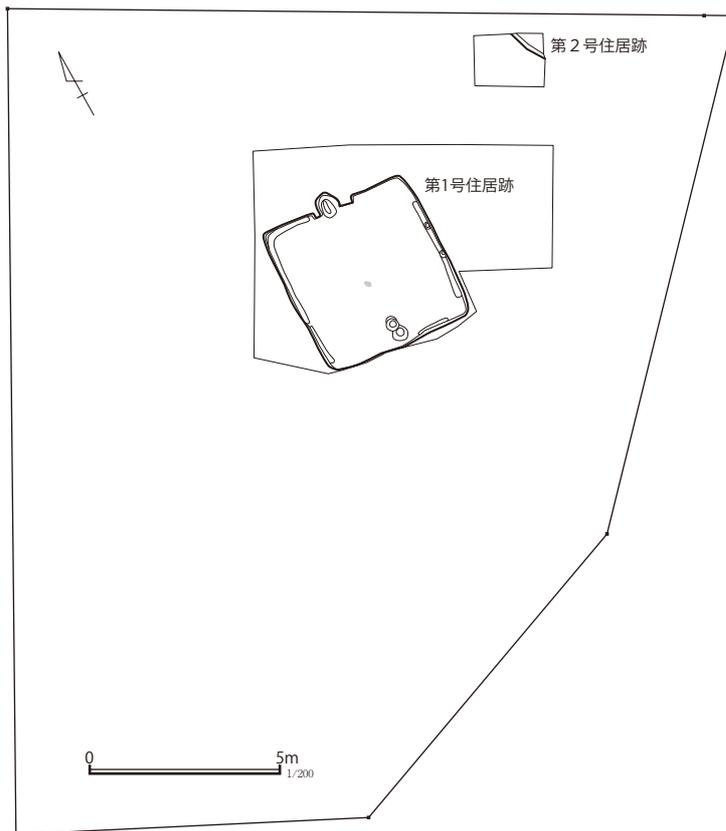
(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市高野字富士山 1695 番 6
期間 / 令和 2 年 8 月 4 日～ 28 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 37 m² 時代 / 平安 遺構 / 竪穴住居跡 2 基 (奈良・平安時代)

調査地は, 新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し, 平坦な地形を呈する。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 13 次調査) がなされていたため遺構の配置はおおよそ予想通りであった。以下, 簡単に調査の経過を記す。

8 月 4 日: 調査区設定。重機による表土除去。

8 月 6 日: 遺構確認, 掘り込み開始。 8 月 12 日: 図面・写真による記録作業開始。 8 月 19 日: 第 1 号住居跡全体図作成 8 月 28 日: 現場撤収作業。



第 93 図 高野富士山遺跡第 14 次調査区

(2) 住居跡

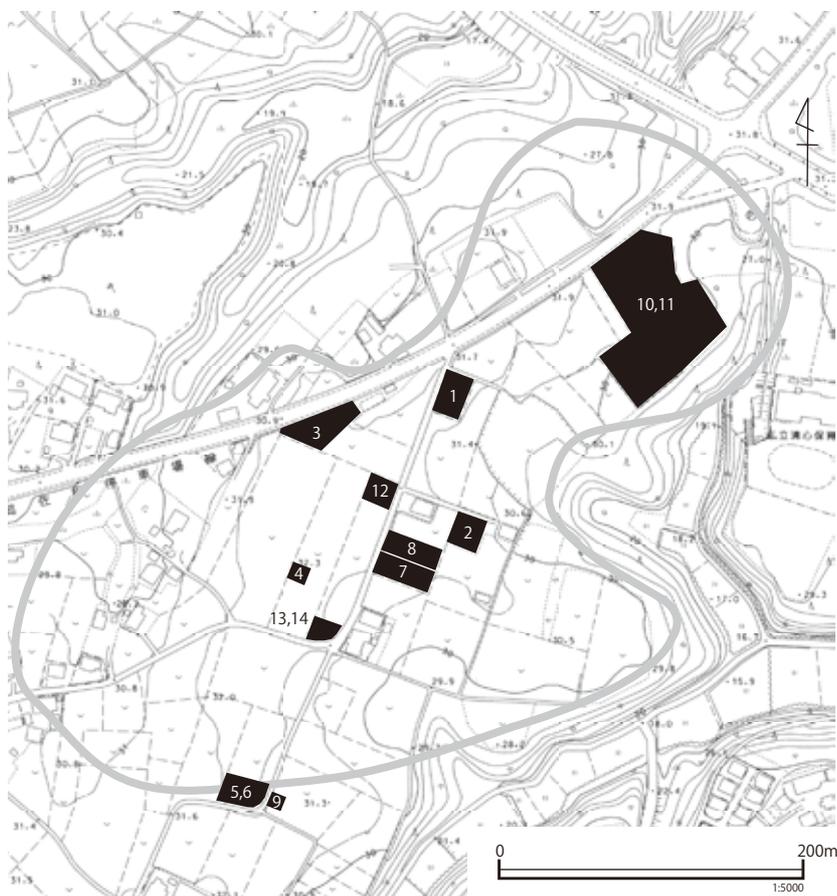
第 1 号住居跡

遺構 当住居跡の主軸方向は, N-4°-W を測る。竪穴部は, 4.1 × 4.1 m, 面積 16.8 m² で, 形状は正方形である。壁高は東壁 0.2 m, 西壁 0.1 m, 南壁 0.1 m, 北壁 0.2 m であり, 壁周溝は断続的にめぐる。支柱穴はみられないが, 南壁中央部付近に出入口ピットが存在する。床は壁際を除く部分が硬化し, 床中央部に 20cm × 10cm ほどの焼土面が形成されていた。竪穴部覆土はブロック土を含む褐色土が堆積しており, 人為的埋土かもしれない。

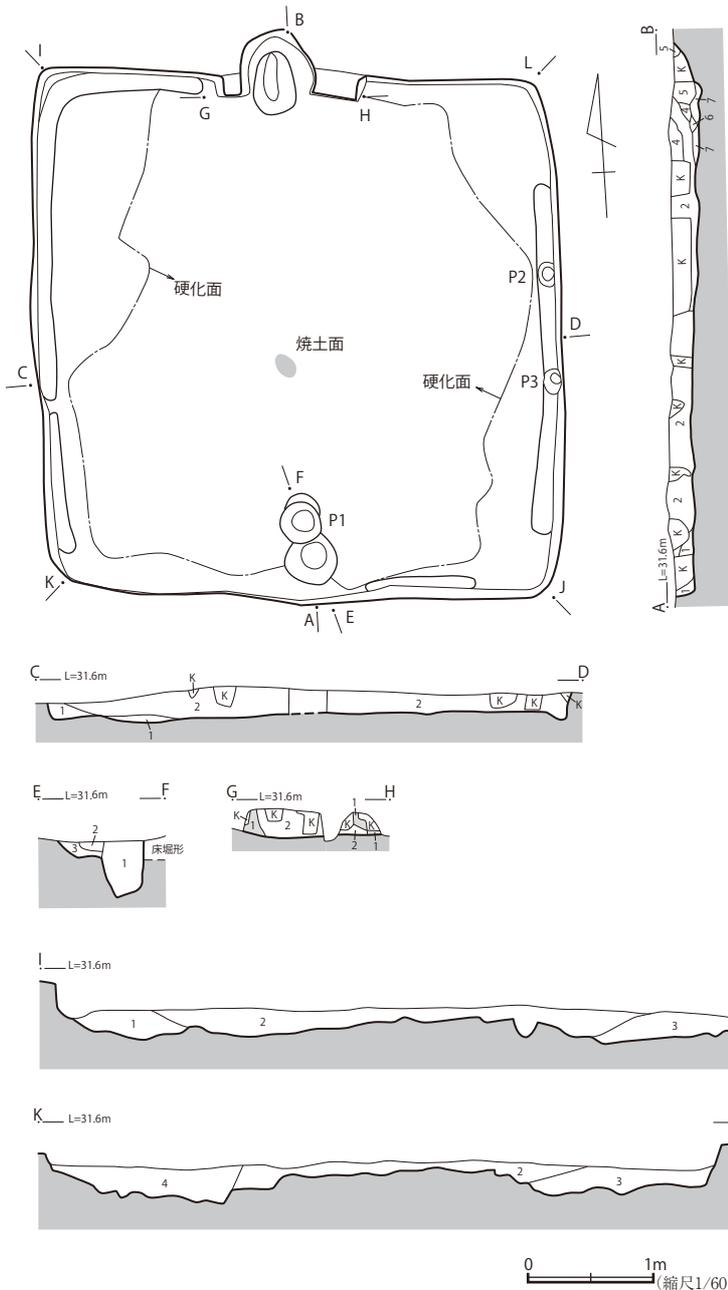
竈の残りは良くなく, 竈内床面が若干浅くくぼんでいた。

住居掘形は, EF・IJ・KL 土層断面部で確認し, 住居外周をやや深く掘り込むタイプと思われる。

遺物出土状況 当住居跡に伴う可能性のある遺物は, 竈内出土の土師器甕 (12), 北西隅出土の土師器甕 (11), 出入口ピット



第 92 図 高野富士山遺跡の調査地点 (数字は調査次数)



土層説明

AB・CD 土層断面

- 1 明褐色 (ローム粒多量含む)
- 2 褐色 (ローム粒・ローム小ブロック含む)
- 3 褐色 (ロームブロック多量含む 焼土粒少量含む 締り有り 住居床面)
- 4 明褐色 (白褐色粘土ブロック多量含む 焼土粒少量含む)
- 5 明褐色 (焼土粒・ローム粒多量含む)
- 6 明褐色 (焼土粒含む)
- 7 黒褐色 (ローム小ブロック含む 白褐色粘土粒 焼土粒)

EF 土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粒やや多量含む ローム小ブロック含む)
- 2 褐色 (ローム粒含む 炭化物粒少量含む)
- 3 明褐色 (ロームブロック含む ローム小ブロック多量含む)

GH 土層断面

- 1 白褐色 (カマド粘土)
- 2 明褐色 (カマド粘土の崩壊土 ローム粒・焼土粒含む)

IJ・KL 土層断面

- 1 明褐色 (ローム小ブロック多量含む 焼土粒含む 白褐色粘土混じる)
- 2 黄褐色 (ロームブロック多量含む 暗褐色土混じる 非常に締り有り)
- 3 明褐色 (ロームブロック含む ローム粒多量含む)
- 4 褐色 (ローム粒多量含む ロームブロック少量含む)

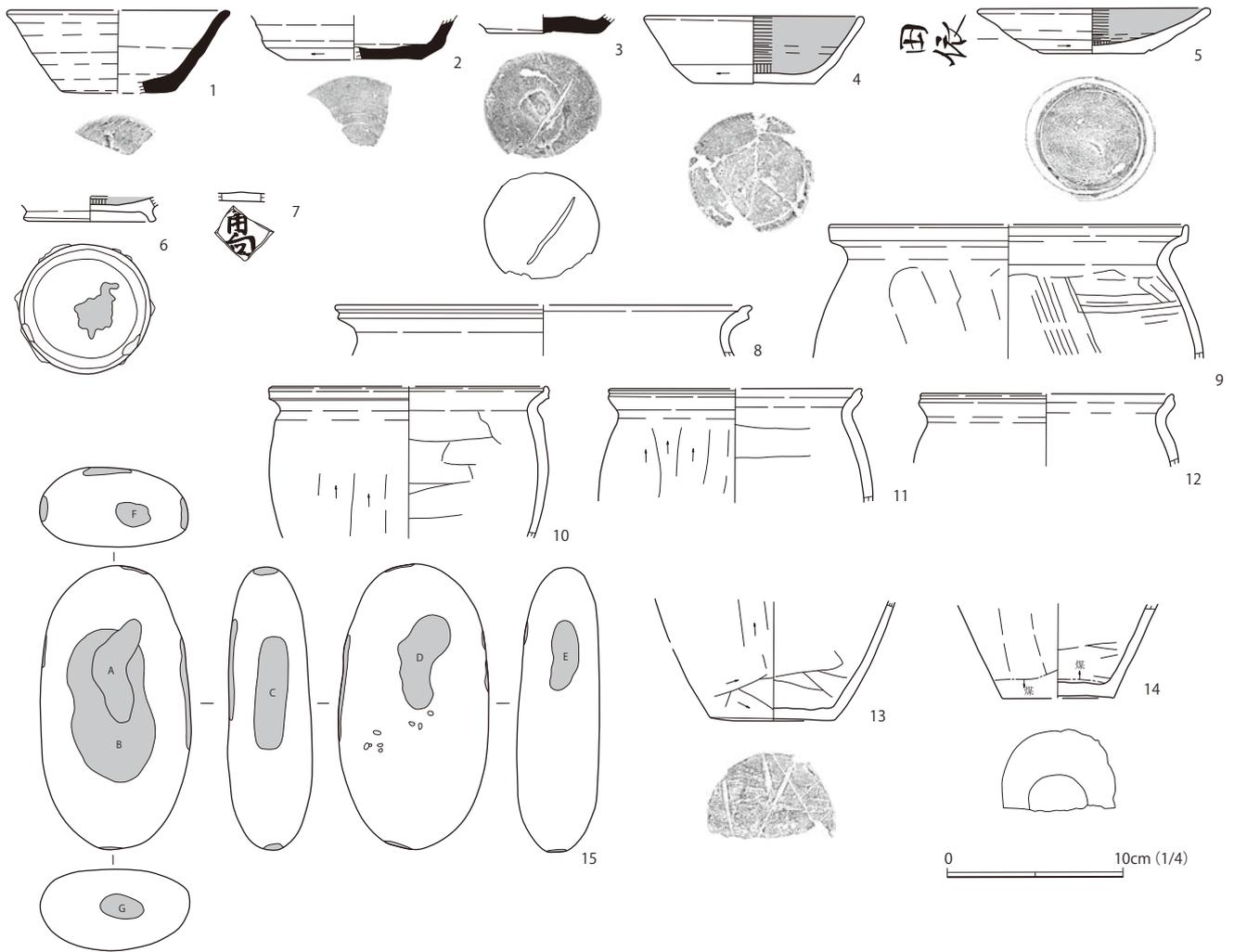
第 94 図 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 1 号住居跡

トの西側から出土した須恵器杯 (1), 南東隅出土の敲石 (15) がある。住居北西隅出土の土師器杯 (4) 及び北東隅からまとまって出土した 5・6・8～10・13 は、いずれも破損品であり、当住居跡に廃棄された遺物と思われる。したがって、墨書「田依」をもつ土師器皿 (5) は他の住居から捨てられた遺物なのだろう。須恵器杯 (1) の年代からみて当住居跡の廃絶は 9 世紀前半と思われる。床面から出土している土師器杯 (4)・皿 (5) の特徴からみると 9 世紀第 2 四半期廃絶の可能性が高いといえよう。

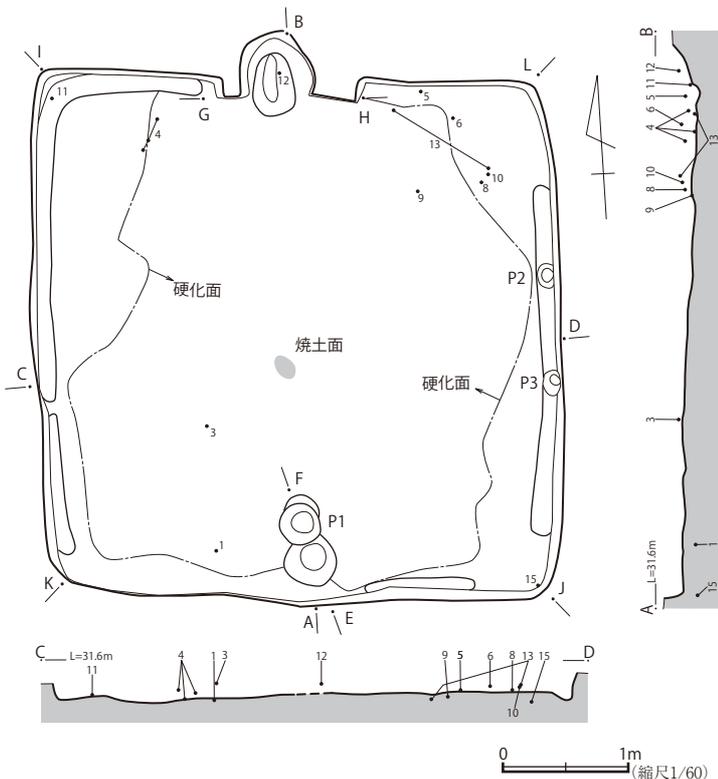
遺物説明

第 95 図

- 1 注記:P18 材質:須恵器 器種:杯 残存:体部 35%, 底部 20% 法量:口径 (12.2), 器高 4.7, 底径 (6.4) 色調:灰色 胎土:礫 (白, 灰少), 砂 (白多, 灰少, 透少), 骨針微量 技法等:底部外面へラ記号。外面ところどころ煤付着。備考:木葉下窯産か
- 2 注記:4 区① 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部 25% 法量:底径 (9.9) 色調:灰色, 底部外面黒灰褐色 胎土:細砂 (白, 透) 技法等:外面底部および二次底部面回転へラ削り。備考:産地不明。原の寺窯付近産か。
- 3 注記:P21 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部 法量:底径 6.4 色調:灰色 胎土:礫 (白多, 灰少), 骨針微量 技法等:回転へラ切り未調整。底部外面へラ記号「一」。備考:木葉下窯産か
- 4 注記:P26・28・32 材質:土師器 器種:杯 残存:口縁部 40% 欠失 法量:口径 12.1, 器高 3.9, 底径 6.8 色調:外面褐色, 内面黒色 胎土:砂 (透多, 白透少, 白褐少) 技法等:外面体部下端・底部回転へラ削り。底部中央糸切痕か。内面へラミガキ(底部 1 方向)・黒色処理。
- 5 注記:P16 材質:土師器 器種:無台皿 残存:口縁部 25% 欠失 法量:口径 12.8, 器高 2.6, 底径 6.0 色調:外面明褐色・褐色, 内面黒色 胎土:雲母片少 技法等:外面体部下端および底部回転へラ削り。内面へラミガキ(底部 1 方向)・黒色処理。体部外面横位墨書「田依」。
- 6 注記:P10 材質:土師器 器種:有台皿? 残存:高台径 7.0 色調:外面褐色, 内面黒色 胎土:砂 (透少) 技法等:底部外面回転へラ削り。底部外面に敲打痕状の痕跡 A がみられる。
- 7 注記:4 区② 材質:土師器 器種:不明 残存:底部中央破片 法量:— 色調:外面褐色, 内面黒色 胎土:黒雲母少 技法等:底部内面 1 方向へラミガキ・黒色処理。底部外面回転へラ削り, 墨書「角向」か。
- 8 注記:P3 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁部 10% 法量:口径 (23.3) 色調:暗褐色 胎土:砂 (白



第95図 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡出土遺物



第96図 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡遺物出土状況

透多, 白), 白雲母多 技法等: 口縁部ヨコナデ 備考: 新治窯付近産

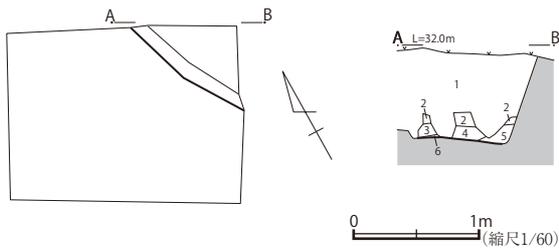
9 注記: P7, P8, 1区, ベルト 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 口縁部20% 法量: 口径 (20.1) 色調: 褐色 胎土: 礫 (白透少) 技法等: 肩部外面斜方向ナデ。肩部内方向および横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

10 注記: P2, P15, 1区 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 上半部 10% 法量: 口径 (15.5) 色調: 暗褐色, 断面褐色 胎土: 礫 (灰少), 砂 (透) 技法等: 胴部外面縦方向ヘラ削り。胴部内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

11 注記: P23 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 口縁部 30% 法量: 口径 (14.1) 色調: 暗褐色 胎土: 砂 (透) 技法等: 肩部外面縦方向ヘラ削り。肩部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

12 注記: カマド, P51 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 口縁部 20% 法量: 口径 (14.1) 色調: 橙褐色 胎土: 礫 (白, 灰少), 砂 (透) 技法等: 口縁部ヨコナデ

13 注記: P1・13, ベルト 1・3, 1区 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 胴部下半 15%, 底部 法量: 底径 7.0 色調: 暗褐色 胎土: 礫 (白少, 灰少), 砂 (透, 白少, 灰少), 骨針微量 技法等: 胴部外面縦方向ヘラ削り後下端部横方向ヘラ



土層説明

AB 土層断面

- 1 攪乱
- 2 茶褐色 (ローム粒少量混じる)
- 3 黄褐色 (ローム粒多量混じる 炭化粒・粘土小ブロック少量混じる)
- 4 黄茶褐色 (ローム粒多量混じる 焼土・炭化粒・粘土小ブロック少量混じる)
- 5 黄茶褐色 (ローム粒多量混じる 焼土・炭化粒少量混じる)
- 6 黄褐色 (ローム層)

第 97 図 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 2 号住居跡

削り。胴部内面横方向ナデ。底部外面へラ削り後木葉痕。

14 注記：掘形 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 70% 法量：底径 (6.2) 色調：褐色，黒色 胎土：礫 (白，白透)，白雲母 技法等：内外面ナデ (底部外面は未調整)。胴部内面と底部外面が煤ける。底部外面中央が円形に煤けておらず，支脚と接していた部分かもしれない。

備考：新治窯付近産

15 注記：S1 材質：石 (砂岩) 器種：敲石 残存：完形 法量：16.2 × 8.5 × 4.6，重量 990.8g 色調：灰色 特徴：平坦面に浅い敲打痕 A・D がみられ，側面に深い敲打痕 C・E・F・G がみられる。C は敲打痕が磨滅する。B はやや磨滅する。D の下部に刺突状の凹みが見られる。



第 98 図 高野富士山遺跡第 14 次調査区出土遺物

第 2 号住居跡

遺構 住居西壁の一部を調査したのみであり，住居の規模や構造等は不明である。遺物も出土していない。竪穴部覆土も攪乱が深くまで入るため不明瞭である。

(3) 調査区出土遺物

遺物説明

第 98 図

1 注記：表土 材質：須恵器 器種：蓋 残存：鈕部 (周縁部ところどころ欠ける) 法量：鈕径 3.3，鈕高 0.6 色調：灰色 胎土：砂 (白，白透)，骨針少 技法等：天井部外面回転へラ削り。備考：木葉下窯産か



1 堀口遺跡第31次調査区



2 石高遺跡第13次調査区



3 峪遺跡第2次調査区



4 浅井内遺跡第4次調査区



5 堀口遺跡第33次調査区



6 相対遺跡第4次調査区



7 高野富士山遺跡第13次調査区



8 市毛下坪遺跡第20次調査区



9 三反田古墳群第4次調査区



10 三反田古墳群第4次調査区第5トレンチ14号墳外側周溝

図版 2 試掘調査 (2)



11 三反田古墳群第 5 次調査区



12 三反田古墳群第 5 次調査区 14 号墳周溝断面



13 磯崎東古墳群第 13 次調査区



14 中曽根遺跡第 2 次調査区



15 平井遺跡第 4 次調査区



16 松原遺跡第 8 次調査区



17 岡田遺跡第 37 次調査区



18 東原遺跡第 10 次調査区



19 東石川新堀遺跡第 5 次調査区



20 市毛上坪遺跡第 31 次調査区



21 部田野富士山遺跡第1次調査区



22 老ノ塚古墳群第1次調査区



23 老ノ塚古墳群第2次調査区



24 上馬場遺跡第6次調査区



25 飯塚前遺跡第3次調査区



26 平井遺跡第6次調査区



27 市毛上坪遺跡第32次調査区



28 平井遺跡第7次調査区



29 寄居新田古墳群第5次調査区



30 岡田遺跡第38次調査区

図版 4 発掘調査 (1)



31 三反田新堀遺跡第 20 次調査区



32 三反田新堀遺跡第 20 次調査区遠景



33 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竪穴遺構遺物出土状況



34 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竪穴遺構完掘



35 市毛上坪遺跡第 30 次調査区



36 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 1 号住居跡



37 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 2 号住居跡



38 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 3 号住居跡



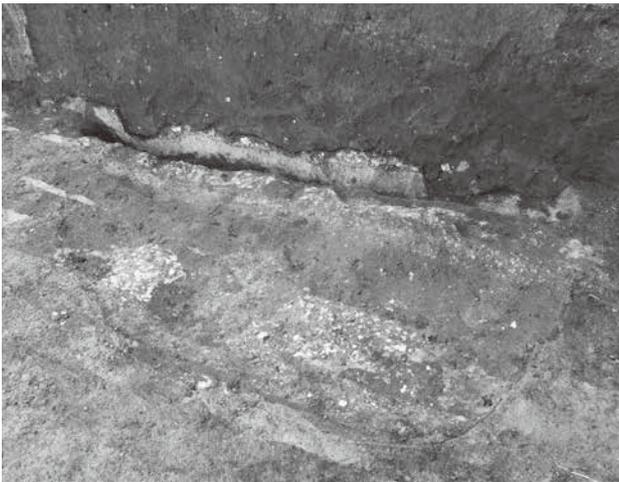
39 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 4 号住居跡



40 市毛上坪遺跡第30次調査区第1号土坑



44 堀口遺跡第32次調査区第1号住居跡



41 市毛上坪遺跡第30次調査区第2号土坑



45 堀口遺跡第32次調査区第1号住居跡竈



42 市毛上坪遺跡第30次調査区第3号土坑



46 堀口遺跡第32次調査区第1号住居跡竈掘形



43 堀口遺跡第32次調査区



47 堀口遺跡第32次調査区第2号住居跡

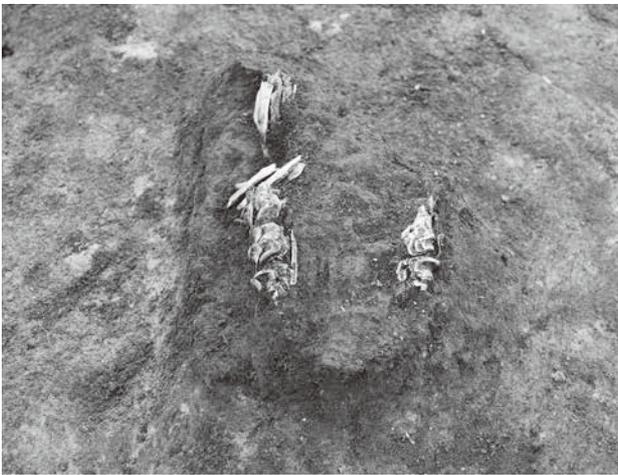
図版 6 発掘調査 (3)



48 堀口遺跡第 32 次調査区第 1・2 号住居跡遺物出土状況



49 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡勾玉出土状況



50 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡馬歯 (上顎骨) 出土状況



51 堀口遺跡第 34 次調査区



52 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号住居跡



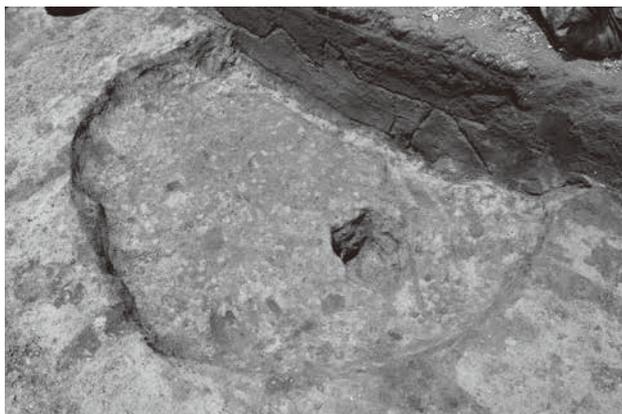
53 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号溝跡



54 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号溝跡小皿・台石出土状況



55 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号地下式坑



56 堀口遺跡第34次調査区第1号土坑



60 高野富士山遺跡第14次調査区第2号住居跡



57 堀口遺跡第34次調査区第2号土坑人骨出土状況



58 高野富士山遺跡第14次調査区



59 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡

報告書抄録

フリガナ	レイワニネンドヒタチナカシナイイセキハクツツチヨウサホウコクシヨ
書名	令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	稲田健一, 田中美零, 佐々木義則
編集機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根 3499 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市東石川 2 丁目 10 番 1 号
発行年	2021 年 3 月 14 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	遺跡番号						
ミタンダシンボリ 三反田新堀	ひたちなか市 三反田	08221	109	36° 22' 22"	140° 33' 1"	21.4m	202001	32 m ²	20 次調査
ホリグチ 堀口	ひたちなか市 堀口	08221	004	36° 23' 23"	140° 30' 33"	25.7m	202001 ~ 202002	259 m ²	31 次調査
				36° 23' 29"	140° 30' 37"	25.3m	202002 ~ 202003	39 m ²	32 次調査
				36° 23' 28"	140° 30' 42"	22.9m	202005	23 m ²	33 次調査
				36° 23' 22"	140° 30' 44"	25.1m	202006 ~ 202007	47 m ²	34 次調査
				36° 23' 16"	140° 30' 43"	24.2m	202009	19 m ²	35 次調査
イチゲカミツボ 市毛上坪	ひたちなか市 市毛	08221	131	36° 23' 52"	140° 29' 53"	27.1m	202001 ~ 202002	77 m ²	30 次調査
				36° 23' 58"	140° 30' 3"	27.7m	202009	26 m ²	31 次調査
				36° 23' 58"	140° 30' 4"	28.0m	202010	28 m ²	32 次調査
イシダカ 石高	ひたちなか市 武田	08221	126	36° 23' 7"	140° 31' 9"	24.0m	202001 ~ 202002	41 m ²	13 次調査
ハザマ 峪	ひたちなか市 三反田	08221	107	36° 22' 12"	140° 33' 13"	19.7m	202002	54 m ²	2 次調査
アサイナイ 浅井内	ひたちなか市 道メキ	08221	299	36° 21' 3"	140° 35' 59"	25.1m	202003	45 m ²	4 次調査
アイタイ 相対	ひたちなか市 金上	08221	080	36° 22' 29"	140° 32' 33"	22.9m	202005	67 m ²	4 次調査
コウヤフジヤマ 高野富士山	ひたちなか市 高野	08221	062	36° 25' 44"	140° 33' 12"	31.6m	202006	28 m ²	13 次調査
							202008	37 m ²	14 次調査
イチゲシモツボ 市毛下坪	ひたちなか市 市毛	08221	130	36° 23' 32"	140° 30' 17"	26.3m	202006	33 m ²	20 次調査
ミタンダコフンゲン 三反田古墳群	ひたちなか市 三反田	08221	018	36° 21' 53"	140° 33' 32"	20.1m	202006 ~ 202007	48 m ²	4 次調査
				36° 21' 52"	140° 33' 33"	20.1m	202007 ~ 202008	30 m ²	5 次調査
イソザキヒガシコフンゲン 磯崎東古墳群	ひたちなか市 磯崎町	08221	240	36° 22' 48"	140° 37' 23"	24.3m	202007	34 m ²	13 次調査
ナカソネ 中曽根	ひたちなか市 田彦	08221	161	36° 25' 13"	140° 30' 43"	28.4m	202007	146 m ²	2 次調査
ヒライ 平井	ひたちなか市 金上	08221	083	36° 22' 33"	140° 32' 24"	23.2m	202007 ~ 202008	95 m ²	4 次調査
							202009	120 m ²	5 次調査
							202011	36 m ²	7 次調査
							202010	33 m ²	6 次調査
マツバラ 松原	ひたちなか市 田彦	08221	037	36° 24' 34"	140° 30' 49"	26.4m	202008	31 m ²	8 次調査
オカダ 岡田	ひたちなか市 三反田	08221	039	36° 22' 9"	140° 32' 39"	21.6m	202008	49 m ²	37 次調査
				36° 22' 7"	140° 32' 36"	21.1m	202012	256 m ²	38 次調査
ヒガシハラ 東原	ひたちなか市 高野	08221	061	36° 25' 58"	140° 33' 1"	31.6m	202008	45 m ²	10 次調査
ヒガシシカワニイボリ 東石川新堀	ひたちなか市 東石川	08221	068	36° 24' 32"	140° 31' 51"	29.5m	202009	388 m ²	5 次調査
ヘタノフジヤマ 部田野富士山	ひたちなか市 部田野	08221	295	36° 21' 54"	140° 35' 11"	24.0m	202009	30 m ²	1 次調査
オイノツカコフンゲン 老ノ塚古墳群	ひたちなか市 稲田	08221	027	36° 26' 23"	140° 32' 8"	32.7m	202009 ~ 202010	48 m ²	1 次調査
				36° 26' 23"	140° 32' 7"	32.7m	202009 ~ 202010	50 m ²	2 次調査
カミババ 上馬場	ひたちなか市 津田	08221	053	36° 24' 3"	140° 29' 35"	26.8m	202010	40 m ²	6 次調査
イヅカマエ 飯塚前	ひたちなか市 三反田	08221	072	36° 22' 0"	140° 32' 57"	21.3m	202010	19 m ²	3 次調査
ヨリイシンデンコフンゲン 寄居新田古墳群	ひたちなか市 田彦	08221	159	36° 25' 16"	140° 30' 53"	30.7m	202011	93 m ²	5 次調査

令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

令和3(2021)年3月14日発行

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発行 ひたちなか市教育委員会

〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川 2-10-1

TEL029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL029-276-8311

印刷 有限会社 豊印刷

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島 1丁目 20-8